

平成31年・令和元年(2019年)
全国災害時気象概況

令和2年3月

気象庁

— 目 次 —

1 平成31年・令和元年(2019年)の気象災害	1
1-1 気象の特徴	1
1-2 主な気象災害	2
資料1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料	21
資料1-2-2 平成31年・令和元年(2019年)に発生した主な竜巻等の突風...	31
資料1-2-3 平成31年・令和元年(2019年)激甚災害指定状況一覧表.....	32
2 平成31年・令和元年(2019年) 台風の概要	34
2-1 平成31年・令和元年(2019年)に発生した台風.....	34
資料2-1-1 台風発生数一覧表	35
資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表	36
資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表	37
資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表	38
資料2-1-5 平成31年・令和元年(2019年)に発生した台風の一覧表	39
2-2 平成31年・令和元年(2019年)に日本に影響した主な台風.....	40
資料2-2-1 平成31年・令和元年(2019年)に日本に影響した台風の概要表 .	44
資料2-2-2 平成31年・令和元年(2019年)に発生した台風の経路図	45
3 平成31年・令和元年(2019年)の天気概況	50

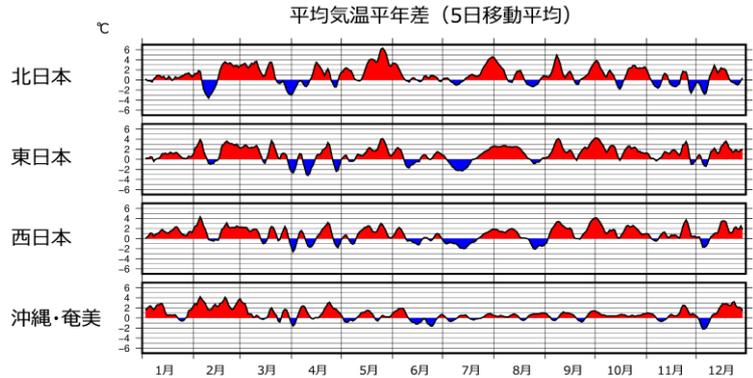
本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁予報部において取りまとめたものである。

1 平成 31 年・令和元年(2019 年)の気象災害

1-1 気象の特徴

○ 気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的にかなり高かった

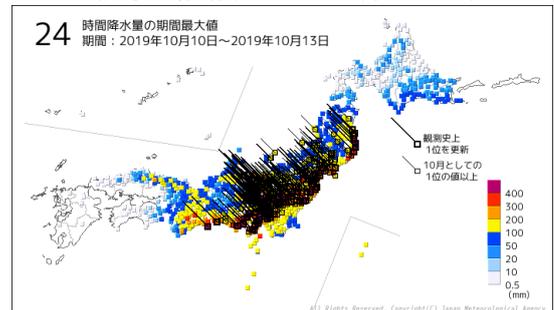
冬(2018年12月～2019年2月)は、東日本以西では暖冬となり、西日本日本海側では記録的な少雪となった。夏は、気温の低い時期もあったが、西日本を除き夏の平均気温は高かった。春と秋は、暖かい空気に覆われ、全国的に気温が高かった。季節平均気温は、冬の沖縄・奄美(平年差: +1.8℃)、秋の東日本(平年差: +1.6℃)と西日本(平年差: +1.4℃)で、1946年の統計開始以来最も高くなった。年を通して気温の高い状態が続いたため、年平均気温は全国的にかなり高く、東日本では平年差+1.1℃と1946年の統計開始以来、2018年と並び最も高くなった。



○ 令和元年房総半島台風(台風第15号)、令和元年東日本台風(台風第19号)の接近・通過に伴い、北・東日本で記録的な暴風、大雨となった

9月上旬に房総半島台風が関東地方に上陸し、千葉(千葉県)で57.5m/sの最大瞬間風速を観測するなど、千葉県を中心に記録的な暴風となった。10月中旬には、東日本台風が伊豆半島に上陸し、関東地方から東北地方を北上したため、箱根(神奈川県)で日降水量が歴代の全国1位となるなど、東日本から東北地方にかけての広い範囲で記録的な大雨となり、河川の氾濫が相次ぐなど大きな被害が発生した。

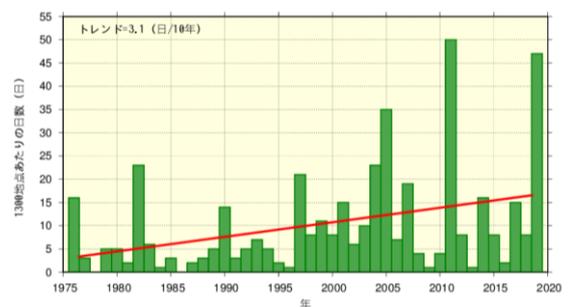
24時間降水量の期間最大値(10月10日～10月13日)
記号は観測史上または10月として1位



○ 夏から秋にかけて各地で記録的な大雨となった

夏から秋にかけては、10月の東日本台風による大雨の他にも、各地でしばしば大雨となった。7月は梅雨前線の影響により九州南部で、梅雨前線や台風第5号の影響により九州北部地方で、8月は前線の影響により九州北部地方で、10月は低気圧の通過により関東地方から東北地方で、それぞれ記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など大きな被害が発生した。アメダスの日降水量400mm以上の年間日数は、2011年に次いで2番目に多くなった(統計開始は1976年)。

アメダス日降水量400mm以上の年間日数
(アメダス1300地点あたりに換算した日数)



1-2 主な気象災害

ここでは、平成 31 年・令和元年(2019 年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生期日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述する。また、災害番号に続けて、災害期日:地域、()内に災害の種別、< >内に気圧配置等の気象状況を記す。主な気象災害の一覧を表 1.1 に示す。

なお、被害の具体的な数値は、以下の情報を参考に記載した。

- ・内閣府、総務省消防庁、国土交通省による被害状況のとりまとめ資料
- ・国や都道府県の防災機関等から被害状況を入手し、気象庁でとりまとめた資料
- ・気象庁が行った突風の被害状況等調査報告

表 1.1 主な気象災害の一覧表

災害番号	災害期日	地域	災害の種別	気象状況
(1)	5 月 13 日～5 月 21 日	沖縄地方 近畿地方	大雨	前線
(2)	5 月 27 日～7 月 23 日	全国	大雨、暴風、高波	梅雨前線、台風第 3 号、第 5 号
(3)	7 月 26 日～7 月 28 日	近畿地方 東日本 東北地方	大雨	台風第 6 号
(4)	8 月 5 日～8 月 7 日	西日本	大雨、暴風、高波	台風第 8 号
(5)	8 月 13 日～9 月 23 日	全国	大雨、暴風、高波、 突風	前線、令和元年房総半島台風 (台風第 15 号)、台風第 10 号、 第 13 号、第 17 号
(6)	9 月 30 日～10 月 5 日	沖縄・奄美 西日本	大雨、暴風、高波	台風第 18 号
(7)	10 月 10 日～10 月 26 日	全国	大雨、暴風、高波、 高潮、突風	令和元年東日本台風(台風第 19 号)、低気圧、台風第 20 号、第 21 号

(1)5月13日～5月21日：沖縄地方、近畿地方(大雨)＜前線＞

5月13日から21日にかけて、南西諸島付近に前線が停滞し、20日から21日にかけてはこれとは別に寒冷前線が日本付近を通過した。このため、大気の状態が不安定となり、全国各地で大雨となった。13日から19日は、停滞前線の影響により、沖縄地方や九州南部を中心に大雨となり、日降水量が400ミリを超える大雨となった所があった。また、20日から21日は、寒冷前線の通過により、西日本から北日本の広い範囲で大雨となり、各地で日降水量が100ミリを超える大雨となった。これらの前線の影響により、土砂災害、浸水害が発生し、人的被害や住家被害があった。(被害の状況は気象庁調べによる)

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

5月13日

沖縄県与那国町所野(トコロ) 441.5 ミリ

5月18日

鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ) 439.5 ミリ 宮崎県延岡市北方(キタカ) 170.5 ミリ

5月19日

鹿児島県肝付町内之浦(ウチウラ) 374.0 ミリ 宮崎県日南市深瀬(フカセ) 199.0 ミリ
高知県津野町船戸(フナト) 105.5 ミリ

5月20日

高知県佐川町佐川(サカワ) 264.5 ミリ 徳島県海陽町海陽(カイヨウ) 238.5 ミリ
宮崎県宮崎市宮崎(ミヤザキ) 157.5 ミリ 大分県佐伯市佐伯(サイイ) 123.5 ミリ
三重県大台町宮川(ミヤガワ) 114.0 ミリ 沖縄県粟国村粟国(アグニ) 102.5 ミリ

5月21日

静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 395.5 ミリ 山梨県南部町南部(ナンブ) 193.5 ミリ
神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ) 181.5 ミリ 愛知県新城市作手(ツクデ) 181.5 ミリ
北海道浦河町中杵臼(ナカキネウス) 163.5 ミリ 三重県鳥羽市鳥羽(トバ) 153.0 ミリ
茨城県高萩市大能(オオノウ) 149.5 ミリ 栃木県高根沢町高根沢(タカネザワ) 135.5 ミリ
福島県いわき市小名浜(オナハマ) 135.0 ミリ 東京都利島村利島(トシマ) 116.5 ミリ
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ) 109.0 ミリ 和歌山県古座川町西川(ニシカワ) 104.0 ミリ
岩手県大船渡市大船渡(オオフナト) 102.5 ミリ

(2)5月27日～7月23日：全国(大雨、暴風、高波)＜梅雨前線、台風第3号、第5号＞

5月27日から7月23日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。また、この間、6月27日から28日にかけて台風第3号が、7月18日から19日にかけて台風第5号が日本に接近した。これらの台風や前線等の影響により、各地で大雨、暴風、高波となった。

6月28日から7月5日にかけて、日本付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込み、総降水量が多い所で1000ミリを超えるなど、九州北部地方や九州南部で記録的な大雨となった。この大雨により、九州南部を中心に、死者2名、負傷者5名の人的被害のほか、多数の住家被害が発生した。(被害の状況は令和元年7月31日の内閣府とりまとめによる)

また、7月17日から22日にかけて、日本付近に停滞した梅雨前線や台風第5号の影響で暖かく非常に湿った空気が流れ込み、西日本で大雨となった。特に、九州北部地方では多い所で24時間降水量が400ミリ近くに達するなど24時間で7月の月降水量平年値を超える記録的な大雨となった。この大雨により、九州北部地方を中心に、行方不明者1名、負傷者6名の人的被害のほか多数の住家被害が発生した。(被害の状況は令和元年7月31日の内閣府とりまとめによる)

5月27日から5月28日まで

5月27日から28日にかけて、低気圧からのびる寒冷前線が西日本を通過した。28日は、別の前線が発生して大陸から西日本にのび、前線上の四国付近に低気圧が発生した。これらの影響で、沖縄・奄美や西日本を中心に雨となり、九州北部や四国地方、近畿地方では、多い所で日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

5月27日

長崎県対馬市厳原(イツハラ) 107.5 ミリ

5月28日

高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ) 113.0 ミリ 沖縄県竹富町波照間(ハテルマ) 106.5 ミリ
和歌山県田辺市栗栖川(クスガワ) 101.5 ミリ

5月29日から6月5日まで

5月29日は、前線上の低気圧、梅雨前線が北上し前線上の低気圧が九州南部を通過した。その後、5日にかけて前線は南西諸島付近に南下した。これらの影響で、沖縄・奄美を中心に雨となった。

[期間内に日降雨量100ミリ以上となった観測点なし]

6月6日から6月8日まで

6月6日から8日にかけて、前線を伴った低気圧が西日本と東日本を通過した。これらの影響で、全国的に雨となり、四国地方では多い所で日降水量200ミリを超えたほか、西日本や東日本では、多い所で日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

6月7日

高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ) 249.0 ミリ 和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン) 186.5 ミリ
熊本県多良木町多良木(タラクキ) 176.5 ミリ 静岡県御前崎市御前崎(オマエサキ) 150.0 ミリ
徳島県美波町日和佐(ヒロサ) 150.0 ミリ 山口県岩国市広瀬(ヒロセ) 148.5 ミリ
三重県志摩市阿児(アゴ) 144.0 ミリ 奈良県十津川村風屋(カゼヤ) 130.5 ミリ
東京都大島町大島北ノ山(オオシマキタノヤマ) 122.5 ミリ 広島県廿日市市廿日市津田(ハツカイチツタ) 122.0 ミリ

6月8日

鹿児島県与論町与論島(ヨロンジマ) 167.0 ミリ

6月9日から6月13日まで

6月9日から13日にかけて、南西諸島から日本の南に梅雨前線が停滞した。この間、10日には日本の南で発生した低気圧が本州南岸を通過したほか、11日には梅雨前線上に低気圧が発生し沖縄を通過した。これらの影響で、沖縄・奄美や東日本を中心に雨となり、沖縄地方では多い所で日降水量300ミリを超えたほか、東海地方や関東地方、伊豆諸島では、多い所で日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

6月9日

鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ) 118.5 ミリ

6月10日

千葉県大多喜町大多喜(オオタキ) 185.5 ミリ 沖縄県久米島町久米島(クメジマ) 169.5 ミリ
東京都大島町大島(オオシマ) 169.0 ミリ 静岡県伊豆市天城山(アマギサン) 152.5 ミリ

6月11日

沖縄県南大東村南大東(ミナダイトウ) 308.0 ミリ

6月14日から6月18日まで

6月14日は、東シナ海で梅雨前線上に低気圧が発生し、15日にかけて九州を通過した。その後、16日には、低気圧は東日本と北日本を通過し、17日にかけて千島近海へ進んだ。また、17日から18日にかけて、沖縄の南まで南下していた梅雨前線が再び北上し、南西諸島に停滞した。これらの影響で、全国的に雨となり、多い所では日降水量100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

6月14日

高知県四万十町窪川(クボカワ)	164.5 ミリ	鹿児島県屋久島町屋久島(ヤクシマ)	133.5 ミリ
沖縄県南城市糸数(イトカス)	115.5 ミリ	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	103.0 ミリ

6月15日

東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	198.0 ミリ	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	146.0 ミリ
徳島県那賀町木頭(キトウ)	125.5 ミリ	高知県馬路村魚梁瀬(イナセ)	116.5 ミリ

6月16日

新潟県村上市高根(タカネ)	137.5 ミリ	滋賀県長浜市柳ヶ瀬(ヤナガセ)	114.0 ミリ
秋田県仙北市田沢湖高原(タザワコウケン)	110.0 ミリ	富山県黒部市宇奈月(ウナヅキ)	102.0 ミリ

6月19日から6月24日まで

6月19日から24日にかけて、梅雨前線が南西諸島から日本の南に停滞し、前線上を低気圧が次々と東へ進んだ。また、日本海には低気圧が停滞した。これらの前線と低気圧や上空の寒気の影響で、沖縄・奄美や東日本を中心に雨となり、沖縄・奄美では、多い所で日降水量が200ミリを超えたほか、東日本や北日本では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

6月19日

鹿児島県喜界町喜界島(キカイジマ) 119.0 ミリ

6月20日

沖縄県粟国村粟国(アグニ) 239.5 ミリ

6月21日

鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ)	237.0 ミリ	兵庫県朝来市生野(イクノ)	110.0 ミリ
栃木県日光市今市(イマイチ)	108.0 ミリ		

6月22日

北海道白老町森野(モリノ) 145.5 ミリ

6月23日

静岡県南伊豆町石廊崎(イロウザキ) 127.5 ミリ

6月24日

静岡県掛川市掛川(カケガワ)	137.0 ミリ	東京都大島町大島(オオシマ)	103.0 ミリ
----------------	----------	----------------	----------

6月25日から6月27日まで

6月25日から27日にかけて、2つの熱帯低気圧が沖縄・奄美や九州に接近し、そのうちのひとつが27日21時に四国沖で台風第3号となった。梅雨前線は日本付近に北上し、西日本から東日本に停滞した。これらの影

響で、沖縄・奄美や西日本で雨となり、沖縄地方や九州北地方では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。このほか、27日から28日にかけて、台風第3号の影響により、九州北部地方や近畿地方、伊豆諸島で非常に強い風を観測した。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

6月26日

沖縄県国頭村国頭(ケガミ)	188.0 ミリ	長崎県五島市福江(フクエ)	132.5 ミリ
---------------	----------	---------------	----------

6月27日

徳島県上勝町福原旭(フクラアサヒ)	236.0 ミリ	高知県仁淀川町池川(イケガワ)	196.5 ミリ
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	168.0 ミリ	三重県松阪市粥見(カユミ)	120.0 ミリ
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	111.0 ミリ	愛媛県四国中央市富郷(トミサト)	104.0 ミリ
兵庫県洲本市洲本(スモト)	102.5 ミリ	長崎県小値賀町小値賀(オチガ)	101.5 ミリ
和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	100.5 ミリ		

[最大風速20メートル以上を観測した主な地点]

6月27日

和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	21.6 メートル	長崎県長崎市野母崎(ノモザキ)	20.2 メートル
--------------------	-----------	-----------------	-----------

6月28日

東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	20.2 メートル		
--------------------	-----------	--	--

6月28日から7月5日まで*

6月28日から29日にかけて、梅雨前線は西日本から東日本に停滞した。台風第3号は本州南岸を東へ進み、28日15時に日本の東で温帯低気圧となった。30日から7月3日にかけて、梅雨前線が西日本から東日本に停滞し、低気圧が前線上を東に進んだ。4日から5日にかけては、梅雨前線が九州南岸へ南下し、前線上の低気圧が九州南部・奄美地方を通過した。これらの影響でほぼ全国的に雨となり、宮崎県では28日から5日までの期間総降水量が多い所で1000ミリを超え、九州南部や九州北部地方の多くの所で期間総降水量が400ミリを超え、7月の月降水量平年値の2倍となる大雨となった所があった。また、奄美地方では、多い所で日降水量が200ミリを超え、四国地方や北陸地方、東海地方、関東甲信地方では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

6月28日

鹿児島県日置市東市来(ヒガシイチキ)	188.0 ミリ	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	175.0 ミリ
新潟県上越市川谷(カワダニ)	144.0 ミリ		

6月29日

長崎県対馬市鱈浦(ワニウラ)	104.5 ミリ		
----------------	----------	--	--

6月30日

熊本県南阿蘇村南阿蘇(ミナアソ)	273.5 ミリ	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	249.5 ミリ
長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	162.5 ミリ	鹿児島県出水市出水(イズミ)	160.0 ミリ
岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	130.5 ミリ	愛媛県西予市宇和(ウワ)	121.5 ミリ
新潟県長岡市寺泊(テラトマリ)	119.0 ミリ	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	105.5 ミリ
石川県七尾市七尾(ナナオ)	101.0 ミリ		

* 6月28日から7月5日について、資料1-2-1「主な気象災害に対応する気象資料」に天気図等を掲載している。

7月1日			
鹿児島県薩摩川内市八重山(ヤエヤマ)	314.5	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	262.0
熊本県球磨村一勝地(イチショウチ)	176.5		
7月2日			
鹿児島県錦江町田代(タシロ)	157.0	宮崎県串間市串間(クシマ)	155.5
高知県土佐清水市清水(シミス)	114.5		
7月3日			
鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府(ヨシガベツフ)	460.0	宮崎県都城市都城(ミヤコノシヨウ)	372.0
熊本県天草市牛深(ウシフカ)	178.0		
7月4日			
鹿児島県屋久島町尾之間(オノイタ)	253.5	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	135.5
和歌山県古座川町西川(ニシカワ)	113.0	東京都大島町大島(オオシマ)	105.5
愛知県豊根村茶白山(チャウスヤマ)	102.0	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	101.0
7月5日			
東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	175.0	鹿児島県瀬戸内町古仁屋(コニヤ)	126.5

7月6日から7月8日まで

7月6日から8日にかけて、梅雨前線は南西諸島から日本の南に停滞し、前線上の低気圧が日本の南を東に進んだ。これらの影響で、沖縄・奄美や、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となり、沖縄地方や伊豆諸島では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

7月6日	
東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	159.0
7月7日	
沖縄県久米島町北原(キタハラ)	120.0

7月9日から7月12日まで

7月9日は、梅雨前線が南西諸島から日本の南に停滞し、上空に寒気を伴った低気圧が四国沖に進んだ。また、9日に華中で前線上に低気圧が発生し、10日から12日にかけて日本海に進んだ。これらの影響で、全国的に雨となり、四国地方では、多い所で日降水量が200ミリを超えたほか、近畿地方や東海地方では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

7月9日			
高知県土佐清水市三崎(ミサキ)	142.0	三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	119.5
7月10日			
高知県津野町船戸(フナト)	258.5		
7月11日			
高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	192.0	和歌山県串本町潮岬(シオバサキ)	140.5
三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	108.0	徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	100.0

7月13日から7月16日まで

7月13日から16日にかけて、梅雨前線は九州から本州南岸にかけて停滞し、前線上の2つの低気圧が、13

日から15日にかけて西日本や東日本を通過した。また、13日から14日にかけて日本海に低気圧が停滞した。これらの影響で、全国的に雨となり、九州では、多い所で日降水量が200ミリを超えたほか、近畿地方や北陸地方、関東甲信地方、北海道では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

7月13日

熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ)	233.0 ミリ	鹿児島県出水市出水(イズミ)	220.0 ミリ
宮崎県西米良村西米良(ニシメラ)	158.0 ミリ	北海道白老町白老(シラオイ)	109.0 ミリ

7月14日

鹿児島県霧島市牧之原(マキノハラ)	214.0 ミリ	宮崎県宮崎市田野(タノ)	165.5 ミリ
東京都利島村利島(トシマ)	148.5 ミリ	和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	109.0 ミリ

7月15日

東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	117.5 ミリ
--------------------	----------

7月16日

新潟県魚沼市大湯(オオユ)	131.0 ミリ	千葉県香取市香取(カリ)	106.5 ミリ
---------------	----------	--------------	----------

7月17日から7月23日まで*

7月17日から19日にかけて、梅雨前線は西日本から東日本にかけて停滞した。また、18日に先島諸島付近を北上した大型の台風第5号が、20日にかけて東シナ海を北上し、台風の北上とともに前線は日本海から東日本に北上した。台風は21日03時に朝鮮半島で熱帯低気圧となり、その後温帯低気圧に変わった。22日は低気圧からのびる前線が東日本から北日本を通過した。これらの影響で、沖縄・奄美や西日本、東日本では、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となり、九州北部地方や四国地方では、多い所で日降水量が300ミリを超えた。また、台風第5号の影響により、沖縄県久米島町北原で22.2メートルの最大風速を観測するなど、沖縄地方や九州北部地方、四国地方で、非常に強い風を観測した。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

7月18日

高知県黒潮町佐賀(サガ)	217.5 ミリ	沖縄県宮古島市城辺(グスクベ)	195.5 ミリ
山口県周南市和田(ワタ)	167.5 ミリ	広島県安芸太田町内黒山(ウチグロヤマ)	149.5 ミリ
岐阜県八百津町伽藍(ガラン)	145.5 ミリ	愛媛県愛南町御荘(ミショウ)	140.0 ミリ
長崎県壱岐市芦辺(アシベ)	138.5 ミリ	福岡県北九州市八幡(ヤハタ)	137.5 ミリ
島根県津和野町津和野(ツワノ)	133.0 ミリ	宮崎県延岡市延岡(ノベオカ)	133.0 ミリ
和歌山県串本町潮岬(シオバサキ)	120.0 ミリ	大分県由布市湯布院(ユフイン)	107.5 ミリ
長野県木曾町木曾福島(キソフクシマ)	103.5 ミリ	鳥取県智頭町智頭(チス)	102.5 ミリ
徳島県海陽町海陽(カイヨウ)	100.5 ミリ		

7月19日

東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	158.0 ミリ	長崎県対馬市鱒浦(ワニウラ)	149.5 ミリ
宮崎県延岡市北方(キタカタ)	140.5 ミリ	高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ)	117.5 ミリ
沖縄県宮古島市宮古島(ミヤコジマ)	100.5 ミリ		

7月20日

長崎県新上五島町有川(アリカワ)	347.5 ミリ	高知県仁淀川町池川(イケガワ)	282.5 ミリ
大分県佐伯市宇目(ウメ)	244.0 ミリ	宮崎県延岡市北方(キタカタ)	156.5 ミリ

* 7月17日から7月22日について、資料1-2-1「主な気象災害に対応する気象資料」に天気図等を掲載している。

鹿児島県薩摩川内市八重山(ヤエヤマ)	138.5 ミリ	佐賀県佐賀市北山(ホクザン)	118.0 ミリ
7月21日			
高知県本山町本山(モトヤマ)	336.5 ミリ	佐賀県鳥栖市鳥栖(トス)	329.0 ミリ
福岡県久留米市久留米(クルメ)	323.5 ミリ	山口県岩国市羅漢山(ヲカンザン)	155.5 ミリ
広島県北広島町都志見(ツシミ)	152.5 ミリ	長崎県諫早市諫早(イサハヤ)	134.0 ミリ
宮崎県えびの市えびの(エビノ)	123.0 ミリ	鹿児島県枕崎市枕崎(マクラザキ)	122.5 ミリ
大分県佐伯市佐伯(サイキ)	115.0 ミリ		

7月22日

静岡県浜松市天竜(テンリュウ)	158.0 ミリ	福岡県大牟田市大牟田(オオムタ)	146.5 ミリ
熊本県益城町益城(マシキ)	137.0 ミリ	岐阜県美濃市美濃(ミノ)	129.5 ミリ
鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	103.0 ミリ		

[最大風速 20メートル以上を観測した主な地点]

7月18日

沖縄県久米島町北原(キタハラ)	22.2 メートル
-----------------	-----------

7月20日

長崎県小値賀町小値賀(オチカ)	21.8 メートル	愛媛県伊方町瀬戸(セト)	20.1 メートル
-----------------	-----------	--------------	-----------

(3)7月26～7月28日：近畿地方、東日本、東北地方(大雨)＜台風第6号＞

台風第6号は、7月27日07時頃に三重県南部に上陸し、27日15時に岐阜県付近で熱帯低気圧に変わった後、東日本を東に進み、28日09時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

台風第6号や台風から変わった熱帯低気圧の接近・通過に伴い、近畿地方から東北地方にかけて、多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

この大雨によって、住家の床下浸水や一部破損などの被害があった。(被害の状況は令和元年7月29日の消防庁とりまとめによる)

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

7月27日

滋賀県甲賀市土山(ツチヤマ)	122.0 ミリ	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンザン)	120.0 ミリ
岐阜県関ヶ原町関ヶ原(セキガハラ)	119.0 ミリ	愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	114.0 ミリ
奈良県天川村天川(テンカワ)	107.5 ミリ	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	106.5 ミリ
三重県津市笠取山(カサトリヤマ)	100.5 ミリ		

7月28日

新潟県村上市三面(ミオモテ)	148.5 ミリ	山形県小国町小国(オグニ)	107.0 ミリ
----------------	----------	---------------	----------

(4)8月5日～8月7日：西日本(大雨、暴風、高波)＜台風第8号＞

台風第8号は、8月6日05時頃に宮崎市付近に上陸し、九州を北西に進んだ。その後、朝鮮半島を通過し、7日09時に日本海で熱帯低気圧に変わった。

台風第8号の接近・通過に伴い、九州南部では猛烈な雨を観測したところがあったほか、5日から7日までの総降水量が多い所で、九州南部から四国地方にかけての太平洋側を中心に200ミリを超え、徳島県で400ミリを超える大雨となった。また、九州南部や九州北部地方では非常に強い風を観測した所があった。

この台風によって、死者1名、負傷者5名の人的被害が発生したほか、住家被害、交通障害があった。(被害の状況は令和元年8月8日の内閣府とりまとめによる)

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

8月6日

徳島県那賀町木頭(キトウ)	429.0 ミリ	宮崎県延岡市古江(フルエ)	273.0 ミリ
大分県佐伯市佐伯(サイケ)	259.0 ミリ	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	240.5 ミリ
愛媛県西条市成就社(シヨウジュシヤ)	137.0 ミリ		

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点]

8月6日

宮崎県宮崎市赤江(アカエ)	23.1 メートル	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	22.9 メートル
山口県宇部市宇部(ウベ)	21.4 メートル	福岡県小倉南区空港北町(クコウキタマチ)	21.2 メートル

(5)8月13日～9月23日:全国(大雨、暴風、高波、突風)＜前線、令和元年房総半島台風(台風第15号)、台風第10号、第13号、第17号＞

8月13日から9月23日にかけて、日本付近に前線が停滞し、断続的に活動が活発となった。また、この間、8月14日から16日にかけて台風第10号が、9月4日から6日にかけて台風第13号が、9月7日から9日にかけて台風第15号が、9月20日から23日にかけて台風第17号が日本に接近した。これらの台風や前線等の影響により、各地で大雨、暴風となった。

8月26日から29日にかけて、九州付近に停滞していた前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、九州北部地方を中心に大雨となり、8月の月降水量平年値の2倍を超える大雨となった所があった。特に、28日明け方には九州北部地方に線状降水帯が形成・維持されたため、佐賀県等の複数の観測点で3時間降水量の観測史上1位の値を更新する記録的な大雨となった。この大雨の影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害が発生し、九州北部地方を中心に死者4名となり、浸水家屋住家被害、農地被害があったほか、停電や断水等ライフラインへの被害や鉄道の運休等の交通障害が発生した。(被害の状況は令和元年12月5日の内閣府とりまとめによる)

また、台風第15号が9月8日に伊豆諸島に接近した後、9日03時前に三浦半島付近を通過して、9日05時前に強い勢力で千葉県付近に上陸した。この台風の接近・通過に伴い、関東地方南部や伊豆諸島を中心に暴風、大雨となった。東京都神津島で最大風速43.4メートル、千葉県千葉で35.9メートルを観測するなど6地点で最大風速30メートル以上の猛烈な風を観測し、千葉県を中心に19地点で最大風速の観測史上1位の記録を更新した。この暴風の影響で、死者3名、負傷者150名の人的被害があり、千葉県では電柱の倒壊や倒木が相次ぎ、最大約934,900戸で停電が発生したほか、大雨の影響で浸水害や土砂災害が発生した。気象庁は、顕著な災害をもたらした台風第15号について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和元年房総半島台風」と名称を定めた。(被害の状況は令和元年12月5日の内閣府とりまとめや令和元年12月23日の消防庁とりまとめによる)

8月13日から8月17日まで

8月13日に日本の南を北上した台風第10号は、14日から16日にかけて日本に接近し、15日11時過ぎに佐田岬半島を通過、15日15時頃に呉市付近に上陸した後、日本海を北へ進んだ。その後、台風は16日21時に日本海で温帯低気圧に変わり、17日にかけて低気圧からのびる前線が北日本を通過した。この影響で全国的に雨となり、日降水量が、四国地方の多い所で600ミリ、近畿地方の多い所で400ミリ、東海地方や関東甲信地方の多い所で200ミリを超える大雨となった。また、四国地方では、風速30メートル以上の猛烈な風を観測した所があり、西日本や北日本では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

8 月 14 日

奈良県上北山村上北山(カミキタヤマ)	315.0 ミリ	高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	221.0 ミリ
和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	209.0 ミリ	宮崎県日南市深瀬(フカセ)	193.5 ミリ
鹿児島県中種子町中種子(ナカタネ)	185.5 ミリ	神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ)	151.5 ミリ
徳島県那賀町木頭(キトウ)	135.5 ミリ	大分県佐伯市宇目(ウメ)	122.0 ミリ

8 月 15 日

高知県馬路村魚梁瀬(ヤナセ)	616.5 ミリ	徳島県那賀町木頭(キトウ)	461.0 ミリ
奈良県上北山村上北山(カミキタヤマ)	402.5 ミリ	和歌山県田辺市龍神(リュウジン)	388.0 ミリ
静岡県静岡市井川(イカワ)	262.0 ミリ	愛媛県内子町獅子越峠(シシゴエトウゲ)	262.0 ミリ
三重県大台町宮川(ミヤガワ)	244.5 ミリ	愛知県豊田市阿蔵(アゾウ)	183.0 ミリ
福岡県添田町英彦山(ヒコサン)	153.5 ミリ	熊本県南阿蘇村南阿蘇(ミナミアソ)	147.5 ミリ
神奈川県山北町丹沢湖(タンザワコ)	131.5 ミリ	宮崎県えびの市えびの(エビノ)	127.5 ミリ
兵庫県南あわじ市南淡(ナンタン)	121.0 ミリ	鹿児島県さつま町紫尾山(シビサン)	118.5 ミリ
大阪府能勢町能勢(ノセ)	118.0 ミリ	大分県玖珠町玖珠(クス)	106.5 ミリ
山梨県南部町南部(ナンブ)	101.0 ミリ		

8 月 16 日

岐阜県関市関市板取(セキシイタリ)	243.5 ミリ	長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	232.0 ミリ
北海道登別市カルルス(カルルス)	135.0 ミリ	和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	106.5 ミリ
愛知県豊根村茶臼山(チャウスヤマ)	100.5 ミリ		

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点]

8 月 14 日

高知県室戸市室戸岬(ムロトシサキ)	24.1 メートル	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	21.7 メートル
-------------------	-----------	--------------------	-----------

8 月 15 日

高知県室戸市室戸岬(ムロトシサキ)	35.5 メートル	和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	25.7 メートル
兵庫県中央区神戸空港(コウベクウコウ)	21.5 メートル	鹿児島県西之表市種子島(タネガシマ)	21.0 メートル
徳島県阿南市蒲生田(カモダ)	20.8 メートル	大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	20.6 メートル
岡山県玉野市玉野(タマノ)	20.6 メートル		

8 月 16 日

和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ)	23.7 メートル	山形県酒田市飛島(トビシマ)	21.0 メートル
大阪府田尻町関空島(カンクウジマ)	20.4 メートル		

8 月 17 日

北海道えりも町えりも岬(エリモシサキ)	20.3 メートル		
---------------------	-----------	--	--

8 月 18 日から 8 月 22 日まで

8 月 18 日から 19 日にかけて、太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、19 日には東シナ海から東日本にのびる前線が顕在化した。このため 18 日は奄美地方の多い所で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。19 日は沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、沖縄地方や北陸地方、関東甲信地方の多い所で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。20 日から 22 日にかけて、引き続き停滞する前線の影響で、全国的に雨となり、九州北部地方や北陸地方、東北地方の多い所で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

8 月 18 日

鹿児島県十島村平島(タイジマ) 117.5 ミリ

8 月 19 日

東京都青梅市青梅(オウメ) 121.5 ミリ 長野県茅野市白樺湖(シラカハコ) 120.5 ミリ

新潟県魚沼市大湯(オオユ) 117.0 ミリ 沖縄県粟国村粟国(アケニ) 115.0 ミリ

群馬県中之条町中之条(ナカノジョウ) 102.0 ミリ

8 月 20 日

富山県黒部市宇奈月(ウナツキ) 115.5 ミリ 長崎県新上五島町有川(アリカワ) 108.0 ミリ

8 月 22 日

新潟県糸魚川市糸魚川(イトイガワ) 139.5 ミリ 福島県只見町只見(タダミ) 108.5 ミリ

8 月 23 日から 8 月 25 日まで

8 月 23 日は、東シナ海から東日本にかけて停滞する前線と北日本を通過した低気圧の影響で、全国的に雨となり、九州北部地方や甲信地方、北海道の多い所で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。24 日から 25 日にかけて、日本の南へ南下した前線や日本海の低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雨となった所が多く、北陸地方の多い所で日降水量 100 ミリを超える大雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

8 月 23 日

長崎県長崎市長浦岳(ナガウラダケ) 150.0 ミリ 北海道標津町糸薙別(イトシベツ) 135.0 ミリ

長野県南木曾町南木曾(ナギソ) 103.5 ミリ

8 月 25 日

新潟県上越市筒方(トウカタ) 156.5 ミリ 茨城県筑西市門井(カドイ) 100.0 ミリ

8 月 26 日から 8 月 29 日まで*

8 月 26 日は前線が九州付近に停滞し、27 日から 29 日にかけて前線は北上し対馬海峡付近から東日本に停滞した。この影響で、西日本を中心に全国的に雨となり、日降水量が、九州北部地方や関東甲信地方の多い所で 200 ミリ、中国地方や東海地方、東北地方、北海道の多い所で 100 ミリを超える大雨となった。特に、長崎県や佐賀県では 26 日から 29 日の期間総降水量が 8 月の月平均降水量の 2 倍を超える大雨となったところがあった。このほか、28 日に静岡県三島市で、日本版改良藤田スケールで JEF1 の強さの竜巻が発生した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

8 月 26 日

群馬県高崎市榛名山(ハルナサン) 162.5 ミリ

8 月 27 日

長崎県松浦市松浦(マツウラ) 253.5 ミリ 佐賀県伊万里市伊万里(イマリ) 253.0 ミリ

福岡県福岡市早良脇山(サワラワキヤマ) 158.5 ミリ

8 月 28 日

佐賀県白石町白石(シロイシ) 299.5 ミリ 長崎県平戸市平戸(ヒラト) 292.5 ミリ

福岡県八女市黒木(クロキ) 221.0 ミリ 神奈川県箱根町箱根(ハコネ) 207.5 ミリ

山口県萩市萩(ハギ) 186.5 ミリ 北海道白老町森野(モリノ) 172.0 ミリ

* 8 月 26 日から 8 月 29 日について、資料 1-2-1「主な気象災害に対応する気象資料」に天気図等を掲載している。

長野県王滝村御嶽山(オンタケサン)	168.0 ミリ	広島県北広島町八幡(ヤワタ)	164.0 ミリ
大分県日田市椿ヶ鼻(ツバキガハナ)	154.5 ミリ	島根県津和野町津和野(ツワノ)	152.5 ミリ
岩手県大槌町大槌(オオツチ)	151.0 ミリ	岐阜県郡上市ひるがの(ヒルガノ)	144.0 ミリ
熊本県山鹿市鹿北(カホク)	139.0 ミリ	静岡県浜松市春野(ハルノ)	107.0 ミリ

8月29日

山口県美祢市東厚保(ヒガシアツ)	160.0 ミリ	熊本県宇城市三角(ミシミ)	121.5 ミリ
長崎県南島原市口之津(クチヅ)	112.0 ミリ	福岡県宗像市宗像(ムナカタ)	103.0 ミリ

8月30日から9月2日まで

8月30日から31日にかけて、前線が南下し九州南部から東日本にかけて停滞した。この前線や日本海の低気圧の影響で、全国的に雨となり、九州南部や九州北部地方、近畿地方、東海地方、北海道の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。9月1日は、前線が九州付近に停滞し、沖縄・奄美や西日本を中心に雨となった。2日は、前線が北上し、東シナ海から東日本にかけて停滞した。この影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本で雨となり、九州北部地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

8月30日

静岡県御前崎市御前崎(オマエザキ)	120.0 ミリ	鹿児島県南種子町上中(カナカ)	111.0 ミリ
和歌山県田辺市護摩壇山(ゴマダンサン)	105.5 ミリ	熊本県水俣市水俣(ミナマタ)	105.5 ミリ
大阪府河内長野市河内長野(カワチナガノ)	102.5 ミリ	三重県志摩市阿児(アコ)	102.0 ミリ

8月31日

北海道岩見沢市岩見沢(イワミザワ)	103.0 ミリ
-------------------	----------

9月2日

長崎県五島市上大津(オオツ)	144.0 ミリ
----------------	----------

9月3日から9月7日まで

9月3日から4日にかけて、前線が北上し朝鮮半島から東日本にかけて停滞し、台風第13号が沖縄の南を北に進んだ。このため、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、九州北部地方や東海地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。5日は、台風第13号が宮古島付近を通過し東シナ海を北に進んだ。また、前線が北上し華中から朝鮮半島を通り日本海にかけて停滞した。台風や前線に向かって流れ込んだ湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となり、沖縄地方や四国地方、東海地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、沖縄地方では風速30メートル以上の猛烈な風を観測し、奄美地方では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。9月6日から7日にかけて、台風第13号が東シナ海から朝鮮半島へ進み前線はさらに北上し、日本海から北海道にかけて停滞した。このため、沖縄・奄美から近畿地方にかけての太平洋側や北海道を中心に雨となり、沖縄・奄美や九州南部、四国地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

9月4日

長崎県五島市福江(フクエ)	155.5 ミリ	三重県いなべ市北勢(ホクセイ)	129.0 ミリ
---------------	----------	-----------------	----------

9月5日

三重県四日市市四日市(ヨッカイチ)	174.0 ミリ	沖縄県宮古島市宮古島(ミヤコジマ)	169.5 ミリ
高知県四万十町大正(タイショウ)	135.5 ミリ		

9月6日

高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ)	150.5 ミリ	鹿児島県鹿屋市鹿屋(カノヤ)	107.5 ミリ
宮崎県諸塚村諸塚(モロツカ)	106.0 ミリ		

9月7日

高知県土佐清水市三崎(ミサキ)	182.5 ミリ	鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	140.5 ミリ
愛媛県鬼北町近永(チカナガ)	122.5 ミリ	沖縄県竹富町西表島(イオモテジマ)	101.0 ミリ

[最大風速 20メートル以上を観測した主な地点]

9月5日

沖縄県宮古島市下地(シモン)	47.7 メートル
----------------	-----------

9月6日

沖縄県久米島町北原(キタハラ)	22.8 メートル	鹿児島県和泊町沖永良部(オキノエラフ)	20.0 メートル
-----------------	-----------	---------------------	-----------

9月8日から9月9日まで(令和元年房総半島台風)*

9月8日から9日にかけて、令和元年房総半島台風(台風第15号)が伊豆諸島近海を北上し、9日03時前に三浦半島付近を通過、9日05時前に千葉市付近に上陸した後、日本の東へ進んだ。この台風の影響で、東日本から北日本にかけて雨となり、日降水量が、東海地方の多い所で300ミリ、関東地方の多いところで200ミリ、東北地方の多いところで100ミリを超える大雨となった。関東地方や伊豆諸島では風速30メートル以上の猛烈な風を観測し、東海地方で風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。また、湿った空気の影響で沖縄・奄美から西日本にかけて雨となり、沖縄地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

9月8日

静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	304.5 ミリ	東京都大島町大島(オオシマ)	229.5 ミリ
神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	180.5 ミリ	沖縄県国頭村国頭(ケガミ)	105.0 ミリ

9月9日

千葉県市原市牛久(ウシク)	211.0 ミリ	茨城県北茨城市花園(ハナヅノ)	201.5 ミリ
神奈川県横浜市横浜(ヨコハマ)	157.0 ミリ	東京都江戸川区江戸川臨海(エドガワリンカイ)	149.5 ミリ
静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	137.5 ミリ	埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ)	119.5 ミリ
福島県福島市福島(フクシマ)	118.0 ミリ	宮城県丸森町筆甫(ヒツポ)	116.5 ミリ

[最大風速 20メートル以上を観測した主な地点]

9月8日

東京都神津島村神津島(コヅシマ)	43.4 メートル	静岡県東伊豆町稲取(イナトリ)	27.9 メートル
------------------	-----------	-----------------	-----------

9月9日

千葉県千葉市千葉(チハ)	35.9 メートル	東京都大田区羽田(ハネダ)	32.4 メートル
静岡県熱海市網代(アジロ)	27.2 メートル	神奈川県横浜市横浜(ヨコハマ)	23.4 メートル
茨城県龍ケ崎市龍ケ崎(リュウカサキ)	23.0 メートル		

9月10日から9月18日まで

9月10日は、湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけて雨となった所があった。11日は、日本海の低気圧や低気圧からのびる前線が本州を南下した影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、近畿地方の多い所で日降水量が100ミリを超える大雨となった。12日から13日にかけて、気圧の谷や湿った空気の影響で西日

* 9月8日から9月9日について、資料1-2-1「主な気象災害に対応する気象資料」に天気図等を掲載している。

本や東海地方では雨となり、日降水量が、近畿地方の多い所で 200 ミリ、東海地方の多い所で 100 ミリを超える大雨となった。14 日から 15 日にかけて、オホーツク海の低気圧からのびる前線が東へ進んだ影響で、北日本では雨となったほか、湿った空気の影響で沖縄・奄美や九州南部では雨となった。15 日から 16 日にかけて、伊豆諸島付近の熱帯低気圧や前線が北上した影響で、関東甲信地方や北日本の太平洋側を中心に雨となり、関東地方の多い所で日降水量が 100 ミリを超える大雨となった。17 日から 18 日にかけて、日本の南に前線が停滞した影響で、伊豆諸島の多い所で日降水量が 100 ミリを超える大雨となったほか、沖縄地方では日本の南の熱帯低気圧の影響で雨となった。また、沿海州の低気圧から延びる前線が北日本を通過した影響で、東日本から北日本にかけて雨となった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

9 月 11 日

兵庫県福崎町福崎(フサキ) 114.5 ミリ

9 月 13 日

和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ) 246.5 ミリ 三重県御浜町御浜(ミハマ) 189.5 ミリ

奈良県十津川村玉置山(タマキヤマ) 116.5 ミリ

9 月 16 日

千葉県館山市館山(タテヤマ) 127.5 ミリ

9 月 18 日

東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ) 192.5 ミリ

9 月 19 日から 9 月 23 日まで

9 月 19 日に沖縄の南で発生した台風第 17 号は、20 日から 21 日に沖縄地方に接近した後、進路を北東に変え、対馬海峡を抜けて 23 日に日本海で温帯低気圧になった。低気圧からのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で全国的に雨となり、日降水量が、四国地方の多い所で 500 ミリ、東海地方の多い所で 300 ミリ、九州南部、九州北部地方の多い所で 200 ミリ、沖縄地方、中国地方、近畿地方、北海道の多い所で 100 ミリを超える大雨となった。沖縄地方では風速 30 メートル以上の猛烈な風を観測し、奄美地方から北日本にかけて風速 20 メートル以上の非常に強い風を観測した。このほか、22 日に宮崎県延岡市で、日本版改良藤田スケールで JEF2 の強さの竜巻が発生した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

9 月 21 日

熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ) 242.5 ミリ 宮崎県西米良村西米良(ニシメラ) 207.5 ミリ

鹿児島県十島村宝島(タカラジマ) 183.0 ミリ 沖縄県那覇市那覇(ナハ) 156.0 ミリ

9 月 22 日

徳島県那賀町木頭(キトウ) 503.5 ミリ 三重県大台町宮川(ミヤガワ) 371.5 ミリ

高知県仁淀川町鳥形山(トリガタヤマ) 352.0 ミリ 長崎県対馬市厳原(イツハラ) 290.0 ミリ

宮崎県西米良村西米良(ニシメラ) 249.5 ミリ 愛媛県西条市成就社(ジョウジュシャ) 233.0 ミリ

熊本県湯前町湯前横谷(ユノマエヨコタニ) 172.5 ミリ 鹿児島県鹿屋市輝北(キホク) 155.0 ミリ

奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ) 129.0 ミリ 島根県隠岐の島町西郷(サイゴウ) 127.0 ミリ

福岡県福岡市早良脇山(サワラキヤマ) 102.0 ミリ 香川県東かがわ市引田(ヒケタ) 101.0 ミリ

9 月 23 日

北海道福島町千軒(センケン) 137.0 ミリ

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点]

9 月 19 日

沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ) 20.5 メートル

9 月 20 日

沖縄県座間味村慶良間(ケラマ) 24.4 メートル

9 月 21 日

沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷(トカシキ) 32.9 メートル 鹿児島県与論町与論島(ヨロシジマ) 23.0 メートル

9 月 22 日

長崎県長崎市野母崎(ノモサキ) 29.2 メートル 愛媛県伊方町瀬戸(セト) 25.5 メートル

佐賀県佐賀市佐賀(サガ) 25.0 メートル 福岡県福岡市博多(ハカタ) 23.4 メートル

高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ) 23.2 メートル 熊本県宇城市三角(ミシミ) 22.3 メートル

鹿児島県天城町天城(アマキ) 21.1 メートル

9 月 23 日

山形県酒田市飛島(トビシマ) 29.4 メートル 和歌山県和歌山市友ヶ島(トモガシマ) 27.0 メートル

愛媛県伊方町瀬戸(セト) 23.4 メートル 新潟県佐渡市両津(リョウツ) 23.2 メートル

大分県国東市武蔵(ムサン) 22.6 メートル 秋田県にかほ市にかほ(ニカホ) 22.2 メートル

高知県室戸市室戸岬(ムロミサキ) 21.6 メートル 兵庫県明石市明石(アカシ) 21.4 メートル

島根県浜田市浜田(ハマダ) 21.4 メートル 北海道えりも町えりも岬(エリモサキ) 20.6 メートル

(6)9 月 30 日～10 月 5 日:沖縄・奄美、西日本(大雨、暴風、高波)＜台風第 18 号＞

9 月 28 日にフィリピンの東で発生した台風第 18 号は、30 日夜に大型で強い勢力で沖縄地方に接近した後、東シナ海を北上し 10 月 3 日朝までに朝鮮半島を通過し、3 日 15 時に日本海で温帯低気圧となった。その後、台風から変わった温帯低気圧は 4 日夜に東北地方を横断し、5 日には太平洋へ進んだ。

台風や台風から変わった温帯低気圧の接近・通過に伴い、沖縄地方や九州北部地方、四国地方では猛烈な雨を観測した所があったほか、沖縄地方や四国地方では 9 月 30 日から 10 月 5 日までの総降水量が多い所で 300 ミリを超える大雨となった。また、沖縄地方で最大風速 30 メートル以上の猛烈な風を観測した。

この影響により、負傷者 10 名の人的被害が発生したほか、通信障害、住家被害があった。(被害の状況は令和 2 年 2 月 4 日の消防庁とりまとめや気象庁調べによる)

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

9 月 30 日

沖縄県竹富町西表島(イオモテジマ) 269.5 ミリ

10 月 2 日

高知県津野町船戸(フナト) 224.5 ミリ 愛媛県鬼北町近永(チカナガ) 120.0 ミリ

大分県佐伯市蒲江(カマエ) 112.0 ミリ 宮崎県宮崎市田野(タノ) 111.0 ミリ

10 月 3 日

高知県香美市繁藤(シゲトウ) 287.5 ミリ 兵庫県朝来市生野(イクノ) 135.0 ミリ

三重県熊野市熊野新鹿(クマノアタシカ) 105.0 ミリ 京都府福知山市福知山(フクチヤマ) 105.0 ミリ

大分県佐伯市蒲江(カマエ) 104.5 ミリ 徳島県三好市京上(キョウジョウ) 102.0 ミリ

10 月 4 日

北海道浦河町中杵臼(ナカキネウス) 182.0 ミリ 石川県白山市白山河内(ハクサンカワチ) 120.5 ミリ

岩手県宮古市宮古(ミヤコ) 112.0 ミリ 宮城県栗原市駒ノ湯(コマノユ) 100.0 ミリ

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点]

9 月 30 日

沖縄県与那国町所野(トコロ) 30.3 メートル

10 月 1 日

沖縄県与那国町所野(トコロ) 24.8 メートル

10 月 4 日

新潟県佐渡市両津(ヨウツ) 22.0 メートル

(7)10 月 10 日～10 月 26 日:全国(大雨、暴風、高波、高潮、突風)＜令和元年東日本台風(台風第 19 号)、 低気圧、台風第 20 号、第 21 号＞

10 月 10 日から 10 月 26 日にかけて、台風や日本付近に停滞した前線の影響により、各地で大雨、暴風、高波、高潮となった。この間、10 月 12 日から 13 日にかけて台風第 19 号、10 月 20 日から 21 日にかけて台風第 20 号、10 月 23 日から 24 日にかけて台風第 21 号が日本に接近した。

台風第 19 号の影響により、10 月 10 日から 13 日までの総降水量が、神奈川県箱根で 1000 ミリに達し、東日本を中心に 17 地点で 500 ミリを超えた。特に、東日本や東北地方の多くの地点で 3、6、12、24 時間降水量の観測史上 1 位の値を更新するなど記録的な大雨となった。

その後、10 月 24 日から 26 日にかけて、低気圧等の影響により、関東地方から東北地方の太平洋側を中心に大雨となった。特に、千葉県や福島県では総降水量が 200 ミリを超えたほか、3、6 時間降水量の観測史上 1 位の値を更新する記録的な大雨となった。

これらの大雨により、東日本や東北地方で河川の氾濫や土砂災害等が相次ぎ、死者は 99 人、行方不明者は 3 人に及び、家屋の全半壊は約 33,000 棟、浸水家屋は約 31,000 棟に達するなど、甚大な被害となった。気象庁は、顕著な災害をもたらした台風第 19 号について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和元年東日本台風」と名称を定めた。(被害の状況は令和 2 年 2 月 12 日の内閣府とりまとめによる)

10 月 10 日から 10 月 13 日まで(令和元年東日本台風)*

10 月 6 日に南鳥島近海で発生した令和元年東日本台風(台風第 19 号)は、マリアナ諸島近海を西に進み、一時大型で猛烈な台風に発達した後、次第に進路を北に変え、日本の南を北上し、12 日 19 時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した。その後、関東地方を通過し、13 日 12 時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

東日本台風の接近・通過に伴い、10 日から 13 日までの総降水量が、神奈川県箱根で 1000 ミリに達し、東日本を中心に 17 地点で 500 ミリを超えた。特に静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方の多くの地点で 3、6、12、24 時間降水量の観測史上 1 位の値を更新する等記録的な大雨となった。また、東京都江戸川臨海で最大瞬間風速 43.8 メートルとなり観測史上 1 位を更新したほか、関東地方の 7 か所で最大瞬間風速 40 メートルを超えた。また、関東地方では、風速 30 メートル以上の猛烈な風を観測したほか、西日本から北日本にかけて、風速 20 メートル以上の非常に強い風を観測した。このほか、12 日に千葉県市原市で、日本版改良藤田スケールで JEF2 の強さの竜巻と推定される突風が発生した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

10 月 10 日

東京都小笠原村母島(ハジマ) 159.0 ミリ

10 月 12 日

神奈川県箱根町箱根(ハコネ) 922.5 ミリ 静岡県伊豆市湯ケ島(ユガシマ) 689.5 ミリ

* 10 月 10 日から 10 月 13 日について、資料 1-2-1「主な気象災害に対応する気象資料」に天気図等を掲載している。

埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ)	635.0 ミリ	東京都檜原村小沢(オザワ)	602.5 ミリ
宮城県丸森町筆甫(ヒッポ)	558.0 ミリ	山梨県南部町南部(ナンブ)	532.0 ミリ
栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	481.0 ミリ	群馬県下仁田町西野牧(ニシノマキ)	471.0 ミリ
茨城県北茨城市花園(ハナヅノ)	455.5 ミリ	福島県川内村川内(カウチ)	428.0 ミリ
長野県北相木村北相木(キタアキ)	395.5 ミリ	三重県志摩市阿児(アコ)	383.5 ミリ
奈良県曽爾村曾爾(ソニ)	310.5 ミリ	愛知県田原市伊良湖(イラコ)	294.5 ミリ
新潟県糸魚川市能生(ノウ)	252.5 ミリ	富山県朝日町朝日(アサヒ)	230.0 ミリ
岡山県真庭市上長田(カナガタ)	228.0 ミリ	山形県高島町高島(タカハタ)	218.0 ミリ
岩手県普代村普代(フダイ)	201.0 ミリ	和歌山県高野町高野山(コウヤサン)	178.5 ミリ
鳥取県大山町大山(オオイセン)	177.5 ミリ	千葉県市原市牛久(ウシク)	176.5 ミリ
滋賀県甲賀市信楽(シガラキ)	163.0 ミリ	石川県金沢市医王山(イオウゼン)	143.0 ミリ
大阪府河内長野市河内長野(カワチナガノ)	140.5 ミリ	兵庫県養父市八鹿(ヨウカ)	123.0 ミリ
福井県小浜市小浜(オハマ)	113.0 ミリ	岐阜県大垣市上石津(カミイヅツ)	109.5 ミリ
京都府京田辺市京田辺(キョウタナヘ)	108.0 ミリ	秋田県湯沢市湯の岱(ユノタイ)	101.5 ミリ

10月13日

岩手県普代村普代(フダイ)	265.5 ミリ	青森県八戸市八戸(ハチノヘ)	115.5 ミリ
宮城県石巻市雄勝(オカツ)	112.5 ミリ		

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点]

10月11日

東京都小笠原村父島(チヂジマ)	21.4 メートル
-----------------	-----------

10月12日

東京都大田区羽田(ハネタ)	34.8 メートル	千葉県千葉市千葉(チハ)	25.8 メートル
静岡県南伊豆町石廊崎(イロウザキ)	25.6 メートル	神奈川県藤沢市辻堂(ツジトウ)	24.2 メートル
宮城県女川町江ノ島(エノシマ)	24.1 メートル	新潟県新潟市松浜(マツハマ)	22.9 メートル
北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	21.6 メートル	石川県輪島市輪島(ワジマ)	21.4 メートル
山梨県甲府市甲府(コウフ)	21.2 メートル	福島県猪苗代町猪苗代(イワシロ)	21.1 メートル
京都府舞鶴市舞鶴(マイヅル)	21.1 メートル	兵庫県神戸市神戸(コウベ)	21.1 メートル
和歌山県串本町潮岬(シオミサキ)	20.8 メートル	愛知県常滑市セントレア(セントレア)	20.7 メートル
鳥取県鳥取市湖山(コヤマ)	20.2 メートル	岡山県奈義町奈義(ナギ)	20.1 メートル
福井県敦賀市敦賀(ツルガ)	20.0 メートル		

10月13日

北海道えりも町えりも岬(エリモサキ)	30.0 メートル	長崎県雲仙市雲仙岳(ウンゼンダケ)	21.9 メートル
新潟県新潟市松浜(マツハマ)	21.6 メートル	石川県輪島市輪島(ワジマ)	21.6 メートル

10月14日から10月15日まで

10月14日は、日本の南に停滞した前線と前線上の低気圧の影響で、近畿地方から東日本にかけて雨となった。また、日本海の低気圧が東に進んだ影響により北海道で雨となった。

10月15日は、大陸から張り出す高気圧周辺の湿った空気や関東東海上の低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本から東北地方にかけての日本海側、関東地方で雨となったところがあった。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した地点なし]

10月16日から10月19日まで

10月16日から19日は南西諸島から本州南岸にかけて前線が停滞し、18日から19日は前線上に低気圧が発生し、西日本や東日本を通過した。この影響で全国的に雨となり、東海地方では多いところで日降水量が500ミリを超え、西日本の太平洋側では多いところで日降水量が200ミリを超える大雨となった。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

10月17日

鹿児島県与論町与論島(ヨロンジマ)	137.5 ミリ	沖縄県国頭村国頭(ケニガミ)	133.0 ミリ
-------------------	----------	----------------	----------

10月18日

三重県尾鷲市尾鷲(オワセ)	563.0 ミリ	和歌山県新宮市新宮(シングウ)	300.0 ミリ
奈良県下北山村下北山(シモキタヤマ)	206.5 ミリ	徳島県上勝町福原旭(フクハラアサヒ)	205.0 ミリ
宮崎県日南市油津(アブラツ)	204.0 ミリ	高知県室戸市佐喜浜(サキハマ)	167.0 ミリ

10月19日

東京都利島村利島(トシマ)	164.5 ミリ	和歌山県新宮市新宮(シングウ)	140.5 ミリ
北海道白老町森野(モリ)	120.5 ミリ	千葉県大多喜町大多喜(オオタキ)	111.0 ミリ
静岡県伊豆市天城山(アマギサン)	106.5 ミリ		

10月20日から10月23日まで

10月20日から21日は、引き続き南西諸島から本州南岸にかけて前線が停滞したほか、台風第20号が西日本に接近した。台風は21日21時に四国沖で温帯低気圧に変わった後、23日にかけて前線を伴いながら西日本から北日本にかけての太平洋沿岸を進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、東海地方から関東地方にかけては多いところで日降水量が100ミリを超える大雨となった。また、沖縄地方や関東地方では風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量100ミリ以上を観測した主な地点]

10月21日

和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	182.0 ミリ	東京都八丈町八丈島(ハチジョウジマ)	166.5 ミリ
三重県熊野市熊野新鹿(クマノアタシカ)	103.5 ミリ		

10月22日

東京都三宅村三宅島(ミヤケジマ)	129.5 ミリ	千葉県勝浦市勝浦(カツウラ)	102.5 ミリ
------------------	----------	----------------	----------

10月23日

鹿児島県奄美市笠利(カサリ)	147.0 ミリ		
----------------	----------	--	--

[最大風速20メートル以上を観測した主な地点]

10月20日

沖縄県北大東村北大東(キタダイトウ)	20.6 メートル		
--------------------	-----------	--	--

10月22日

東京都三宅村三宅坪田(ミヤケツボタ)	22.2 メートル	千葉県銚子市銚子(チヨウシ)	21.6 メートル
--------------------	-----------	----------------	-----------

10月24日から10月26日まで*

10月23日に東シナ海で発生した低気圧が、24日から26日にかけて、西日本、東日本、北日本の太平洋沿岸に沿って進んだ。この低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込むとともに、日本の東海上を北上した台風第21号周辺の湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。このため、関東

* 10月24日から10月26日について、資料1-2-1「主な気象災害に対応する気象資料」に天気図等を掲載している。

地方から東北地方の太平洋側を中心に広い範囲で総降水量が 100 ミリを超え、12 時間降水量が 10 月の月降水量平年値を超えたところがあった。特に、千葉県や福島県では総降水量が 200 ミリを超えたほか、3、6 時間降水量の観測史上 1 位の値を更新する記録的な大雨となった。また、小笠原諸島では風速 20 メートル以上の非常に強い風を観測した。

[日降水量 100 ミリ以上を観測した主な地点]

10 月 24 日

高知県室戸市室戸岬(ムロトミサキ)	264.0 ミリ	徳島県那賀町木頭(キトウ)	144.0 ミリ
三重県大台町宮川(ミヤガワ)	130.0 ミリ	山口県山口市徳佐(トクサ)	115.0 ミリ
和歌山県那智勝浦町色川(イロカワ)	107.5 ミリ		

10 月 25 日

千葉県市原市牛久(ウシク)	285.0 ミリ	福島県浪江町浪江(ナミエ)	246.0 ミリ
茨城県鉾田市鉾田(ホコタ)	200.5 ミリ	埼玉県秩父市浦山(ウラヤマ)	152.0 ミリ
東京都大島町大島(オオシマ)	150.0 ミリ	宮城県丸森町丸森(マルモリ)	145.5 ミリ
栃木県日光市奥日光(オクニッコウ)	131.0 ミリ	神奈川県箱根町箱根(ハコネ)	131.0 ミリ
三重県鳥羽市鳥羽(トバ)	127.5 ミリ	静岡県伊豆市天城山(アマキサン)	125.0 ミリ
岐阜県多治見市多治見(タジミ)	124.5 ミリ	愛知県名古屋市名古屋(ナゴヤ)	124.0 ミリ
山梨県山中湖村山中(ヤマナカ)	118.5 ミリ	群馬県神流町神流(カンナ)	103.5 ミリ

[最大風速 20 メートル以上を観測した主な地点]

10 月 24 日

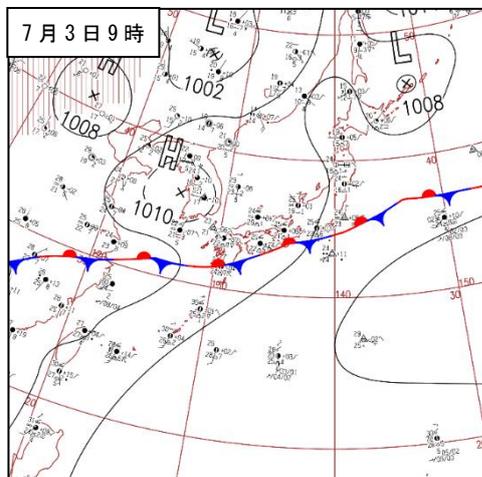
東京都小笠原村父島(チチジマ)	25.3 メートル
-----------------	-----------

資料 1-2-1 主な気象災害に対応する気象資料

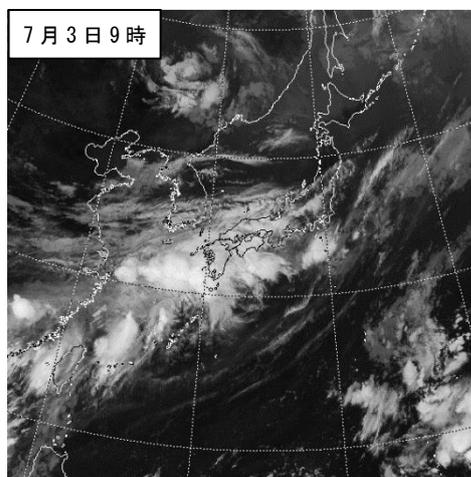
○ 災害番号 (2)

梅雨前線による九州南部を中心とした大雨 (6月28日～7月5日)

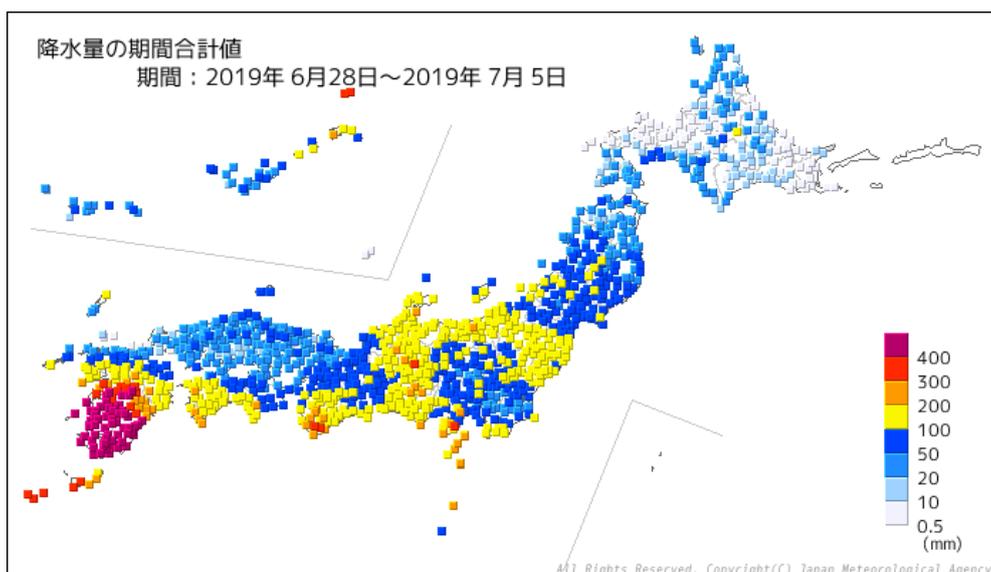
地上天気図



気象衛星画像 (赤外)



期間総降水量分布図 (6月28日～7月5日)

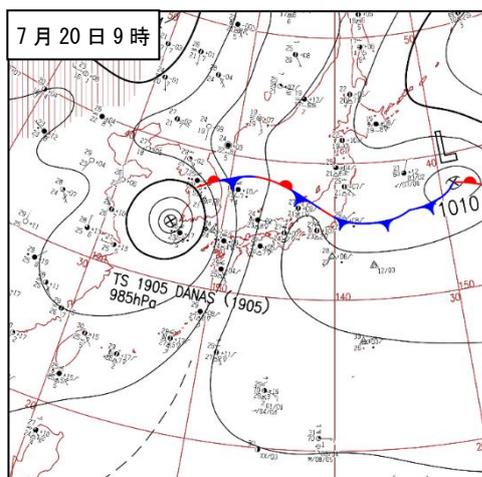


期間総降水量表 (上位 10 地点) (6月28日～7月5日)

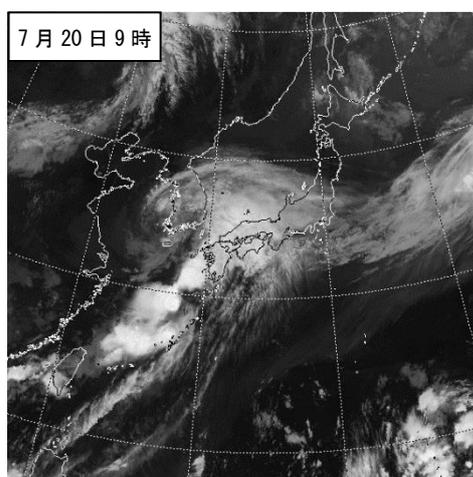
順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量
				(mm)
1	宮崎県	えびの市	えびの(エビノ)	1089.5
2	鹿児島県	鹿屋市	吉ヶ別府(ヨシガベツ)	901.0
3	宮崎県	日南市	深瀬(フカセ)	867.5
4	鹿児島県	鹿屋市	輝北(キホク)	857.5
5	鹿児島県	薩摩川内市	八重山(ヤエヤマ)	842.0
6	鹿児島県	曾於市	大隅(オオスミ)	814.5
7	鹿児島県	霧島市	牧之原(マキノハラ)	805.5
8	鹿児島県	日置市	東市来(ヒガシイチキ)	776.5
9	鹿児島県	霧島市	溝辺(ミゾベ)	776.0
10	宮崎県	都城市	都城(ミヤコノジョウ)	747.5

梅雨前線や台風第5号による九州北部地方を中心とした大雨（7月17日～7月22日）

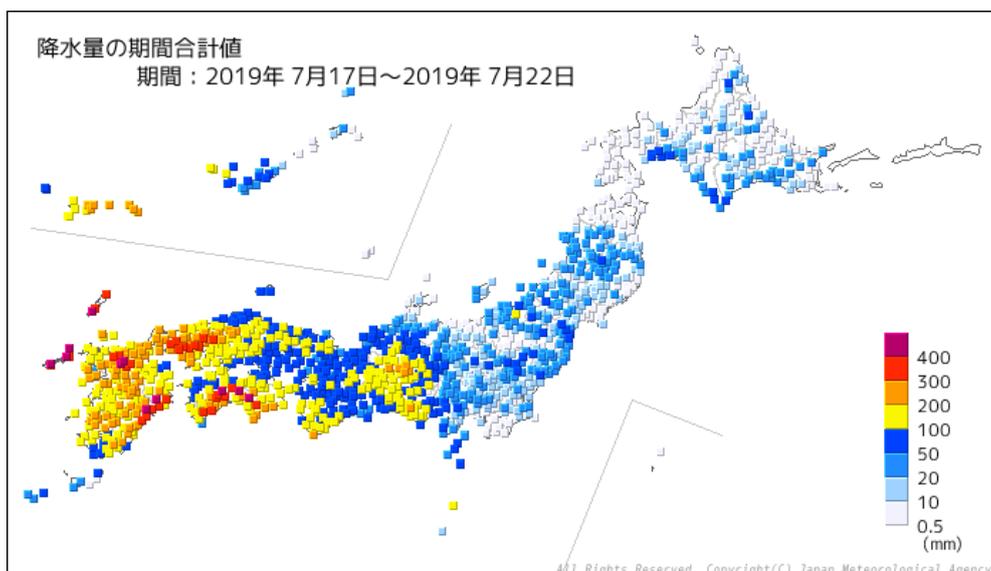
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間総降水量分布図（7月17日～7月22日）



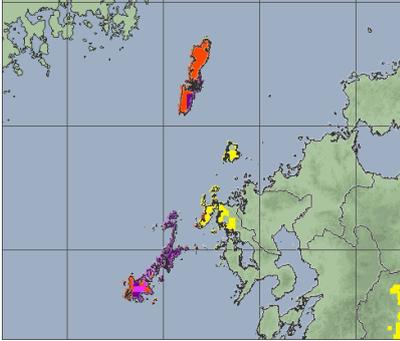
期間総降水量表（上位10地点）（7月17日～7月22日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量
				(mm)
1	高知県	長岡郡本山町	本山(モトヤマ)	679.5
2	長崎県	対馬市	巖原(イヅハラ)	477.5
3	佐賀県	鳥栖市	鳥栖(トス)	470.5
4	大分県	佐伯市	宇目(ウメ)	457.0
5	高知県	吾川郡仁淀川町	池川(イケガワ)	453.0
6	福岡県	久留米市	久留米(クルメ)	450.0
7	長崎県	五島市	福江(フクエ)	445.0
8	宮崎県	延岡市	北方(キタカタ)	437.0
9	高知県	香美市	大柄(オオドチ)	426.5
10	長崎県	南松浦郡新上五島町	有川(アリカワ)	404.0

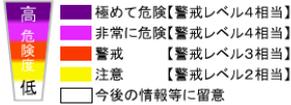
大雨特別警報を公表した頃の危険度分布の状況

7月20日10時の危険度分布（10時05分に長崎県に大雨特別警報を公表）

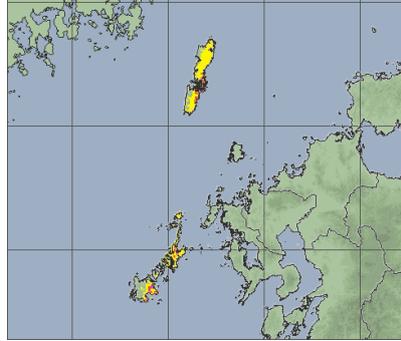
大雨警報（土砂災害）
の危険度分布



大雨警報(土砂災害)の危険度分布



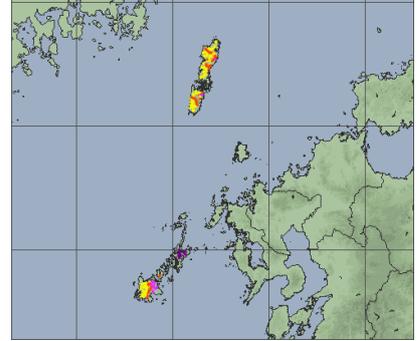
大雨警報（浸水害）
の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布

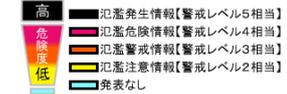


洪水警報
の危険度分布



指定河川洪水予報

【国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな被害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。】



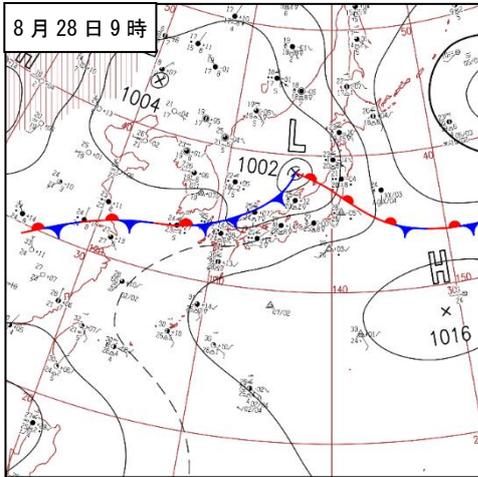
洪水警報の危険度分布



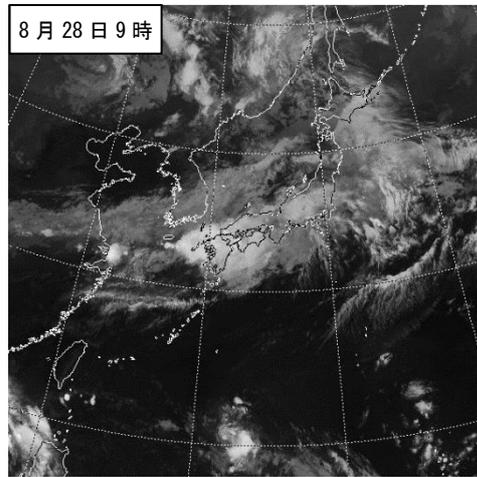
○ 災害番号（5）

前線による九州北部地方を中心とした大雨（8月26日～8月29日）

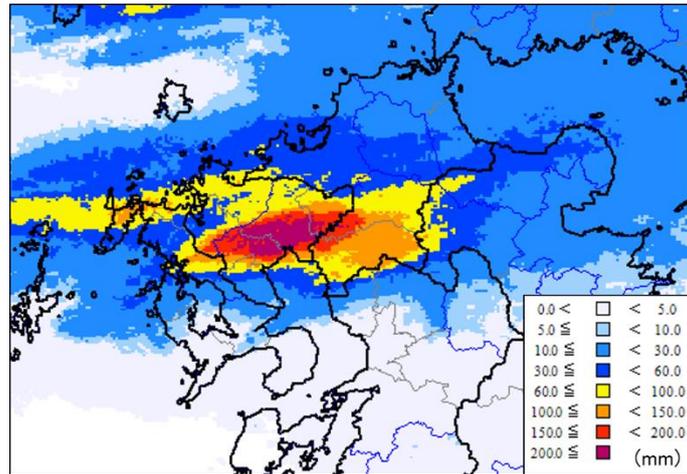
地上天気図



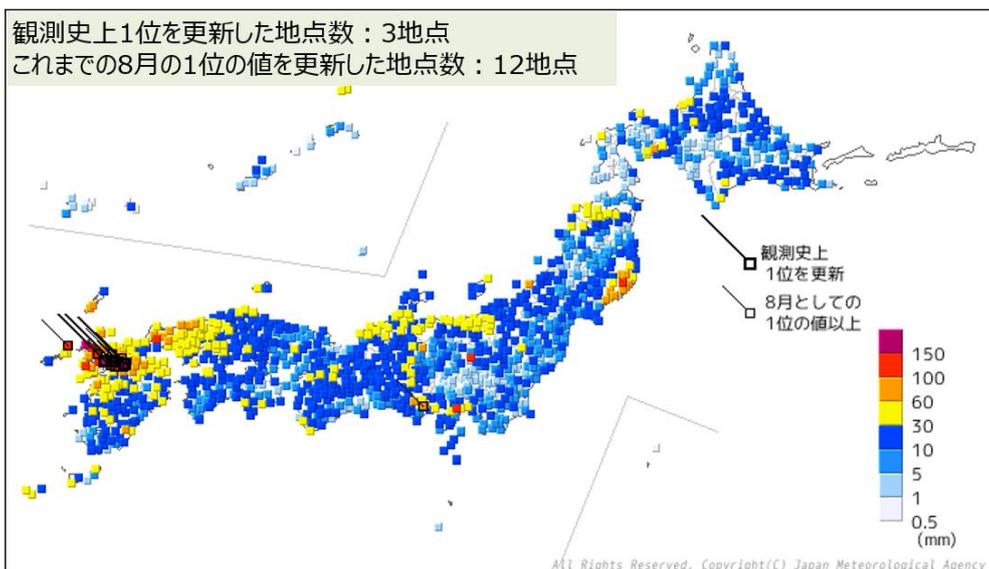
気象衛星画像（赤外）



8月28日6時までの3時間降水量



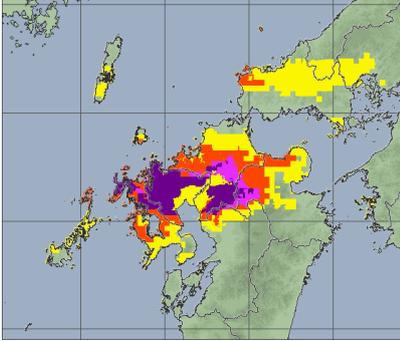
期間最大3時間降水量分布図（8月26日～29日）



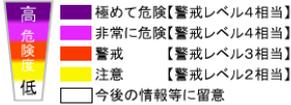
大雨特別警報を公表した頃の危険度分布の状況

8月28日6時の危険度分布（5時50分に佐賀県、福岡県、長崎県に大雨特別警報を公表）

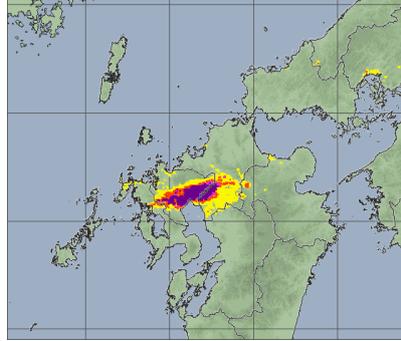
大雨警報（土砂災害）
の危険度分布



大雨警報(土砂災害)の危険度分布



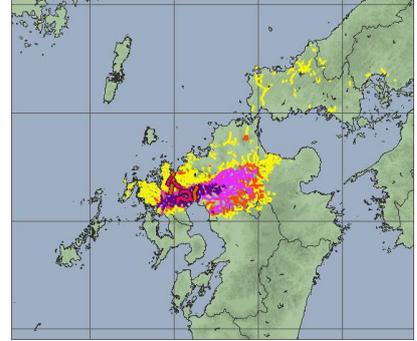
大雨警報（浸水害）
の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布

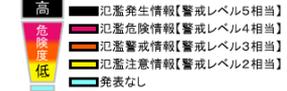


洪水警報
の危険度分布

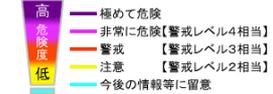


指定河川洪水予報

【国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、決壊により大きな被害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。】

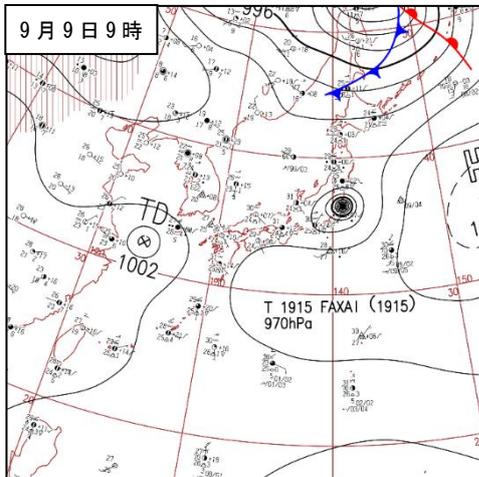


洪水警報の危険度分布

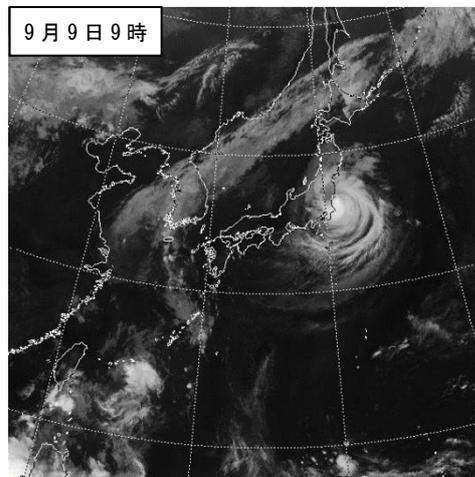


令和元年房総半島台風による暴風・大雨（9月8日～9月9日）

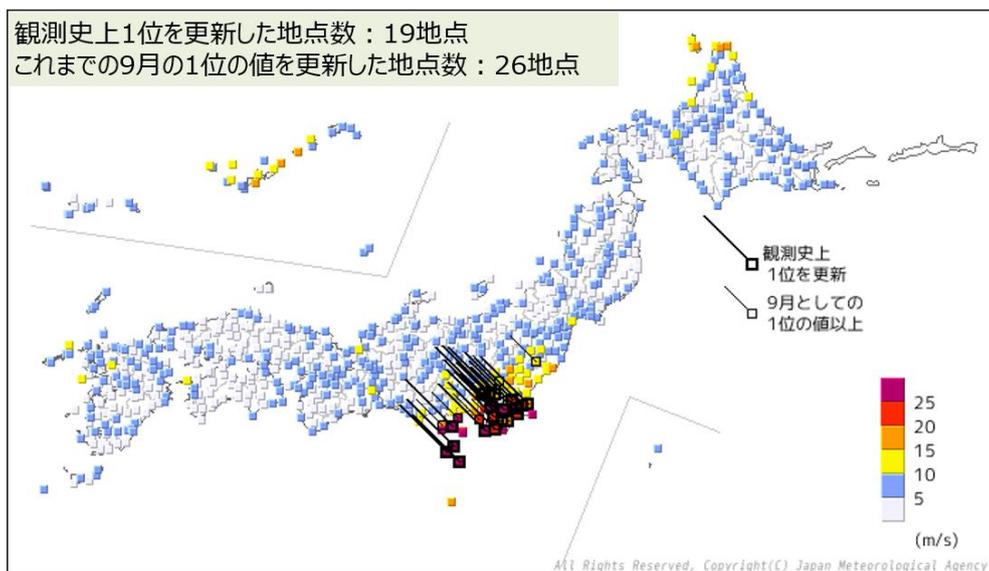
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大風速分布図



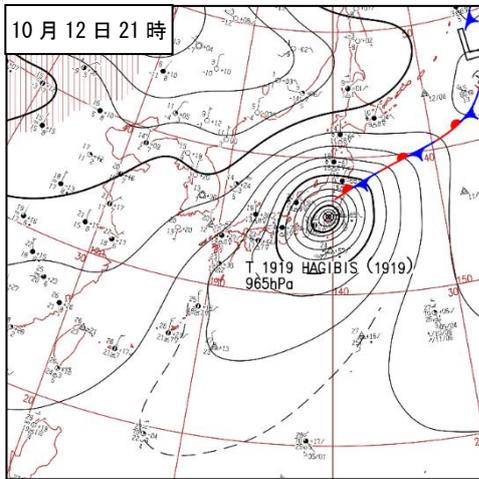
期間最大風速表（上位10地点）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	風速			
				(m/s)	風向	月日	時分
1	東京都	神津島村	神津島(コウツシマ)	43.4	東南東	2019/9/8	21:13
2	東京都	新島村	新島(ニイジマ)	39.0	東南東	2019/9/8	21:59
3	東京都	三宅村	三宅坪田(ミヤケツボタ)	37.4	南	2019/9/8	21:27
4	千葉県	千葉市中央区	千葉(チバ)	35.9	南東	2019/9/9	04:28
5	東京都	大田区	羽田(ハネダ)	32.4	東北東	2019/9/9	03:32
6	東京都	大島町	大島(オオシマ)	30.2	西南西	2019/9/9	01:16
7	千葉県	成田市	成田(ナリタ)	29.6	南南東	2019/9/9	05:36
8	千葉県	勝浦市	勝浦(カツウラ)	29.5	南	2019/9/9	03:35
9	千葉県	館山市	館山(タテヤマ)	28.4	南	2019/9/9	02:14
10	静岡県	賀茂郡東伊豆町	稲取(イナトリ)	27.9	北北東	2019/9/8	23:21

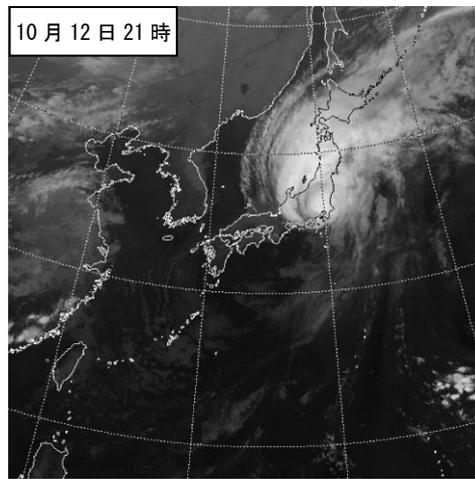
○ 災害番号（7）

令和元年東日本台風による大雨等（10月10日～10月13日）

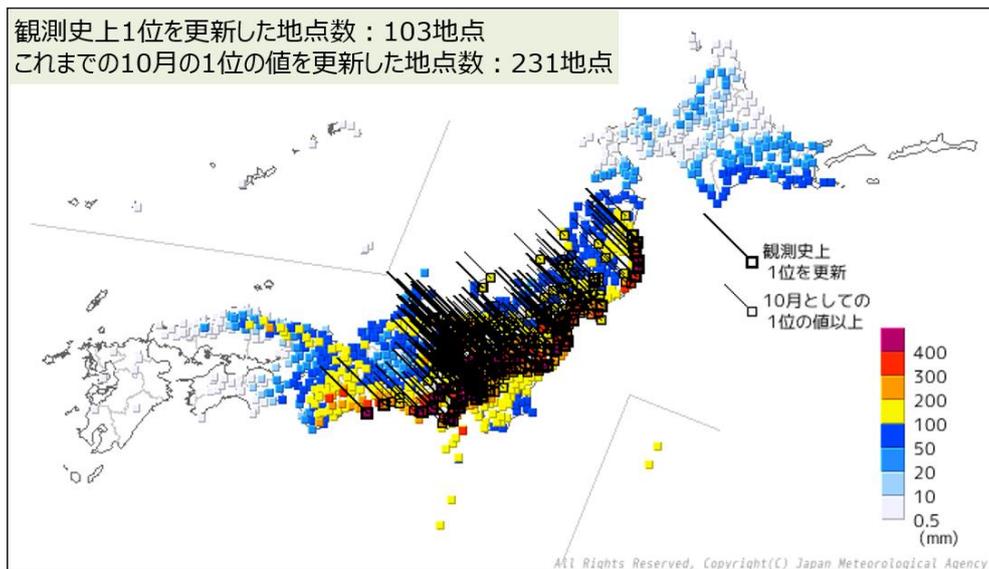
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大 24 時間降水量分布図（10月10日～13日）



期間最大 24 時間降水量表（上位 10 地点）（10月10日～13日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	神奈川県	足柄下郡箱根町	箱根(ハコネ)	942.5	2019/10/12	21:00
2	静岡県	伊豆市	湯ヶ島(ユガシマ)	717.5	2019/10/12	18:50
3	埼玉県	秩父市	浦山(ウラヤマ)	647.5	2019/10/12	22:00
4	東京都	西多摩郡檜原村	小沢(オザワ)	627.0	2019/10/12	21:20
5	静岡県	静岡市葵区	梅ヶ島(ウメガシマ)	613.5	2019/10/12	20:00
6	神奈川県	相模原市緑区	相模湖(サガミコ)	604.5	2019/10/12	21:20
7	宮城県	伊具郡丸森町	筆甫(ヒツポ)	588.0	2019/10/13	03:50
8	埼玉県	比企郡ときがわ町	ときがわ(トキガワ)	587.0	2019/10/12	22:10
9	東京都	西多摩郡奥多摩町	小河内(オゴウチ)	580.0	2019/10/12	21:20
10	埼玉県	秩父市	三峰(ミツミネ)	561.5	2019/10/12	21:40

大雨特別警報を公表した頃の危険度分布の状況

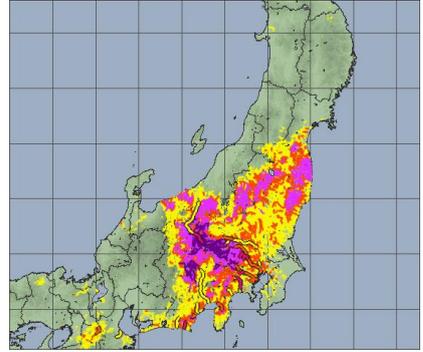
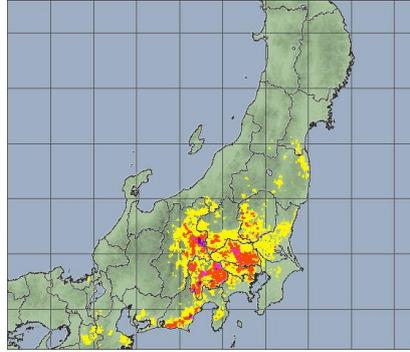
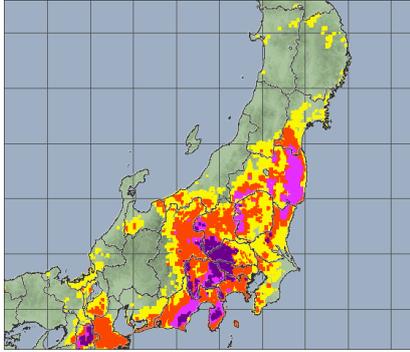
10月12日16時の危険度分布

(15時30分に静岡県、神奈川県、東京都、埼玉県、群馬県、山梨県、長野県に大雨特別警報を発表)

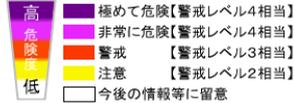
大雨警報(土砂災害)
の危険度分布

大雨警報(浸水害)
の危険度分布

洪水警報
の危険度分布



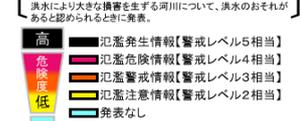
大雨警報(土砂災害)の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布



指定河川洪水予報



洪水警報の危険度分布



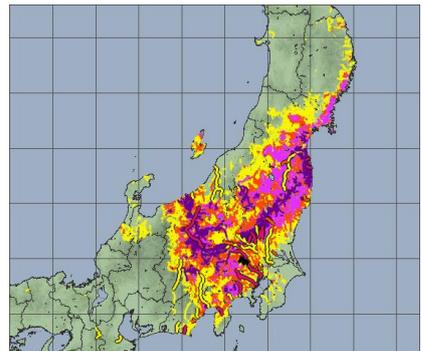
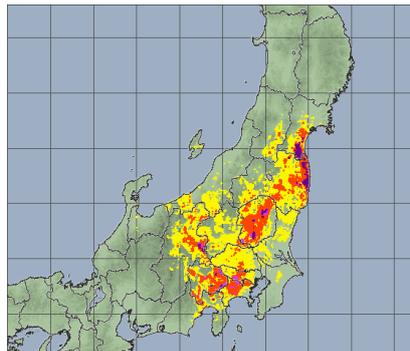
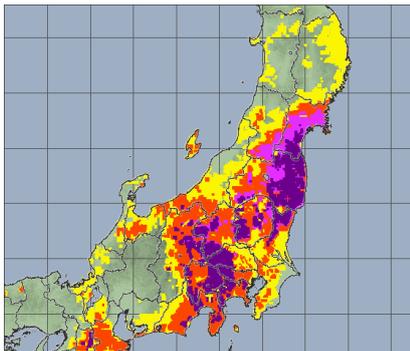
10月12日20時の危険度分布

(19時50分に茨城県、栃木県、新潟県、福島県、宮城県に大雨特別警報を発表)

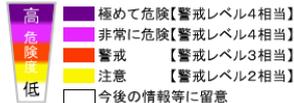
大雨警報(土砂災害)
の危険度分布

大雨警報(浸水害)
の危険度分布

洪水警報
の危険度分布



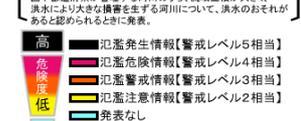
大雨警報(土砂災害)の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布



指定河川洪水予報

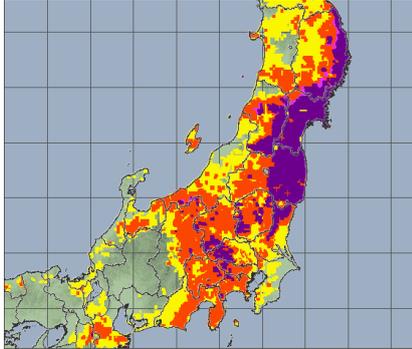


洪水警報の危険度分布

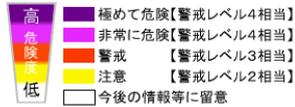


10月13日1時の危険度分布 (0時40分に岩手県に大雨特別警報を発表)

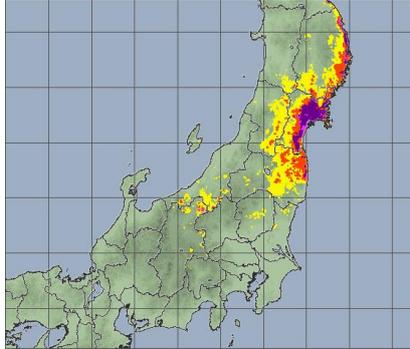
大雨警報(土砂災害)
の危険度分布



大雨警報(土砂災害)の危険度分布



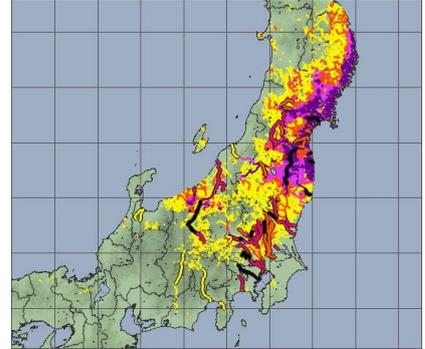
大雨警報(浸水害)
の危険度分布



大雨警報(浸水害)の危険度分布

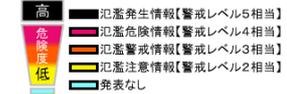


洪水警報
の危険度分布



指定河川洪水予報

国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、決壊により大きな被害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると思われるときに発表。

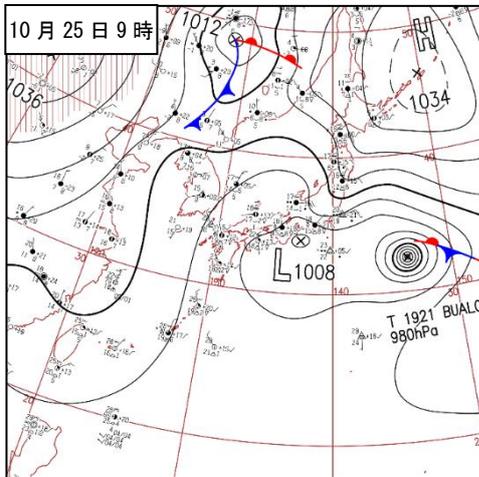


洪水警報の危険度分布

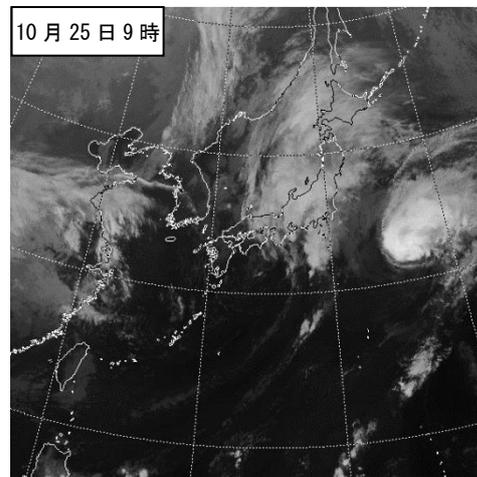


低気圧等による関東地方や東北地方での大雨（10月24日～26日）

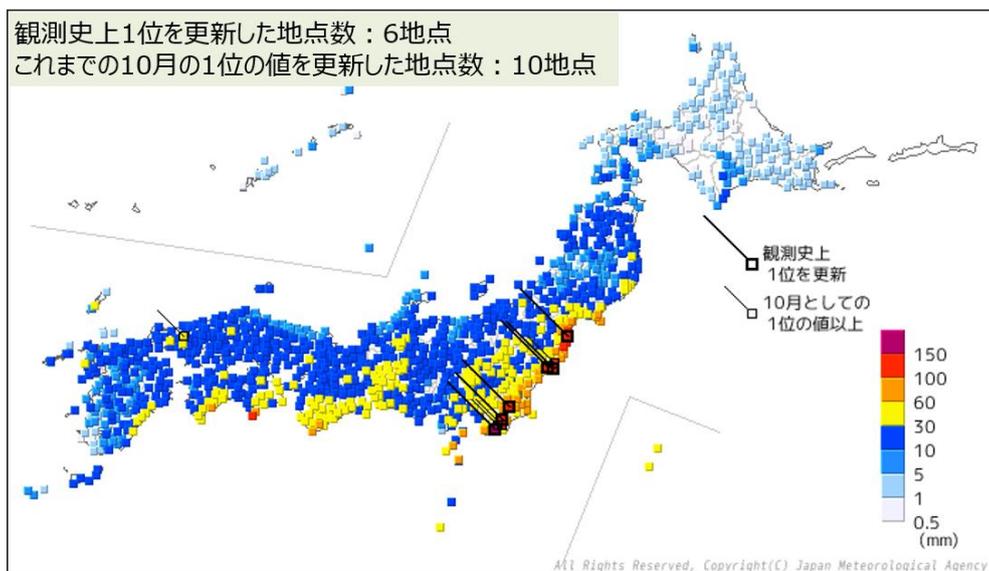
地上天気図



気象衛星画像（赤外）



期間最大3時間降水量分布図（10月24日～26日）



期間最大3時間降水量表（上位10地点）（10月24日～26日）

順位	都道府県	市町村	地点名(よみ)	降水量		
				(mm)	月日	時分
1	千葉県	鴨川市	鴨川(カモガワ)	160.0	2019/10/25	12:00
2	福島県	相馬市	相馬(ソウマ)	141.0	2019/10/25	21:50
3	千葉県	市原市	牛久(ウシク)	139.5	2019/10/25	12:50
4	千葉県	夷隅郡大多喜町	大多喜(オオタキ)	131.5	2019/10/25	12:20
5	福島県	相馬郡新地町	新地(シンチ)	130.5	2019/10/25	22:10
6	千葉県	君津市	坂畑(サカハタ)	126.0	2019/10/25	11:00
7	福島県	いわき市	小名浜(オナハマ)	123.5	2019/10/25	19:30
8	福島県	いわき市	平(タイラ)	121.0	2019/10/25	19:50
8	千葉県	佐倉市	佐倉(サクラ)	121.0	2019/10/25	14:30
10	高知県	室戸市	室戸岬(ムロトミサキ)	117.5	2019/10/24	21:00

資料1-2-2 平成31年・令和元年(2019年)に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	人的被害・住家被害	日本版改良藤田(JEF)スケール	気象状況
4月23日 11時30分頃	不明	埼玉県 ふじみ野市	負傷者1名	不明	移動性高気圧
5月3日 14時40分頃	不明	群馬県 太田市	負傷者2名	不明	移動性高気圧
8月28日 07時59分頃	竜巻	静岡県 三島市	負傷者3名、 住家半壊2棟	JEF1	日本海低気圧 暖気の移流
9月22日 08時30分頃	竜巻	宮城県 延岡市	負傷者18名 住家半壊1棟	JFE2	台風
10月12日 08時08分頃	竜巻	千葉県 市原市	死者1名、負傷者9名 住家全壊12棟、半壊23棟	JFE2	台風
12月2日 14時10分頃	不明	神奈川県 横浜市	負傷者1名	JEF0	寒冷前線

被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したものを掲載。

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載している。

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)とは、米国シカゴ大学の藤田哲也により1971年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをより的確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケール。

階級	風速(m/s)の範囲 (3秒値)	主な被害の状況(参考)
JEF0	25-38	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損壊が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。 ・園芸施設において、被覆材(ビニルなど)がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。 ・物置が移動したり、横転する。 ・自動販売機が横転する。 ・コンクリートブロック塀(鉄筋なし)の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。 ・樹木の枝(直径2cm~8cm)が折れたり、広葉樹(腐朽有り)の幹が折損する。
JEF1	39-52	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。 ・園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。 ・軽自動車や普通自動車(コンパクトカー)が横転する。 ・通常走行中の鉄道車両が転覆する。 ・地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。 ・道路交通標識の支柱が傾斜したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀(鉄筋あり)が損壊したり、倒壊する。 ・樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。
JEF2	53-66	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷(ゆがみ、ひび割れ等)する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。 ・鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。 ・普通自動車(ワンボックス)や大型自動車が横転する。 ・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。 ・カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。 ・コンクリートブロック塀(控壁のあるもの)の大部分が倒壊する。 ・広葉樹の幹が折損する。 ・墓石の碑石が転倒したり、ずれたりする。
JEF3	67-80	<ul style="list-style-type: none"> ・木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが比較的広い範囲で変形する。 ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。 ・鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。 ・アスファルトがはく離・飛散する。
JEF4	81-94	<ul style="list-style-type: none"> ・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。
JEF5	95-	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。 ・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが著しく変形したり、脱落する。

日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

(https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf) より

資料 1-2-3 平成 31 年・令和元年（2019 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震、火山を除く）

<内閣府作成資料等から引用>

■激甚災害（本激：地域を特定せず、災害そのものを指定）

期間	災害原因	気象要因
6/6～7/24	豪雨、暴風雨	梅雨前線等（台風第 3 号及び台風第 5 号を含む）
8/13～9/24	暴風雨、豪雨	前線等（台風第 10 号、台風第 13 号、台風第 15 号及び台風第 17 号を含む）
10/11～10/26	暴風雨、豪雨	台風第 19 号、台風第 20 号及び第 21 号

■局地激甚災害（局激：市町村単位で災害を指定）

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
5/13～5/21	豪雨	低気圧、前線	和歌山県	那智勝浦町
			沖縄県	与那国町
6/2～7/16	豪雨、暴風雨	梅雨前線等（台風第 3 号を含む）	鹿児島県	曾於市
			沖縄県	伊平屋村

（注）激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定された政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

＜内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用＞

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

3 本激と局激の違い

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。

ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 平成 31 年・令和元年(2019 年) 台風の概要

2-1 平成 31 年・令和元年(2019 年)に発生した台風

台風の発生数は平年より多い 29 個(平年値 25.6 個)であった。7 月以降の発生数は 26 個と平年値 21 個を上回り、特に 11 月には 6 個の台風が発生し、台風の統計を開始した 1951 年以降、11 月の発生数としては 1964 年と 1991 年に並び最多となった。日本への台風の接近数は平年より多い 15 個(平年値 11.4 個)であった。日本への台風の上陸数は平年値 2.7 個を上回り 5 個(第 6 号、第 8 号、第 10 号、令和元年房総半島台風(第 15 号)、令和元年東日本台風(第 19 号))となった。

表 2.1 平成 31 年・令和元年(2019 年)の台風発生数、日本への上陸数*¹、日本への接近数*²と平年値及び平成 30 年(2018 年)との比較

項目	月	月												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	2.7	
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成 30 年 (2018 年)	発生数	1	1	1			4	5	9	4	1	3	29	
	上陸数							1	2	2			5	
	接近数						2	4	7	2	2	1	16	
平成 31 年・ 令和元年 (2019 年)	発生数	1	1				1	4	5	6	4	6	1	29
	上陸数							1	2	1	1		5	
	接近数						1	2	3	5	4	1	15	

(注)・平年値は、昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年)の 30 年平均。

- ・日本への接近は 2 か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*¹ 台風が中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*² 台風が中心が、国内のいずれかの気象官署等から 300km 以内に入った場合を「接近」という。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (+)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (0)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (0)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (0)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (+)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	3	5	3	5	4	3	29 (+)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H.1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (+)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (+)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (+)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (0)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
2010 22	0	0	1	0	0	0	2	5	4	2	0	0	14 (-)
11 23	0	0	0	0	2	3	4	3	7	1	0	1	21 (-)
12 24	0	0	1	0	1	4	4	5	3	5	1	1	25 (0)
13 25	1	1	0	0	0	4	3	6	7	7	2	0	31 (+)
14 26	2	1	0	2	0	2	5	1	5	2	1	2	23 (-)
15 27	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27 (0)
16 28	0	0	0	0	0	0	4	7	7	4	3	1	26 (0)
17 29	0	0	0	1	0	1	8	5	4	3	3	2	27 (0)
18 30	1	1	1	0	0	4	5	9	4	1	3	0	29 (+)
19 R.1	1	1	0	0	0	1	4	5	6	4	6	1	29 (+)
平年値 1981-2010	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6

台風の発生月：熱帯低気圧が台風(風速およそ17m/s以上)となった月とする。

年間の(-)は24個未満、(0)は24個以上29個未満、(+)は29個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H.1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
11 23	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
12 24	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
13 25	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
14 26	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
15 27	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
16 28	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	6
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	4
18 30	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	5
19 R.1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
平年値	-	-	-	-	0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	-	2.7
1981-2010													

台風の日本への上陸:台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H.1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	0	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	7
11 23	0	0	0	0	2	1	1	2	4	0	0	0	9
12 24	0	0	0	0	1	3	3	6	3	4	0	0	17
13 25	0	0	0	0	0	2	1	2	4	6	0	0	14
14 26	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	1	0	12
15 27	0	0	0	0	2	0	3	4	4	0	1	0	14
16 28	0	0	0	0	0	0	1	5	4	1	0	0	11
17 29	0	0	0	0	0	0	4	2	2	2	0	0	8
18 30	0	0	0	0	0	2	4	7	2	2	1	0	16
19 R.1	0	0	0	0	0	1	2	3	5	4	1	0	15
平年値	-	-	-	0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
1981-2010													

台風の接近：台風の中心が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H.1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
2010 22	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
11 23	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	0	0	5
12 24	0	0	0	0	0	1	0	3	2	1	0	0	6
13 25	0	0	0	0	0	1	0	0	2	3	0	0	6
14 26	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
15 27	0	0	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	6
16 28	0	0	0	0	0	0	0	5	3	1	0	0	9
17 29	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	5
18 30	0	0	0	0	0	1	2	5	2	2	0	0	10
19 R.1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	0	0	8
平年値	-	-	-	0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0	-	5.5
1981-2010	-	-	-	0.0	0.1	0.4	1.0	1.7	1.7	0.7	0.0	-	5.5

台風の北海道・本州・四国・九州への接近：台風が中心が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 平成31年・令和元年(2019年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値						熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時				
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧		風速		強風半径		月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経	
								月日時	hPa	月日時	m/s	月日時	km								
1	PABUK	12 31 15	7.6	111.9	1 1 15	6.3	110.2	1 4 15	996	1 4 15	23	1 4 03	NW:330 SE:220	1 5 03	8.4	99.4	TD	1 5 03		域外	
2	WUTIP	2 18 21	4.7	162.5	2 20 03	4.5	155.5	2 24 09	920	2 24 09	55	2 24 09		440	2 28 15	17.6	135.6	TD	3 2 15	18.9	133.1
3	SEPAT	6 24 21	17.9	127.7	6 27 21	32.6	134.7	6 28 09	994	6 28 09	20	6 28 09	SE:280 NW:110	6 28 15	36.0	147.0	L	7 2 21		域外	
4	MUN	7 2 03	18.0	114.0	7 2 15	18.8	112.4	7 3 21	992	7 4 09	18	7 2 21	SE:900 NW:440	7 4 15	21.6	105.4	TD	7 5 03	23.1	103.8	
5	DANAS	7 14 09	12.6	136.7	7 16 15	17.1	124.9	7 20 09	985	7 19 21	23	7 18 21	SE:650 NW:500	7 21 03	36.6	127.2	TD	7 23 15	43.1	137.1	
6	NARI	7 24 09	23.0	137.0	7 26 03	28.5	137.3	7 27 03	998	7 27 09	18	7 27 07	E:390 W:220	7 27 15	35.6	136.7	TD	7 29 21	40.5	152.9	
7	WIPHA	7 30 09	17.1	116.0	7 31 03	18.4	114.2	8 2 15	985	8 2 15	23	8 1 15	E:500 W:390	8 3 21	20.2	105.4	TD	8 4 15	20.5	102.1	
8	FRANCISCO	8 1 09	17.4	154.7	8 2 21	22.3	151.2	8 6 05	970	8 6 05	35	8 5 18	N:280 S:170	8 7 09	37.9	129.0	TD	8 11 15	42.5	172.2	
9	LEKIMA	8 2 15	14.5	134.3	8 4 15	16.9	130.6	8 9 00	925	8 9 00	55	8 11 09	E:700 W:460	8 13 03	37.0	120.0	TD	8 15 03	38.4	121.9	
10	KROSA	8 5 09	15.6	147.7	8 6 15	18.5	142.8	8 15 00	965	8 9 21	40	8 13 09	S:1100 N:650	8 16 21	43.0	138.0	L	8 17 21	45.1	141.0	
11	BAILU	8 19 21	13.0	134.0	8 21 15	14.6	131.3	8 24 15	985	8 24 21	25	8 23 09		560	8 26 03	24.8	113.0	TD	8 26 15	25.7	111.1
12	PODUL	8 24 15	8.4	142.5	8 28 09	16.5	117.3	8 29 21	992	8 29 21	20	8 28 09	N:440 S:220	8 30 09	16.8	105.1	TD	8 31 09	17.9	102.1	
13	LINGLING	8 31 09	6.2	133.7	9 2 09	15.2	126.1	9 6 00	940	9 6 00	50	9 8 03	E:560 W:300	9 8 09	47.3	130.5	L	9 12 09		域外	
14	KAJIKI	8 30 09	18.2	126.3	9 2 21	17.2	108.4	9 3 03	996	9 3 15	18	9 3 15	NE:560 SW:220	9 3 21	16.4	108.5	TD	9 6 15	18.6	112.5	
15	FAXAI	9 2 09	15.9	167.9	9 5 03	18.6	156.7	9 8 21	955	9 8 21	45	9 7 12	NE:330 SW:220	9 10 09	39.7	148.8	L	9 11 21	46.8	175.9	
16	PEIPAH	9 13 03	11.7	159.2	9 15 09	15.4	149.7	9 16 15	1000	9 16 15	18	9 16 15	E:370 W:190	9 16 21	25.0	142.9	TD	9 17 09	28.9	142.7	
17	TAPAH	9 17 09	20.0	128.7	9 19 09	22.4	128.7	9 22 06	970	9 22 06	35	9 20 21	SE:650 NW:500	9 23 09	37.6	134.2	L	9 23 21	41.0	139.8	
18	MITAG	9 24 21	9.6	155.0	9 28 09	15.7	132.8	10 1 03	965	10 1 03	40	10 1 15		560	10 3 15	38.0	131.0	L	10 5 21	43.4	151.7
19	HAGIBIS	10 5 03	15.7	164.4	10 6 03	15.1	157.4	10 10 15	915	10 10 15	55	10 12 00	E:750 W:650	10 13 12	41.0	147.0	L	10 15 03		域外	
20	NEOGURI	10 15 09	15.8	136.4	10 17 09	18.6	130.3	10 20 09	970	10 20 09	40	10 21 15	NW:260 SE:220	10 21 21	31.3	135.3	L	10 22 09	32.1	137.9	
21	BUALOI	10 18 15	8.7	161.2	10 19 15	10.6	155.0	10 23 03	935	10 23 03	50	10 25 15	NE:560 SW:330	10 25 21	35.1	148.6	L	10 26 09	38.5	149.4	
22	MATMO	10 29 03	11.9	116.6	10 30 03	13.3	112.6	10 30 21	992	10 31 03	25	10 31 09	N:480 S:220	10 31 15	13.8	106.1	TD	11 1 03	13.7	104.0	
23	HALONG	11 1 21	9.6	162.2	11 2 21	13.4	157.7	11 6 15	905	11 6 15	60	11 5 09	NE:440 SW:280	11 9 09	31.2	160.8	L	11 10 15	32.7	170.2	
24	NAKRI	11 4 09	12.7	113.7	11 6 03	13.5	116.0	11 8 21	975	11 8 21	35	11 8 03	NW:500 SE:390	11 11 09	13.0	109.0	TD	11 11 15	13.3	107.8	
25	FENGSHEN	11 10 03	12.6	173.4	11 12 09	14.8	162.5	11 16 21	965	11 16 21	45	11 17 09	NW:280 SE:190	11 17 21	26.2	156.7	L	11 18 09	24.0	158.5	
26	KALMAEGI	11 10 03	14.3	136.0	11 14 21	16.4	127.6	11 19 21	975	11 19 21	35	11 15 03	NW:440 SE:280	11 20 09	17.4	121.7	TD	11 22 09	11.4	114.0	
27	FUNG-WONG	11 17 21	10.6	143.6	11 20 09	16.1	128.2	11 21 15	990	11 21 15	30	11 21 21	NE:330 SW:280	11 22 21	24.6	125.3	TD	11 25 09	32.8	136.7	
28	KAMMURI	11 24 21	8.6	159.7	11 26 09	10.7	149.2	12 3 03	950	12 3 03	45	11 29 09		500	12 6 03	12.4	112.9	TD	12 6 09	11.4	112.9
29	PHANFONE	12 19 21	4.7	151.4	12 22 21	8.7	136.9	12 25 03	970	12 25 03	40	12 26 21	N:220 S:170	12 28 09	14.4	115.2	TD	12 29 09	14.3	111.7	

表中の日時はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

台風第1号の「熱帯低気圧の発生日時」は2018年12月31日15時。

2-2 平成31年・令和元年(2019年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

*ここでは、台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合をいう。

(1) 台風第3号 (1903 SEPAT セーパット)

6月24日21時にフィリピンの東で発生した熱帯低気圧は北北東へ進んだ。その後、熱帯低気圧は東北東に進路を変え、27日21時に室戸岬の南にて台風第3号となり、28日03時に東海地方の沖合で勢力が最大となった。台風は進路を東北東に保ったまま、28日15時に日本の東で温帯低気圧となり、北北東に進んだ後、7月2日21時にベーリング海で東経180度を越えた。

(2) 台風第5号 (1905 DANAS ダナス)

7月14日09時にヤップ島の北の海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、次第に進路を西に変えた後、16日15時にルソン島の東の海上にて台風第5号となった。台風は同海域で進路を北に変え、西表島と石垣島の間を抜けて東シナ海に入り、同海域で19日03時に勢力が最大になった。台風は北に進み、朝鮮半島の西岸に上陸した直後の21日03時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は21日21時に日本海で温帯低気圧に変わり、23日21時に同海域で消滅した。

(3) 台風第6号 (1906 NARI ナーリー)

7月24日09時に沖の鳥島の北海上で発生した熱帯低気圧は北東に進んだ後北に進路を変え、26日03時に小笠原諸島の西海上にて台風第6号となり、勢力が最大になった。台風は勢力を保ったまま北に進み、27日07時頃に三重県南部に上陸し、27日15時に岐阜県付近で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は東北東に進路を変えた後28日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わり、東北東に進路を保ったまま、30日03時に日本のはるか東の海上で消滅した。

(4) 台風第8号 (1908 FRANCISCO フランシスコ)

8月1日09時に南鳥島の南で発生した熱帯低気圧は北西に進み、2日21時に南鳥島の南西で台風第8号となった。台風は北西に進路を保ったまま、5日21時に四国の南で勢力が最大になり、6日05時頃、強い勢力で宮崎県宮崎市付近に上陸した。台風は進路を北に変えた後、朝鮮半島を通過し、7日09時に日本海で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は転向して東向きに加速し、9日03時に同海域で温帯低気圧に変わった後、11日21時にアリューシャンの南で消滅した。

(5) 台風第9号 (1909 LEKIMA レキマー)

8月2日15時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は初め西に進み、すぐに北北西に進路を変え、4日15時に同海域で台風第9号となった。台風は5日から急速に発達し、8日21時に石垣島付近で勢力が最大になった後、北北西の進路を保ったまま、東シナ海で徐々に勢力を弱めた。台風は10日03時頃に華中に上陸した後、進路を北に変え、12日に山東半島で反時計回りに1回転した後、13日03時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は14日09時に遼東半島付近で温帯低気圧に変わり、15日09時に黄海で消滅した。

(6) 台風第10号 (1910 KROSA クローサ)

8月5日09時にサイパン島の東海上で発生した熱帯低気圧は北西に進み、6日15時にフィリピン海東部にて台風第10号となった。台風は速度を落とし、8日15時に勢力が最大となり、反時計回りに半回転した後、再び北西に進んだ。台風は奄美郡島のはるか東で北に進路を変え、四国と九州の間を抜けて、15日11時過ぎに愛媛県佐田岬半島を通過した後、15日15時頃に広島県呉市付近に上陸した。台風は日本海に進み、16日21時に温帯低気圧に変わり、18日03時に北海道北部の西の沖合で消滅した。

(7) 台風第11号 (1911 BAILU バイルー)

8月19日21時にパラオの北の海上で発生した熱帯低気圧は北西にゆっくりと進み、21日15時に同海域で台風第11号となり、引き続き北西に進んだ。台風は、23日03時にルソン島の東の海上で勢力が最大となり、次第に西北西に進路を変えた後、24日に台湾を通過した。台風は 西北西に進路を保ったまま、25日09時頃に華南に上陸し、26日03時に熱帯低気圧に変わった後、26日21時に同地域で消滅した。

(8) 台風第13号 (1913 LINGLING レンレン)

8月31日09時にカロリン諸島付近で発生した熱帯低気圧は、初めは北西に進み、9月2日09時にフィリピンの東で台風第13号となり、進路を北に変えた。台風は沖縄の南の海上で速度を落とし、5日15時に宮古島付近で勢力が最大となった。台風は加速して東シナ海を北に進み、7日に朝鮮半島に上陸し、8日09時に中国東北区で温帯低気圧に変わった後、次第に進路を東に変えた。低気圧はベーリング海に進み、12日09時に東経180度を越えた。

(9) 令和元年房総半島台風 (台風第15号) (1915 FAXAI ファクサイ)

9月2日09時にウェーク島の南海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進んだ後、5日03時に南鳥島の南東海上で台風第15号となり、北西に進路を変えた。台風は北西に進路を保ったまま、急速に発達し、8日03時に八丈島の南で勢力が最大となった後、北北西に進路を変えた。台風は北北東に転向し、9日03時前に三浦半島付近を通過して、9日05時前に千葉県千葉市付近に上陸した。台風は日本の東を北東に進み、10日09時に温帯低気圧に変わり、東北東に加速して12日03時にアリューシャンの南で消滅した。気象庁は、この台風について「令和元年房総半島台風」と名称を定めた。

(10) 台風第16号 (1916 PEIPAH ペイパー)

9月13日03時にマーシャル諸島付近で発生した熱帯低気圧は、初めは西に進み、次第に進路を北西に変えた。熱帯低気圧は15日09時にマリアナ諸島の東の海上で台風第16号となり、勢力が最大となった。台風は16日21時に小笠原諸島付近で熱帯低気圧に変わり、進路を北に変えて、17日15時に父島付近で消滅した。

(11) 台風第17号 (1917 TAPAH ターファー)

9月17日09時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧はゆっくりと北に進んだ後、19日09時に同海域で台風第17号となり、北西に進路を変えた。台風は21日03時に宮古島付近で勢力が最大となった後、勢力

を維持したまま東シナ海を北へ進んだ。台風は北東に進路を変えて徐々に勢力を落とし、23日09時に日本海で温帯低気圧に変わった後、24日03時に北日本の日本海沿岸で消滅した。

(12) 台風第18号 (1918 MITAG ミートク)

9月24日21時にトラック諸島付近で発生した熱帯低気圧は、初め西北西に進んだ後、進路を北西に変えた。熱帯低気圧は、28日09時にフィリピンの東で台風第18号となった後、進路を北に変え、30日21時に与那国島の西で勢力が最大となった。台風は、進路を北東に変え、10月2日21時過ぎに朝鮮半島に上陸した後、3日15時に日本海で温帯低気圧に変わり、6日03時に日本の東海上で消滅した。

(13) 令和元年東日本台風 (台風第19号) (1919 HAGIBIS ハギビス)

10月5日03時にウェーク島の南海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、6日03時に南鳥島の南で台風第19号となった。台風は急速に発達し、7日21時にマリアナ諸島付近の海上で勢力が最大となった。その後、台風は次第に北に進路を変えて概ね北に進み、12日19時前に伊豆半島に上陸した。台風は関東地方を通過して太平洋に進み、13日12時に北海道の南東で温帯低気圧に変わった後、15日03時に東経180度を越えた。気象庁は、この台風について「令和元年東日本台風」と名称を定めた。

(14) 台風第20号 (1920 NEOGURI ノグリー)

10月15日09時に沖の鳥島の南海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、17日09時に沖の鳥島の西で台風第20号となった。台風は20日03時に沖縄の南で勢力が最大となった後、次第に進路を北東に変え加速した。台風は21日21時に本州の南で温帯低気圧に変わり、22日15時に消滅した。

(15) 台風第21号 (1921 BUALOI ブアローイ)

10月18日15時にマーシャル諸島付近で発生した熱帯低気圧は、西北西に進み、19日15時にポンペイ島の北西の海上で台風第21号となった。台風は進路を徐々に北西に変え、22日15時に勢力が最大となった後、北に進路を変えて、24日09時頃に父島付近の海上を通過した。台風は、北東に加速した後、25日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わり、26日15時に消滅した。

(16) 台風第25号 (1925 FENGSHEN フンシェン)

11月10日03時にマーシャル諸島付近で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、12日09時に同海域で台風第25号となった。台風は、西北西に進路を保ったまま約2日間発達し続けた後、次第に進路を北に変えて、急速に発達した。台風は15日15時に父島の南で勢力が最大となった後、次第に進路を北東に変えた。その後、台風は東に進路を変えて、勢力を落とし、17日21時に南鳥島の北東海上で温帯低気圧に変わった後、南東に進み、18日15時に南鳥島の東で消滅した。

(17) 台風第27号 (1927 FUNG-WONG フォンウオン)

11月17日21時にマリアナ諸島付近で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、20日09時にフィリピンの東海上で台風第27号となった。台風は21日09時に八重山諸島の南で勢力が最大となり、進路を北に変

えた後、すぐに北北東に進路を変えて急速に勢力を落とし、22日21時に宮古島付近で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は24日03時に東シナ海で温帯低気圧に変わり、東北東に進路を変えて、25日15時に紀伊半島沖で消滅した。

資料2-2-1 平成31年・令和元年(2019年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

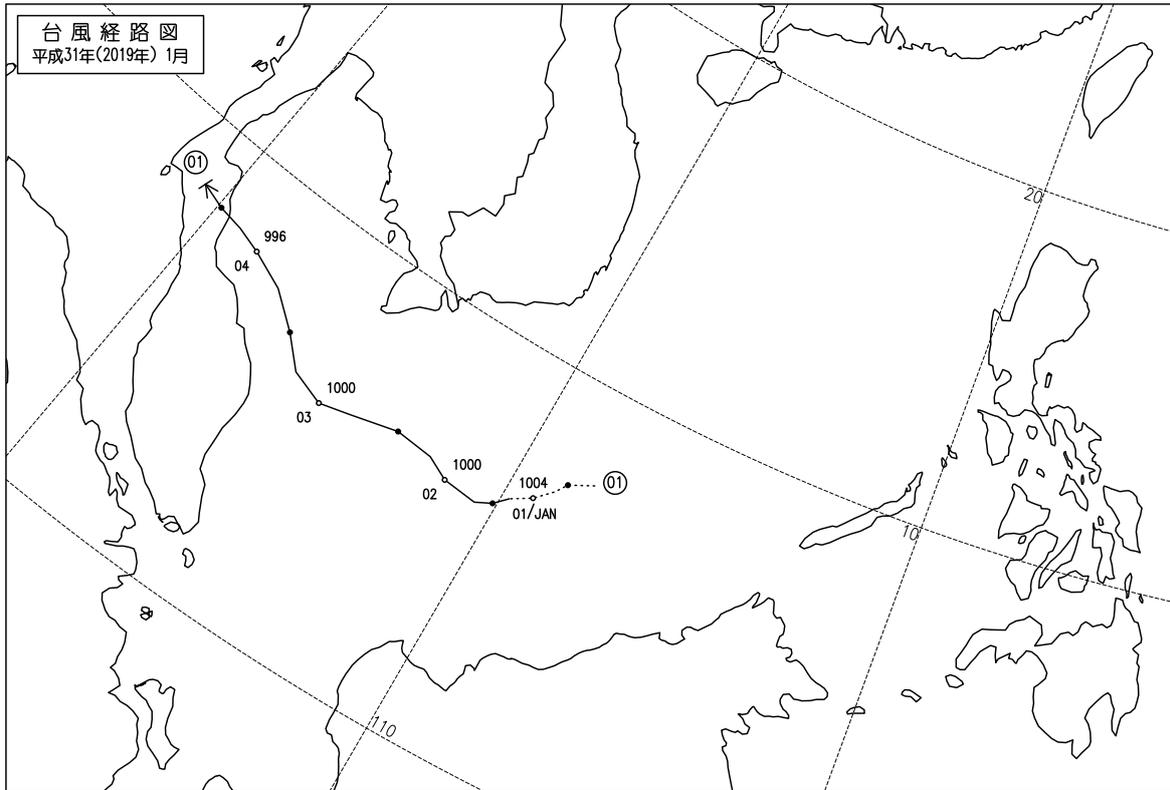
台風 番号	日本への影響 (台風が中心が日本から概ね500km以内に入った場合)			日本への接近 (台風が中心が日本から概ね300km以内に入った場合)			上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
3	6/27	6/28	西日本、東日本、東北地方	6/27	6/28	西日本、東日本、東北地方	上陸、通過なし。
5	7/17	7/21	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方、中国地方	7/18	7/19	沖縄地方	上陸、通過なし。
6	7/26	7/27	西日本、東日本、東北地方	7/26	7/27	四国地方、中国地方、近畿地方、東日本	27日07時頃、三重県南部に上陸した。
8	8/3	8/7	奄美地方、西日本、東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島	8/4	8/7	九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方、伊豆諸島、小笠原諸島	6日05時頃、宮崎県宮崎市付近に上陸した。
9	8/7	8/10	沖縄・奄美	8/8	8/9	沖縄地方	上陸、通過なし。
10	8/10	8/16	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本	8/14	8/16	西日本、東海地方、北陸地方、北日本	15日11時過ぎ、愛媛県佐田岬半島を通過した。 15日15時頃、広島県呉市付近に上陸した。
11	8/23	8/25	沖縄地方				上陸、通過なし。
13	9/3	9/7	沖縄・奄美、九州南部、九州北部地方	9/4	9/6	沖縄地方	上陸、通過なし。
15	9/7	9/10	四国地方、中国地方、近畿地方、東日本、北日本	9/7	9/9	近畿地方、東日本、東北地方	9日03時前、三浦半島付近を通過した。 9日05時前、千葉県千葉市付近に上陸した。
16	9/16	9/16	伊豆諸島、小笠原諸島	9/16	9/16	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。
17	9/19	9/23	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信地方、北陸地方	9/20	9/23	沖縄地方、西日本、北陸地方	上陸、通過なし。
18	9/29	10/3	沖縄地方、西日本	9/30	10/3	沖縄地方、九州北部地方、中国地方	上陸、通過なし。
19	10/10	10/13	四国地方、中国地方、近畿地方、東日本、北日本	10/12	10/13	近畿地方、東日本、北日本	12日19時前、伊豆半島に上陸した。
20	10/19	10/21	沖縄・奄美、西日本、東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島	10/20	10/21	沖縄・奄美、九州南部、四国地方、近畿地方	上陸、通過なし。
21	10/23	10/25	伊豆諸島、小笠原諸島	10/23	10/24	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。
25	11/16	11/16	伊豆諸島、小笠原諸島				上陸、通過なし。
27	11/21	11/22	沖縄・奄美	11/22	11/22	沖縄地方	上陸、通過なし。

台風が中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。

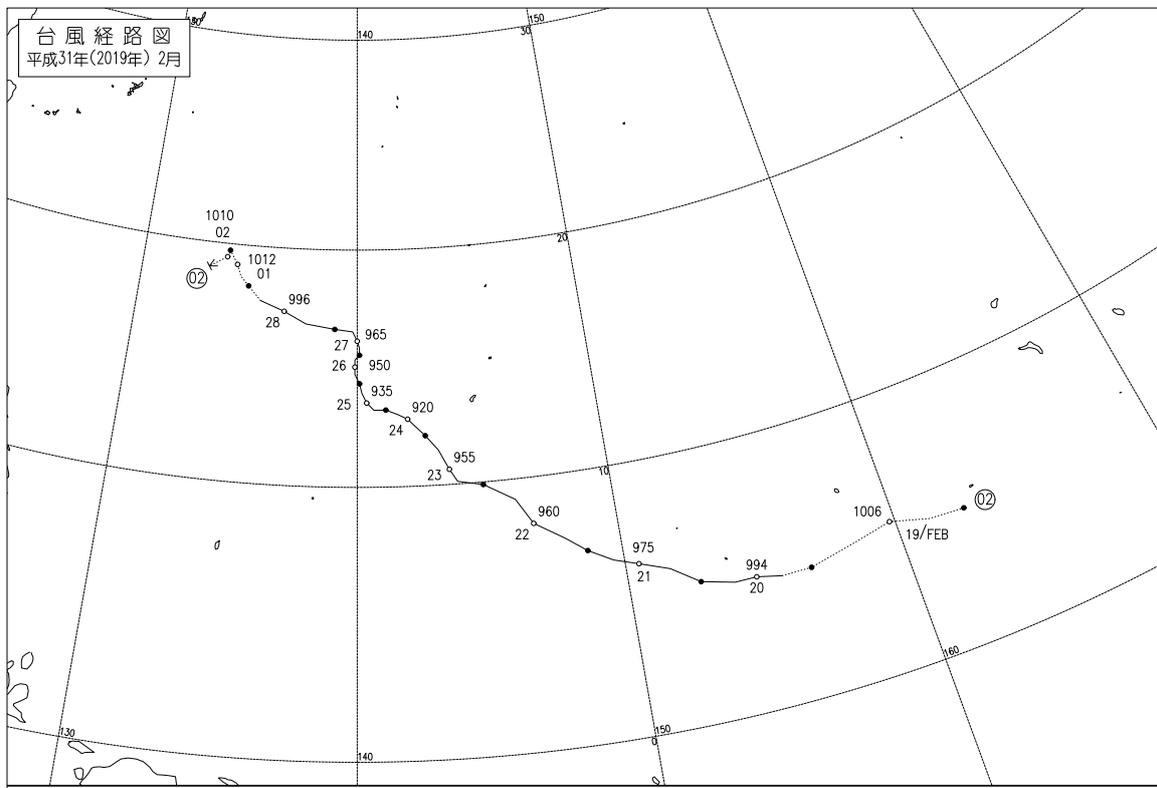
台風が中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

資料 2-2-2 平成 31 年・令和元年(2019 年)に発生した台風の経路図(月別)

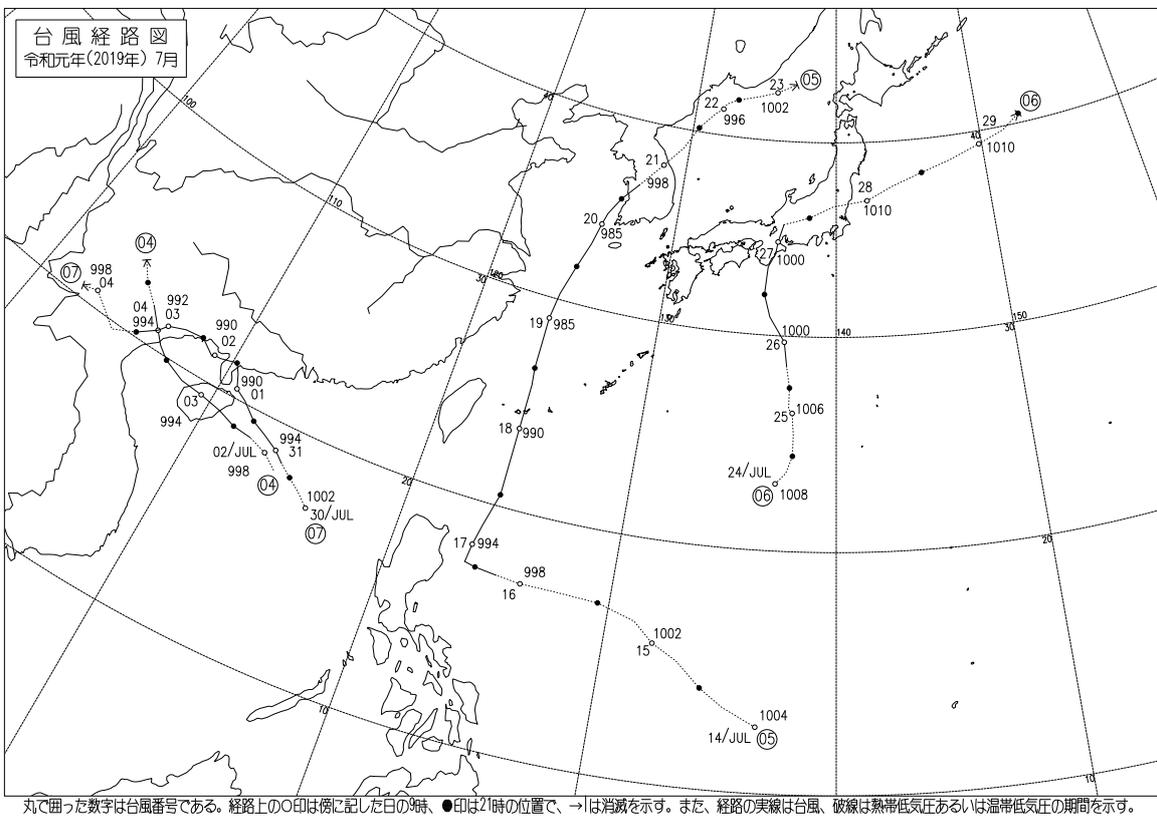
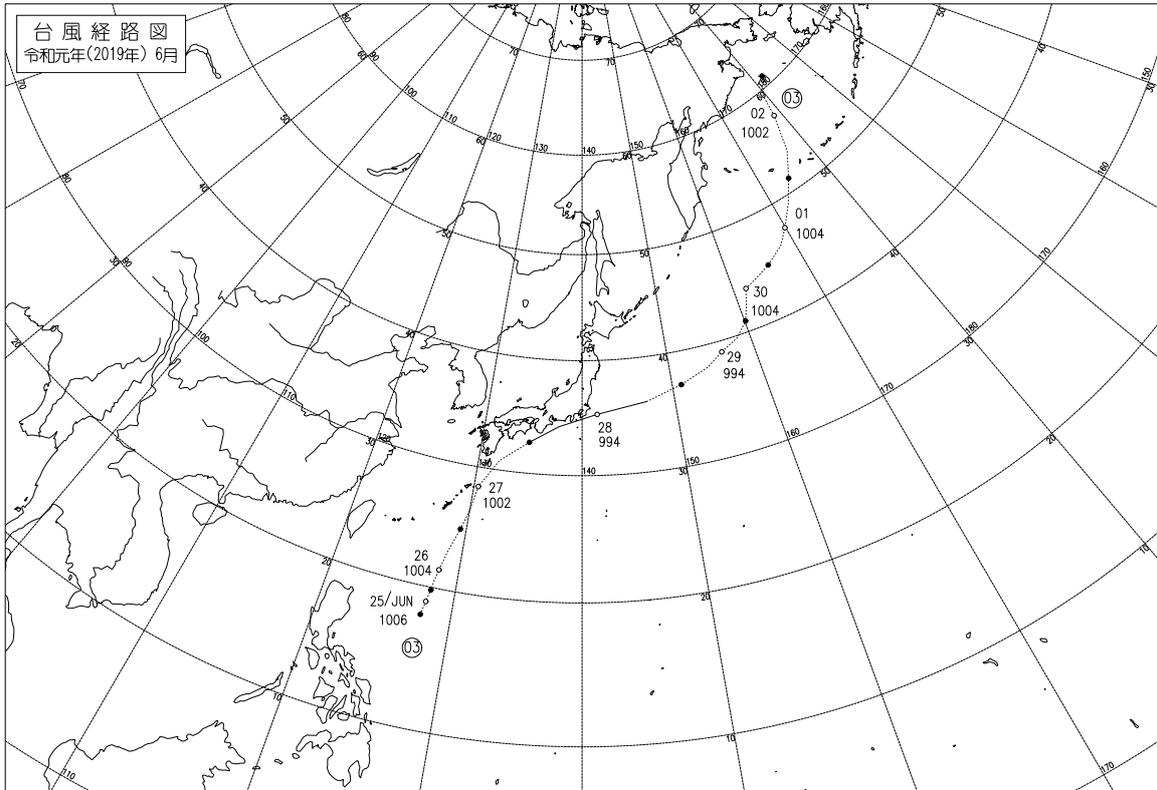
※ 3 月から 5 月は台風の発生がなかったため掲載していない。

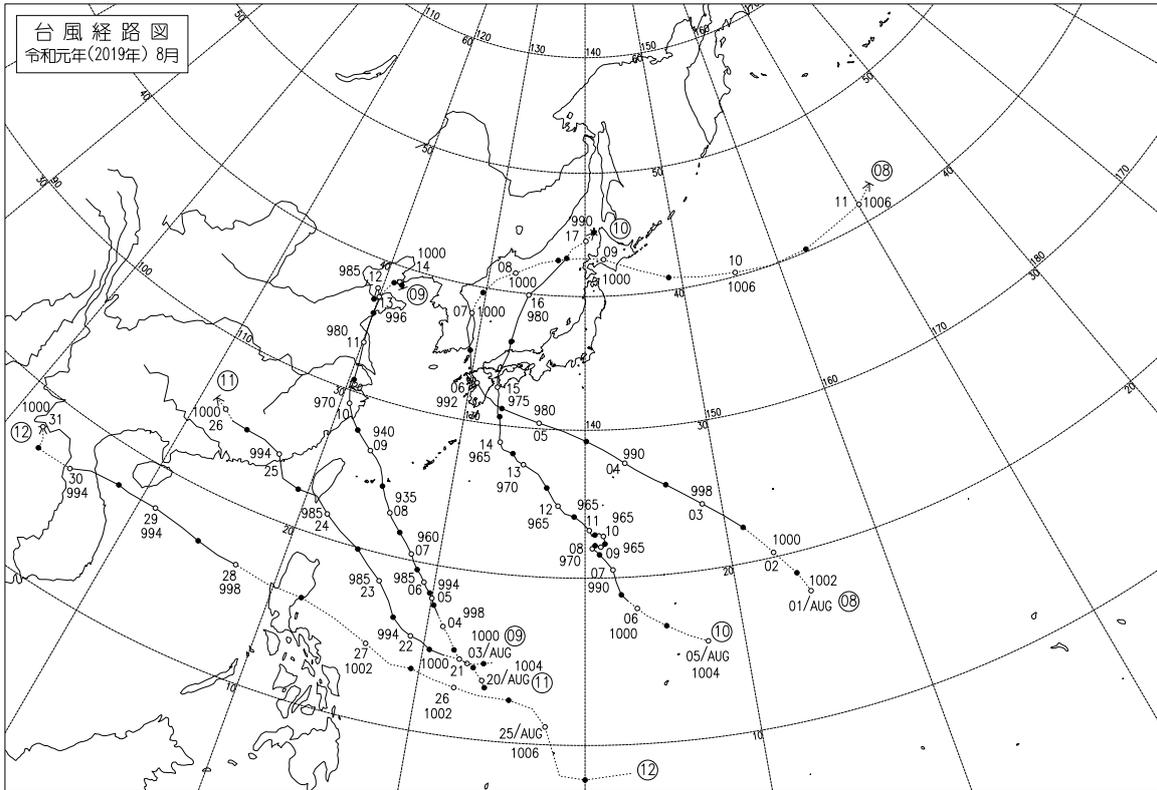


丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

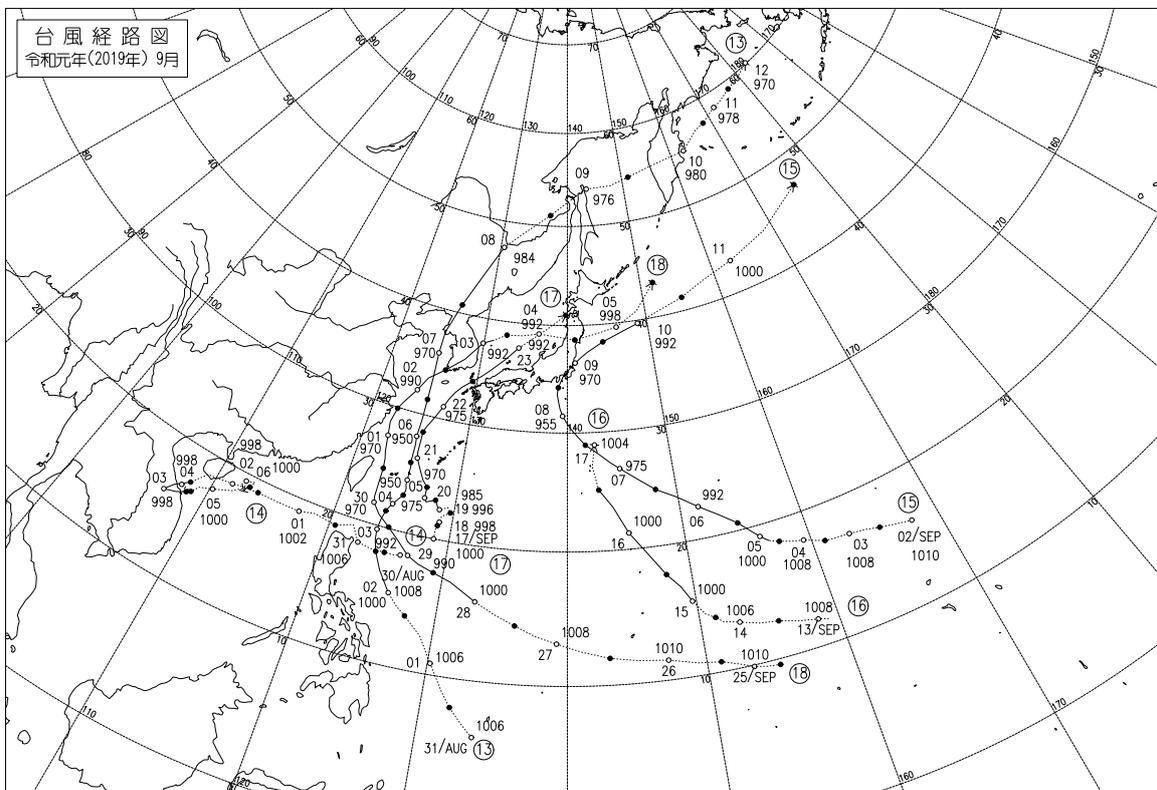


丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

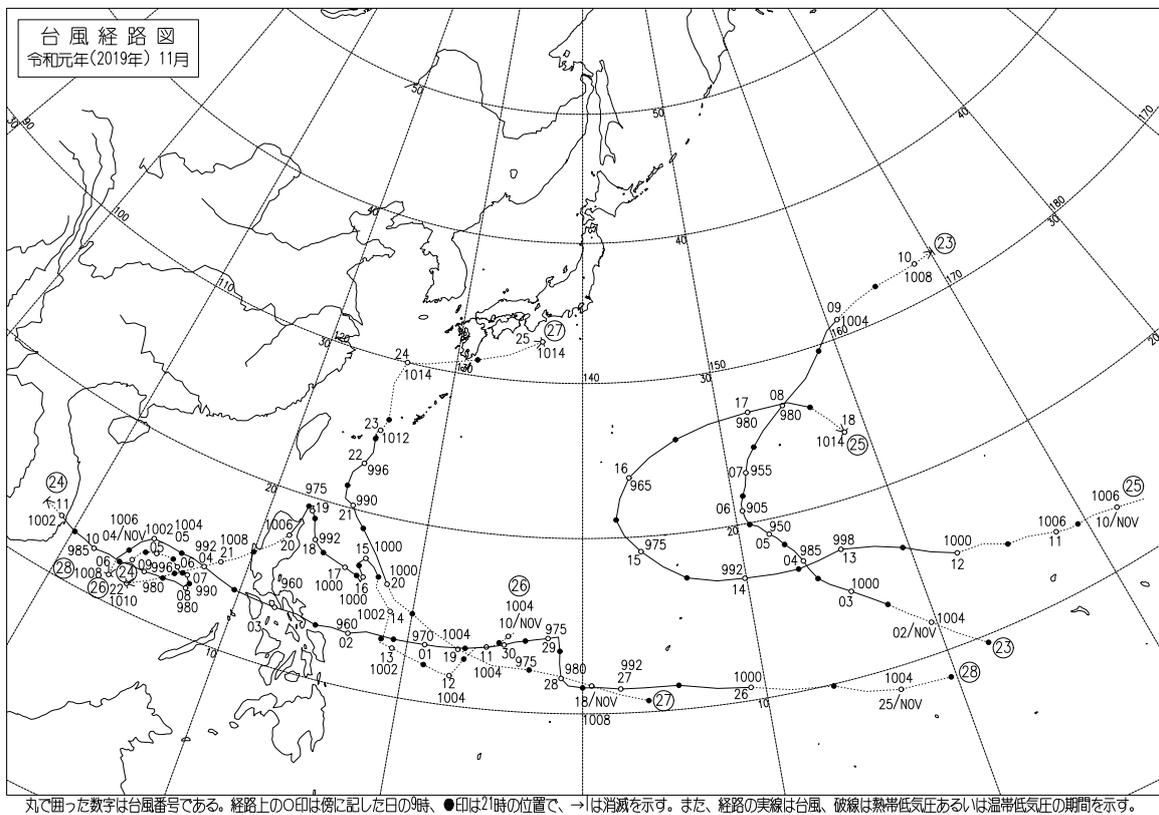
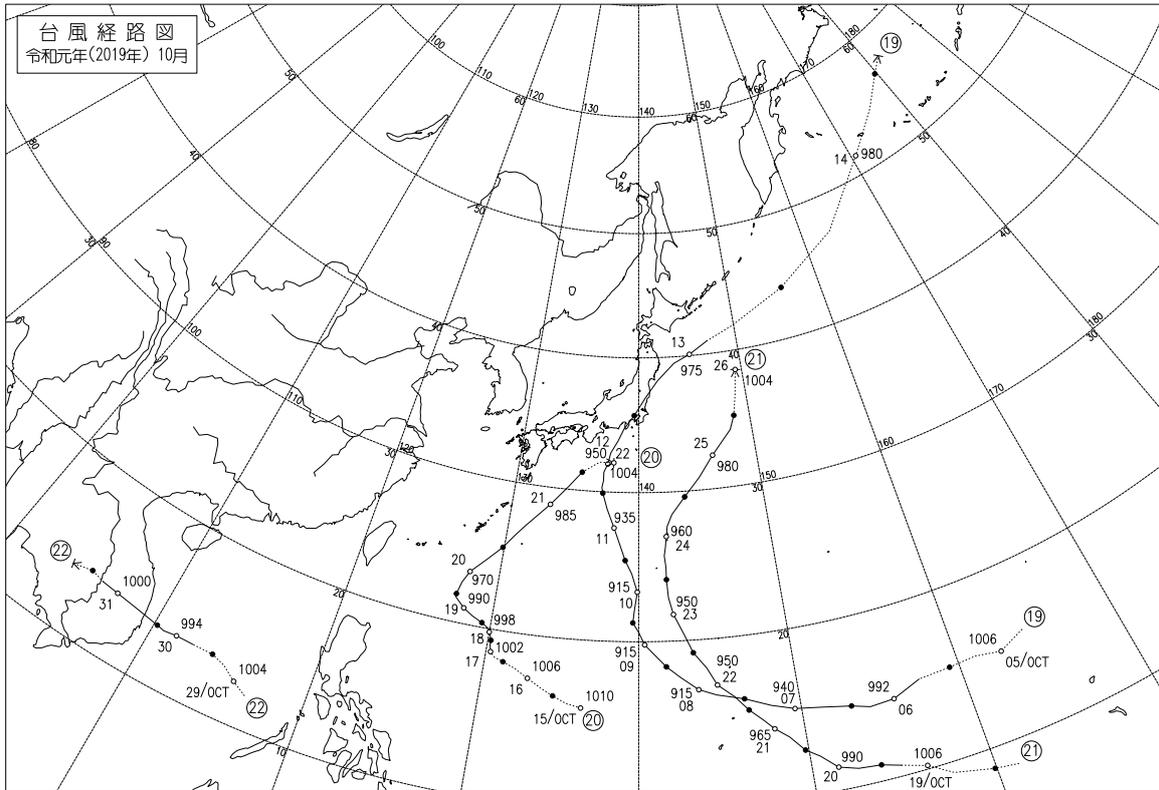


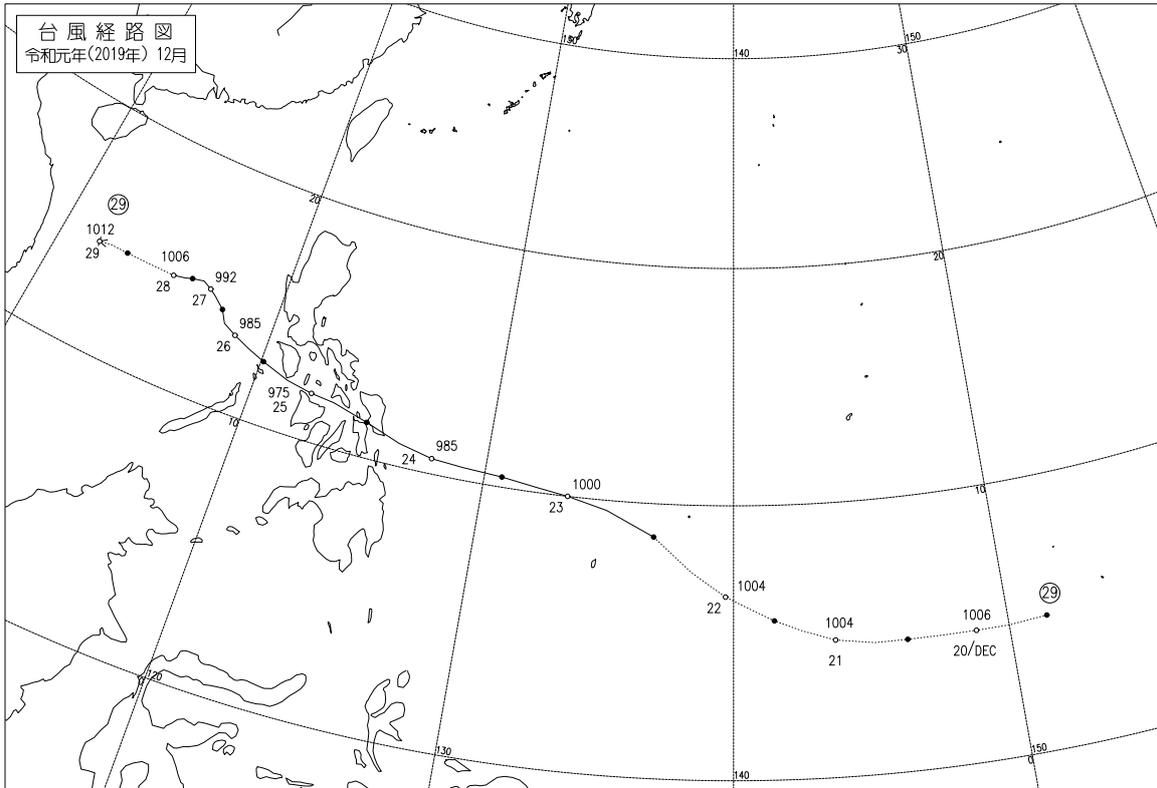


丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の0時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温带低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の0時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温带低気圧の期間を示す。





丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

3 平成31年・令和元年（2019年）の天気概況

1月

冬型の気圧配置が続き、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨、寒気や湿った空気の影響で沖縄・奄美で雨(1日～4日)

1日から3日は、冬型の気圧配置(以下:冬型)が続いた影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となった。また、寒気や湿った空気の影響で、沖縄・奄美で曇りや雨となった。4日は、本州付近は高気圧に覆われ全国的におおむね晴れたが、夜は、東シナ海の前線や日本海の低気圧の影響で、沖縄・奄美や山陰地方から北日本の日本海側で雨や雪となったところがあった。

低気圧や前線の影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨、沖縄・奄美や伊豆諸島で雨(5日～6日)

5日から6日は、北日本を低気圧が通過し、次第に冬型となった影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となった。また、前線を伴った低気圧が日本の南を東に進んだ影響で、沖縄・奄美や伊豆諸島で雨となり、伊豆諸島では一部で強風となった。

冬型の気圧配置が続き、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨(7日～11日)

7日は、冬型の影響で北陸地方から北日本の日本海側で雪や雨となった。8日は、本州付近は、気圧の谷が通過した後、再び冬型となった。この影響で、近畿地方から北日本の日本海側で雪や雨となった。9日から10日は冬型となった影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となった。北陸地方や北海道では一部で強風となった。11日は、冬型になった影響で、近畿地方から北日本の日本海側で雪や雨となった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となった。

低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美及び西日本や関東地方の太平洋側で雨、その後全国的に高気圧に覆われておおむね晴れたが、再び低気圧や前線の影響で、北陸地方から北日本の日本海側で雪や雨(12日～15日)

12日は、前線を伴った低気圧が日本の南を東に進んだ。また、関東の南で低気圧が発生した。これらの影響で、沖縄・奄美及び西日本や関東地方の太平洋側で雨となった。13日から14日は、全国的に高気圧に覆われておおむね晴れた。15日は、前線を伴った低気圧が日本海を北東に進んだ影響で、北陸地方から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では雷を伴ったところがあったほか、北海道では一部で強風となった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本で雨となったところがあった。

冬型の気圧配置が続き、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨、北海道では一部で暴風、その後、低気圧や前線の影響で、関東地方を除き雨や雪(16日～20日)

16日から17日は、冬型となった影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では雷を伴ったところがあったほか、北海道では一部で暴風となった。また、寒気や湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となった。18日は、冬型が続き、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となった。19日は、全国的に高気圧に覆われておおむね晴れた。20日は、日本海の低気圧や、本州南岸の前線の影響で、関東地方を除き雨や雪となった。

冬型の気圧配置となり、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨、その後、低気圧や前線の影響で、北陸地方や北日本で雪や雨、北陸地方では一部で暴風(21日～23日)

21日から22日は、冬型となった影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では雷を伴ったところがあったほか、関東地方では一部で強風となった。23日は、前線を伴った低気圧が日本海北部から北海道を東に進んだ。この影響で、北陸地方や北日本で雪や雨となり、北陸地方では一部で暴風となった。

冬型の気圧配置の影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨(24日～25日)

24日は、低気圧が千島の東へと進み、日本付近は冬型となった。この影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となり、関東地方や北海道では一部で強風となった。25日は、日本海西部に低気圧が発生し、東に進んだ影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では雷を伴ったところがあった。

冬型の気圧配置や低気圧の影響で、西日本から北日本の日本海側で雪や雨(26日～29日)

26日から27日は、関東付近の低気圧が日本の東へ進み、冬型となった影響で、西日本から東北地方の日本海側を中心に雪や雨となり、九州南部では一部で強風となった。28日は、前線を伴った低気圧が日本海を東へ進み、寒冷前線が本州付近を南下した。この影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となり、北陸地方では雷を伴ったところがあった。また、東海地方では一部で強風となった。29日は、冬型となった影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨となり、東北地方では雷を伴ったところがあった。また、北陸地方や東北地方では一部で強風となった。

全国的に高気圧に覆われておおむね晴れた後、低気圧や前線の影響で、西日本から東日本や北日本の日本海側で雪や雨、九州南部では一部で暴風(30日～31日)

30日は、全国的に高気圧に覆われておおむね晴れた。31日は、本州南岸を前線を伴った低気圧が東に進んだ影響で、西日本や東日本で雨となり、九州南部では一部で暴風となった。また、低気圧がサハリン付近を東に進み、寒冷前線が北日本を通過した影響で、北陸地方から北日本の日本海側では雪や雨となった。

2月

冬型の気圧配置の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雪や雨、その後、前線を伴った低気圧の影響で、関東を除き雨や雪(1日～4日)

1日は、冬型の気圧配置(以下:冬型)となり、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。2日は、北日本中心の冬型の影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。3日から4日は、前線を伴った低気圧が黄海から日本海を通過して千島近海へと進み、次第に冬型となった。この影響で、関東地方を除き雨や雪となり、伊豆諸島や関東地方、北日本では一部で強風となった。

冬型の気圧配置の影響で、北日本の日本海側で雪や雨、その後、前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本にかけての太平洋側で雨、山陰地方から北日本の日本海側を中心に雪や雨(5日～7日)

5日は、北日本中心の冬型となった影響で、北日本の日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。また、前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美及び九州や四国地方で雨となった。6日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を東に進んだ影響で、沖縄・奄美と西日本及び東日本の太平洋側で雨となった。また、北日本に前線が停滞し、北日本で雪や雨となったところがあった。7日は、低気圧が東北北部を東に進み、寒冷前線が本州南岸へと南下した。この影響で、山陰地方から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美、九州や四国地方で雨となった。

強い寒気や低気圧の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨、関東地方や東北地方南部の太平洋側でも雪や雨(8日～11日)

8日は、北日本中心に強い冬型となった影響で、山陰地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨となり、北海道では一部で強風となった。9日は、強い寒気の影響や、低気圧が日本海と本州南岸を東に進んだ影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となったほか、関東地方や東北地方南部の太平洋側でも雪や雨となった。10日は、冬型となった影響で、山陰地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨となった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州で曇りや雨となった。11日は、低気圧が日本海と本州南岸を東に進んだ影響で、山陰地方から北日本にかけての日本海側を中心に雪や雨となったほか、沖縄・奄美や西日本で雨となり、関東地方で雨や雪となったところがあった。

冬型の気圧配置の影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨、その後、前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美及び西日本の太平洋側を中心に雨(12日～16日)

12日から13日は、冬型となった影響で、山陰地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨となった。また、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美や九州南部を中心に雨となり、関東地方南部で雨となったところがあった。14日は、北日本中心の冬型の影響で、山陰地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨となった。また、湿った空気や気圧の谷の影響で、沖縄・奄美や伊豆諸島で雨となった。15日から16日は、前線を伴った低気圧が九州南部付近を通過して東に進んだ影響で、沖縄・奄美及び西日本の太平洋側を中心に雨となった。また、前線を伴った低気圧が日本海を東に進み、次第に冬型となった影響で、山陰地方から北日本にかけての日本海側で

雪や雨となった。

冬型の気圧配置の影響で、山陰地方から北日本の日本海側で雪や雨、その後全国的に高気圧に覆われておおむね晴れ(17日～18日)

17日は、冬型の影響で、山陰地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨となったが、次第に大陸の高気圧が張り出して冬型は緩み、西日本と東日本では晴れるところが多かった。18日は、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で、北海道を除き雨、九州南部や近畿地方では一部で大雨、その後、低気圧の影響で、山陰から北日本の日本海側を中心に雨や雪(19日～21日)

19日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から日本海へ進んだ影響で、北海道を除き雨となり、九州南部や近畿地方では一部で大雨となった。20日は、日本海の低気圧の影響で、山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪となった。また、気圧の谷や前線の影響で、沖縄地方や関東地方から東北地方にかけての太平洋側で雨となった。21日は、冬型の影響で、近畿地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨となったが、次第に冬型は緩んだ。また、前線の影響で、沖縄・奄美で雨となった。

前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美及び九州、四国地方で雨、その後全国的に高気圧に覆われておおむね晴れ(22日～23日)

22日は、前線を伴った低気圧が九州南部付近を通過して東に進んだ影響で、沖縄・奄美及び九州、四国地方で雨となった。23日は、寒気の影響で山陰から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪となったところがあったが、日本付近は次第に高気圧に覆われ、その他の地域はおおむね晴れた。

前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美や九州南部、東日本の太平洋側で雨、気圧の谷の影響で、北日本で雪や雨(24日～26日)

24日は、前線や低気圧の影響で沖縄・奄美や九州南部で雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われておおむね晴れた。25日は、日本の南の前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美や九州南部、東日本の太平洋側で雨となったところがあったほか、気圧の谷の影響で、北日本で雪や雨となった。26日は、気圧の谷の影響で、北日本で雪や雨となったが、その他の地域では高気圧に覆われておおむね晴れた。

前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本で雨(27日～28日)

27日から28日は、前線を伴った低気圧が、東シナ海から本州南岸を通過して日本の東へ進んだ。この影響で、沖縄・奄美及び西日本から東日本で雨となり、沖縄・奄美では雷を伴ったところがあった。

3月

気圧の谷の影響で、近畿地方から東北地方にかけての日本海側や関東地方で雨、その後、前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨(1日～4日)

1日は、高気圧に覆われて西日本を中心に晴れたが、気圧の谷の影響で近畿地方から東北地方にかけての日本海側や関東地方で雨となった。2日は、前線の影響で沖縄地方から四国地方にかけて雨となった。また、寒気の影響で北海道では雪や雨となった。3日から4日は、前線を伴った低気圧が九州南部から日本の東へ進んだ影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となった。

高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ、その後、前線を伴った低気圧や寒気の影響で沖縄・奄美から東日本にかけて雨、北日本では雨や雪(5日～7日)

5日は、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で東日本では雨となったところがあった。6日は、前線を伴った低気圧が東シナ海から日本の南へ進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響で北日本では雨や雪となったところがあった。7日は、低気圧が日本の南から日本の東へ進んだ。この低気圧や寒気の影響で、九州北部地方から東日本にかけて雨となり、北日本では雨や雪となったほか、中国地方では雷となったところがあった。

高気圧に覆われて九州から東日本にかけておおむね晴れたが、沖縄地方で発生した低気圧の影響で、沖縄地方では一部で大雨、その後、低気圧が発達しながら日本の東へ進んだ影響で、全国的に雨、九州南部、四国地方や東北地方では一部で大雨、関東地方や伊豆諸島では一部で暴風(8日～11日)

8日は、高気圧に覆われて九州から東日本にかけて晴れとなったが、寒気や低気圧の影響で、近畿地方から北海道にかけて雨や雪となったところがあった。9日は、引き続き高気圧に覆われて九州から東日本にかけておおむね晴れとなった。一方で、沖縄・奄美では、低気圧の影響で雨となり、沖縄地方では一部で大雨となったほか、北海道では一部で強風となった。10日は、低気圧が前線を伴って南西諸島から近畿地方へ進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、九州南部や四国地方では一部で大雨となった。11日は、低気圧が発達しながら東日本から日本の東へ進んだ影響で、九州北部地方から東日本にかけて雨となり、北日本では雨や雪となった。東北地方では一部で大雨、関東地方や伊豆諸島では一部で暴風、九州南部、東海地方および北海道では一部で強風となり、九州北部地方では雷となったところがあった。

低気圧や前線の影響で、北陸地方から北日本にかけて雨や雪、西日本の日本海側で雨、その後、寒気の影響で西日本から東日本にかけての日本海側で雨、北日本で雨や雪(12日～15日)

12日から13日は、低気圧や寒気の影響で、北陸地方から北日本にかけて雨や雪となり、北海道では強風となったところがあった。また、前線を伴った低気圧が日本海に発生した影響で、西日本の日本海側で雨となった。また、中国地方では一部で強風となり、九州北部地方から北陸地方にかけて雷となったところがあった。14日は、北海道付近の低気圧や寒気の影響で、北陸地方から北日本にかけて雪や雨となり、東北地方では一部で強風となった。15日は、寒気の影響で西日本から東日本にかけての日本海側で雨、北日本では雨や雪となり、九州北部地方や関東地方では雷となったところがあった。また、低気圧が沖縄地方から東へ進んだ影響で、沖縄・奄美で雨となった。

低気圧の影響で四国地方や中国地方から東北地方にかけて雨、その後、高気圧に覆われておおむね晴れたが、低気圧の影響で西日本で雨(16日～20日)

16日から17日は、低気圧の影響で四国地方や中国地方から東北地方にかけて雨となった。九州南部や四国地方では一部で強風となったほか、近畿地方では雷となったところがあった。また、気圧の谷や寒気の影響で、北海道では雪や雨となった。18日は、高気圧に覆われて九州北部地方から北海道にかけてほぼ晴れた。一方、低気圧の影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨となった。19日は、前線を伴った低気圧が九州南部から東へ進んだ。この影響で、西日本で雨となったほか、九州南部では一部で強風となり、雷となったところがあった。20日は、高気圧に覆われて太平洋側を中心にほぼ全国的に晴れたが、温暖前線が通過した影響で九州北部地方や中国地方で雨となったところがあった。

前線を伴った低気圧が発達しながら朝鮮半島から東へ進んだ影響で、ほぼ全国的に雨、その後、寒気や低気圧の影響で、中国地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨(21日～24日)

21日は、前線を伴った低気圧が朝鮮半島から東へ進んだ。この影響で、ほぼ全国的に雨となり、関東地方や東北地方では一部で強風となったほか、九州では雷となったところがあった。22日から24日は、寒気や低気圧の影響で、中国地方から北日本にかけての日本海側で雪や雨となった。北海道では一部で強風となり、北陸地方では雷となったところがあった。

前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本のかけての太平洋側で雨、北日本で雨や雪、その後、前線の影響で九州南部や北陸地方を中心に雨(25日～28日)

25日から26日は、東シナ海で発生した前線を伴った低気圧が九州南部を通過し日本の東へ進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側で雨となった。また、気圧の谷や北日本を通過した寒冷前線の影響で、北陸地方や北日本では雨や雪となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。27日は、前線を伴った低気圧が東北地方を通過した影響で、北日本で雨や雪となり、東北地方では雷となったところがあった。一方、高気圧に覆われて沖縄・奄美から東日本にかけてはほぼ晴れた。28日は、奄美地方に前線が停滞したほか、寒冷前線が西日本や東日本を通過した。この影響で、九州南部や北陸地方を中心に雨となった。また、東北地方では一部で強風となったほか、北陸地方、東北地方では雷となったところがあった。

奄美地方に前線が停滞した影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨、その後、低気圧の影響で西日本から東日本にかけて雨、北日本は雨や雪、伊豆諸島では一部で暴風(29日～31日)

29日は、奄美地方に引き続き前線が停滞した影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となった。一方、高気圧に覆われて西日本から北日本にかけてはおおむね晴れた。30日は、前線を伴った低気圧が日本海に発生し東へ進んだ。この影響で、四国地方や中国地方から東北地方にかけて雨となり、北日本では雪となったところがあっ

た。また、四国地方や近畿地方では雷となったところがあった。31日は、低気圧や寒気の影響で、中国地方から東北地方にかけて雨となり、北日本では雪となったところがあった。伊豆諸島では一部で暴風、四国地方では一部で強風となったほか、中国地方、北陸地方および関東地方では雷となったところがあった。

4月

低気圧や寒気の影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪、その後、高気圧に覆われて西日本から東日本にかけておおむね晴れたが、低気圧や寒気の影響で北陸地方や東北地方では雨や雪(1日～4日)

1日は、低気圧や寒気の影響で、中国地方から東北地方にかけての日本海側を中心に雨となり、中国地方の日本海側や北陸地方から北日本にかけて雪となったところがあった。また、中国地方や近畿地方では雷となったところがあった。2日は、冬型の気圧配置(以下、冬型)の影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨や雪となったところがあったほか、北陸地方では雷となったところがあった。3日は、引き続き冬型となった影響で、近畿地方の日本海側で雨となり、北陸地方から北日本にかけて雪や雨となった。また、前線の影響で、沖縄地方では雨となったところがあった。4日は、高気圧に覆われて西日本から東日本にかけておおむね晴れたが、低気圧や寒気の影響で北陸地方や東北地方では雨や雪となった。

前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨、北陸地方や北日本で雨や雪、沖縄地方では一部で大雨、東北地方では一部で暴風、その後、高気圧に覆われて沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、北日本では雨や雪(5日～7日)

5日は、前線を伴った低気圧が発達しながら北海道を通過した。この影響で、北陸地方や北日本で雨や雪となり、東北地方では一部で暴風、関東地方では一部で強風となった。また、南西諸島の前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨となり、沖縄地方では一部で大雨となった。6日は、高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけておおむね晴れたが、寒気の影響で北日本では雨や雪となり、東北地方では一部で強風となった。7日は、引き続き高気圧に覆われて、西日本から東日本にかけての太平洋側で晴れたが、低気圧の影響で、九州北部地方から近畿地方にかけての日本海側で雨となり、北日本では雨や雪となった。また、九州北部地方では雷となったところがあった。

低気圧や寒気の影響で、西日本から東日本にかけて雨、その後、低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨、北日本では雨や雪、九州、関東地方では一部で暴風(8日～11日)

8日は、低気圧や寒気の影響で、西日本から東日本にかけて雨となり、北日本では雨や雪となったところがあったほか、九州北部地方では雷となったところがあった。9日は、華中で発生した低気圧が東へ進んだ影響で、九州で雨となり、九州北部地方では一部で暴風となった。また、寒気の影響で、北陸地方や北日本では雨や雪となった。10日は、低気圧が九州を通過し日本の南へ進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、東日本や北日本では雪となったところがあった。また、九州では一部で暴風となった。11日は、低気圧や寒気の影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側や関東地方で雨となり、北日本では雨や雪となったところがあったほか、関東地方では一部で暴風となった。また、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美では雨となった。

高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、低気圧の影響で沖縄・奄美では雨、その後、前線を伴った低気圧の影響で、全国的に雨(12日～15日)

12日は、日本海の高気圧に覆われて、西日本や北日本でおおむね晴れたが、低気圧の影響で、沖縄・奄美や東日本の太平洋側では雨となった。13日は、引き続き高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れた。14日は、前線を伴った低気圧の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となった。15日は、低気圧や前線が東日本や北日本を通過した。この影響で、近畿地方から北日本にかけて雨となり、北海道では一部で強風となった。

高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美、近畿地方や東海地方で雨、その後、前線や寒気の影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海を中心に雨(16日～19日)

16日は、高気圧に覆われて西日本から北日本にかけておおむね晴れたが、低気圧の影響で、北日本では雨となったところがあり、北海道では一部で強風となった。また、低気圧や前線の影響で沖縄・奄美では雨となった。17日は、日本の南の低気圧や湿った空気の影響で、沖縄・奄美、近畿地方や東海地方で雨となった。また、北海道では一部で強風となった。18日は、高気圧に覆われて全国的に晴れた。19日は、前線や寒気の影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海側を中心に雨となったほか、中国地方や関東地方で雨となったところがあった。

あった。

高気圧に覆われて西日本から北日本にかけて晴れたが、低気圧の影響で、沖縄・奄美で雨、その後、前線を伴う低気圧の影響で、全国的に雨、四国地方や奄美地方では一部で大雨(20日～25日)

20日は、高気圧に覆われて西日本から北日本にかけて晴れたが、低気圧の影響で、沖縄地方では雨となり、雷となったところがあった。21日から22日は、引き続き高気圧に覆われて全国的に晴れや曇りとなったが、低気圧の影響で、沖縄・奄美では雨となったところがあった。23日は、東シナ海に発生した前線を伴った低気圧の影響で、西日本を中心に雨となったほか、湿った空気の影響で、北海道では雨となったところがあった。24日は、西日本に進んだ低気圧や前線の影響で、全国的に雨となったほか、四国地方では一部で大雨となり、雷となったところがあった。25日は、低気圧や前線、気圧の谷の影響で、全国的に雨となったほか、奄美地方では一部で大雨となり、沖縄・奄美では雷となったところがあった。

低気圧や寒気の影響で、全国的に雨、その後、前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨、奄美地方や九州南部、東海地方や伊豆諸島の一部で大雨(26日～30日)

26日から27日は、低気圧や寒気の影響で、全国的に雨となり、東海地方では雷となったところがあった。28日は、高気圧に覆われて西日本から北日本にかけておおむね晴れや曇りとなったが、前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美では雨となった。29日は、前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨となり、奄美地方や九州南部では一部で大雨となった。30日は、日本の南の低気圧、前線や湿った空気の影響で、全国的に雨となり、奄美地方、東海地方や伊豆諸島では一部で大雨となった。

5月

前線や低気圧の影響で、全国的に雨、伊豆諸島では一部で大雨、北日本では一部で暴風、その後、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で沖縄地方では雨(1日～5日)

1日は、前線や低気圧の影響で、全国的に雨となり、伊豆諸島では一部で大雨となったほか、沖縄地方では雷となったところがあった。2日は、低気圧や寒気の影響で、北陸地方や関東地方から北日本にかけて雨となり、北日本では一部で暴風となったほか、関東地方では雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。3日は、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で、沖縄地方では雨となったほか、寒気の影響で、北海道では雨となったところがあった。4日から5日は、引き続き高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、寒気の影響で、東海地方や関東地方では雨となったところがあり、関東地方では雷となったところがあった。

寒冷前線の影響で、西日本から北日本にかけて雨、その後、高気圧に覆われて西日本から東日本にかけて晴れたが、気圧の谷や低気圧の影響で、沖縄・奄美や九州、北日本では雨、東北地方では一部で暴風(6日～8日)

6日は、寒冷前線が通過した影響で、西日本から北日本にかけて雨となったところが多く、四国地方から北日本にかけて雷となったところがあった。7日は、寒冷前線の影響で、北陸地方や関東地方から北日本にかけて雨となり、東北地方では雷となったところがあった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨となったところがあった。8日は、高気圧に覆われて、西日本から東日本にかけて晴れたが、気圧の谷の影響で沖縄・奄美や九州では雨となったところがあった。また、低気圧の影響で、北日本では雨となったところがあり、東北地方では一部で暴風となった。

低気圧の影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨、その後、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美や九州南部、北海道で雨(9日～12日)

9日は、低気圧や気圧の谷の影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨となり、その他の地域では晴れや曇りとなった。10日から11日は、高気圧に覆われて西日本から東北地方にかけておおむね晴れたが、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となり、北海道では雨となったところがあった。12日は、日本海の高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れた。

高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、前線の影響で、沖縄地方では一部で大雨、その後、低気圧や前線、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨(13日～15日)

13日は、高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、前線の影響で、沖縄地方では一部で大雨となった。ま

た、湿った空気の影響で、近畿地方や東海地方で雨となったところがあり、東海地方では雷となったところがあった。14日は、低気圧や前線、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、東海地方から東北地方にかけて雷となったところがあった。15日は、湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけて雨となったところがあり、その他の地域では晴れや曇りとなった。

高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨、その後、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨、九州南部では一部で大雨(16日～19日)

16日から17日は、高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。18日から19日は、湿った空気の影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨となり、近畿地方では雨となったところがあった。また、九州南部では一部で大雨となったほか、四国地方では雷となったところがあった。

寒冷前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨、九州南部や四国地方、東海地方では一部で大雨、その後、寒冷前線や湿った空気の影響で、四国地方から北日本にかけて雨、一部で大雨(20日～21日)

20日は、寒冷前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、九州南部や四国地方、東海地方では一部で大雨となった。また、北陸地方では一部で強風となり、沖縄地方では雷となったところがあった。21日は、寒冷前線や湿った空気の影響で、四国地方から北日本にかけて雨となり、一部で大雨となった。

高気圧に覆われて、全国的に晴れたが、寒冷前線の影響で北海道では雨(22日～26日)

22日は、ほぼ全国的に晴れたが、寒冷前線の影響で北海道では雨となったところがあった。23日から26日は、引き続き高気圧に覆われて、全国的に晴れた。

低気圧からのびる前線や湿った空気、停滞する前線の影響で、沖縄・奄美から東海地方にかけて雨、九州北部地方や四国地方では一部で大雨(27日～28日)

27日は、朝鮮半島の低気圧からのびる前線や湿った空気の影響で、九州から中国地方にかけて雨となり、九州北部地方では一部で大雨となったほか、沖縄地方では雨となったところがあった。28日は、東シナ海から西日本にかけてのびる前線の影響で、沖縄・奄美から東海地方にかけて雨となり、四国地方では一部で大雨となった。また、発達した低気圧からのびる前線の影響で、北陸地方から北海道にかけての日本海側で雨となった。

低気圧の影響で、東日本から北日本にかけて雨、また停滞する前線の影響で、沖縄地方で雨、その後、前線や気圧の谷の影響で、ほぼ全国的に雨(29日～31日)

29日は、低気圧の影響で、東日本から北日本にかけて雨となった。また、停滞する前線の影響で、沖縄地方で雨となった。30日は、高気圧に覆われて全国的に晴れた。31日は、前線や気圧の谷の影響で、ほぼ全国的に雨となり、東北地方では雷となったところがあった。

6月

前線が南西諸島に停滞した影響で、沖縄・奄美を中心に雨、その後、日本海の低気圧の影響で、北日本で雨(1日～5日)

1日は、前線が南西諸島に停滞した影響で、沖縄・奄美で雨となった。また、寒気の影響で、北日本では雨となり、北海道では雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。2日から3日は、引き続き前線が東シナ海から日本の南にかけて停滞した影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。4日は、前線上の低気圧が九州付近を通過した影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨となり、沖縄・奄美や九州北部地方では雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響で、北海道では雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。5日は、日本海の低気圧が北海道に進んだ影響で、北日本で雨となり、東北地方では雷となったところがあった。また、前線や低気圧の影響で、沖縄地方や西日本の太平洋側で雨となり、九州では雷となったところがあった。

高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、前線の影響で九州南部や九州北部地方では雨、その後、低気圧や前線の影響で、ほぼ全国的に雨、西日本や東日本では一部で大雨(6日～8日)

6日は、高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、東シナ海からのびる前線の影響で九

州南部や九州北部地方では雨となり、九州北部地方では雷となったところがあった。また、北日本では低気圧や湿った空気の影響で雨となったほか、東北地方では雷となったところがあった。7日から8日は、低気圧や前線の影響で、ほぼ全国的に雨となり、西日本や東日本では一部で大雨となった。また、西日本から東海地方にかけて雷となったところがあった。

前線の影響で、沖縄・奄美で雨、沖縄地方では一部で大雨、低気圧の影響で、近畿地方から東日本にかけて雨、関東地方や伊豆諸島では一部で大雨、その後、高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、前線の影響で沖縄・奄美では雨(9日～13日)

9日から10日は、前線が東シナ海から日本の南にかけて停滞した影響で、沖縄・奄美で雨となり、沖縄地方では一部で大雨となったほか、雷となったところがあった。また、上空に寒気を伴う低気圧の影響で、近畿地方から東日本にかけて雨となり、関東地方や伊豆諸島では一部で大雨となったほか、近畿地方では雷となったところがあった。11日は、前線が南下し、先島諸島付近に停滞した影響で、沖縄地方で雨となり、一部で大雨となった。また、上空の寒気や低気圧の影響で、近畿地方から東北地方にかけて雨となり、雷となったところがあった。12日は、高気圧に覆われて、西日本や北日本では晴れたが、中国地方の日本海側や東日本では湿った空気の影響で雨となったほか、東海地方では雷となったところがあった。13日は、高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、前線の影響で沖縄・奄美では雨となったほか、気圧の谷の影響で、北海道では雨となったところがあった。

前線上に低気圧が発生し西日本から北日本にかけて通過した影響で、全国的に雨、西日本や東日本では一部で大雨、伊豆諸島では一部で暴風、その後、前線が南西諸島に停滞した影響で、沖縄・奄美から九州にかけて雨(14日～18日)

14日は、東シナ海で前線上の低気圧が北東に進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東海地方にかけて雨となり、九州南部や四国地方、東海地方では一部で大雨となった。また、沖縄地方では雷となったところがあった。15日は、低気圧が西日本から東日本にかけて通過した。この影響で、ほぼ全国的に雨となり、四国地方や伊豆諸島では一部で大雨となった。また、九州南部や近畿地方、東海地方は一部で強風となり、西日本や東日本では雷となったところがあった。16日は、低気圧が北日本を通過し、北海道付近に進んだ。この影響で、四国地方から北日本にかけて雨となり、北陸地方では一部で大雨となった。また、伊豆諸島では一部で暴風、東海地方や北海道では一部で強風となり、関東地方では雷となったところがあった。17日は、前線が南西諸島に停滞した影響で、沖縄地方で雨となり、雷となったところがあった。また、低気圧や気圧の谷の影響で近畿地方から東北地方にかけての日本海側や北海道で雨となった。18日は、引き続き南西諸島に停滞した前線や気圧の谷の影響で沖縄・奄美から九州にかけて雨となり、沖縄地方では雷となったところがあった。

前線が南西諸島に停滞した影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨、沖縄・奄美では一部で大雨、その後、南西諸島から本州の南岸にかけて停滞した前線や低気圧の影響で、ほぼ全国的に雨、東日本や北日本の一部で大雨(19日～24日)

19日から20日は、前線が南西諸島に停滞した影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨となり、沖縄・奄美では一部で大雨となった。また、寒気や湿った空気の影響で東日本から北日本にかけて雨となり、関東地方や北海道では雷となったところがあった。21日は、引き続き前線の影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨となり、一部で大雨となったほか、日本海の低気圧の影響で、四国地方から北日本にかけて雨となったところが多く、一部で大雨となったほか、雷となったところがあった。22日から23日は、前線が南西諸島から本州の南岸にかけて停滞し、この前線や前線上の低気圧、日本海の低気圧の影響で、ほぼ全国的に雨となり、東日本や北日本の一部で大雨となったほか、雷となったところがあった。24日は、前線上の低気圧が日本の東を北東に進んだ影響で東日本から東北地方にかけて雨となり、東海地方や伊豆諸島では一部で大雨となったほか、雷となったところがあった。また、前線の影響で、沖縄地方では雨となった。

高気圧に覆われて、九州北部地方から北日本にかけて晴れたが、前線の影響で沖縄・奄美から九州南部にかけて雨、その後、前線が西日本から東日本にかけて停滞し、台風第3号が日本に接近した影響で、ほぼ全国的に雨、西日本や東日本では一部で大雨(25日～30日)

25日は、高気圧に覆われて、九州北部地方から北日本にかけて晴れたが、寒気の影響で、東北地方では雨となった。また、前線の影響で、沖縄・奄美から九州南部にかけて雨となった。26日は、前線が北上し、西日本に停滞した。この前線や熱帯低気圧の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨となり、沖縄地方や九州北部

地方では一部で大雨となった。27日は、21時に四国の南で発生した台風第3号や前線の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、四国地方や近畿地方、東海地方では一部で大雨、九州北部地方では一部で強風となったほか、九州では雷となったところがあった。28日は、台風第3号が本州の南岸に沿って東へ進み、15時に日本の東で温帯低気圧に変わった。この台風や西日本から東日本にかけて停滞した前線の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、九州南部や北陸地方では一部で大雨となった。また、九州南部や関東地方では雷となったところがあった。29日から30日は、引き続き西日本から東日本にかけて停滞した前線の影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、西日本や東日本では一部で大雨となったほか、東海地方では一部で強風となった。

7月

西日本から東日本にかけて停滞した前線や日本海の低気圧の影響で、全国的に雨、九州や四国地方では一部で大雨、その後、前線上の低気圧が通過した影響で沖縄・奄美から東北地方にかけて雨、九州南部や東海地方、伊豆諸島では一部で大雨(1日～4日)

1日から2日は、西日本から東日本にかけて停滞した前線や日本海の低気圧の影響で、全国的に雨となり、九州や四国地方では一部で大雨となったほか、九州南部では雷となったところがあった。3日は、前線上に低気圧が発生し西日本を通過した影響で、西日本から東日本にかけて雨となり、九州では一部で大雨となったほか、九州南部では雷となったところがあった。4日は、前線が九州南部から東日本にかけて停滞し、前線上の低気圧が東日本を通過した影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、九州南部や東海地方、伊豆諸島では一部で大雨、東海地方では一部で強風となったほか、沖縄・奄美や東北地方では雷となったところがあった。

南西諸島から日本の東にかけて前線が停滞した影響で、沖縄・奄美や東日本の太平洋側で雨、奄美地方や伊豆諸島では一部で大雨、その後、前線上の低気圧の影響で、近畿地方から東北地方にかけての太平洋側を中心に雨、前線の影響で沖縄・奄美で雨(5日～7日)

5日は、南西諸島から日本の東にかけて停滞した前線や低気圧の影響で、沖縄・奄美や東日本の太平洋側で雨となり、奄美地方や伊豆諸島では一部で大雨となった。また、上空の寒気の影響で、北日本では雨となったところがあった。6日は、日本の南に停滞した前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本から東北地方にかけての太平洋側で雨となり、伊豆諸島では一部で大雨となった。7日は、前線上の低気圧の影響で近畿地方から東北地方にかけての太平洋側を中心に雨となった。また、引き続き停滞した前線の影響で沖縄・奄美で雨となり、雷となったところがあったが、西日本や北日本の日本海側ではおおむね晴れた。

前線や低気圧、上空の寒気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨、四国地方や東海地方では一部で大雨、その後、低気圧からのびる前線の影響で全国的に雨、四国地方や近畿地方、東海地方では一部で大雨(8日～12日)

8日は、日本の南に停滞した前線や前線上の低気圧の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨となり、雷となったところがあった。また、上空の寒気の影響で東日本では雨となったところがあったが、その他の地域では晴れや曇りとなった。9日は、日本の南に停滞した前線や上空の寒気の影響で沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、四国地方や東海地方では一部で大雨となったほか、中国地方では雷となったところがあったが、北日本ではおおむね晴れた。10日は、前線上の低気圧が東シナ海を北東に進んだ影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨となり、四国地方では一部で大雨となった。一方、オホーツク海の高気圧に覆われて、東日本から北日本にかけては晴れや曇りとなった。11日は、日本海の低気圧からのびる前線の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、四国地方や近畿地方、東海地方では一部で大雨となった。12日は、日本海や本州南岸の低気圧の影響で、近畿地方から北日本にかけて雨となった。

前線が西日本から東日本にかけて停滞した影響で、西日本から北日本にかけて雨、九州では一部で大雨、その後、日本の南岸に停滞した前線や上空の寒気の影響で西日本から東日本にかけて雨、高気圧に覆われて、沖縄・奄美では晴れ(13日～17日)

13日から14日は、前線が西日本から東日本にかけて停滞した影響で、西日本から東日本にかけて雨となり、九州では一部で大雨となったほか、九州南部では、雷となったところがあった。また、日本海の低気圧の影響で北日本では雨となった。15日から16日は、九州の南岸から本州の南岸にかけて停滞した前線や上空の寒気の影響で西日本から東日本にかけて雨となり、中国地方では雷となったところがあったほか、気圧の谷の影響で北日本では雨となったところがあった。一方、高気圧に覆われて、沖縄・奄美は晴れた。17日は、西日本に停滞し

た前線や湿った空気の影響で、西日本から北日本にかけての太平洋側で雨となり、東海地方では雷となったところがあった。一方、高気圧に緩く覆われて、西日本から北日本の日本海側はおおむね晴れた。

台風第 5 号が先島諸島付近を通過し東シナ海を北上した影響で、沖縄地方では一部で大雨、暴風、前線が西日本から東日本にかけて停滞した影響で、全国的に雨、西日本や東日本では一部で大雨、その後、台風が朝鮮半島まで北上した影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨、西日本では一部で大雨(18 日～22 日)

18 日は、台風第 5 号が先島諸島付近を北上した影響で、沖縄地方では一部で大雨、暴風となった。また、前線が西日本から東日本にかけて停滞した影響で、西日本から東北地方にかけて雨となり、西日本や東日本では一部で大雨となったほか、雷となったところがあった。19 日は、台風が東シナ海を北上したほか、前線が北上し日本海から東日本にかけて停滞した影響で、全国的に雨となり、沖縄地方では一部で大雨、強風となり、雷となったところがあったほか、西日本や伊豆諸島では一部で大雨となった。20 日から 21 日は、台風がさらに北上して朝鮮半島を通過し、前線は東日本へ北上した。この台風による湿った空気の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨となり、西日本では一部で大雨となったほか、九州では雷となったところがあった。また、前線の影響で、東日本から北日本にかけて雨となったところがあり、関東地方では雷となったところがあった。22 日は、台風から変わった温帯低気圧からのびる前線の影響で、西日本から東日本にかけて雨となり、九州北部地方や東海地方では一部で大雨となったほか、近畿地方や東海地方では雷となったところがあった。

湿った空気や上空の寒気の影響で、全国的に雨、その後、高気圧に覆われて沖縄・奄美から西日本にかけて晴れたが、湿った空気の影響で、東日本から北日本では雨、東北地方では一部で大雨(23 日～25 日)

23 日は、湿った空気や上空の寒気の影響で、全国的に雨となったところが多く、近畿地方や東日本では雷となったところがあった。24 日は、高気圧に覆われて沖縄・奄美から西日本にかけて晴れたが、湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけて雨となり、東北地方では一部で大雨となったほか、関東地方では雷となったところがあった。25 日は、引き続き高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、近畿地方や関東甲信地方では雨や雷となったところがあった。

小笠原諸島の西で台風第 6 号が発生し、三重県南部に上陸した影響で近畿地方から東北地方にかけて雨、東日本では一部で大雨、前線が通過した影響で、北海道で雨、その後、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ(26 日～31 日)

26 日は、前線の影響で、北海道で雨となった。また、小笠原諸島の西で台風第 6 号が発生し北に進んだ影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。27 日は、台風がさらに北上し、7 時頃に三重県南部に上陸した後、15 時に岐阜県付近で熱帯低気圧に変わった。この影響で、近畿地方から東日本にかけて雨となり、東日本では一部で大雨となった。また、前線が通過した影響で、北海道で雨となったが、沖縄・奄美から西日本にかけてはおおむね晴れた。28 日は、台風から変わった熱帯低気圧が東日本を東に進み、日本の東で温帯低気圧に変わった。この影響で、北陸地方や関東甲信地方、東北地方で雨となり、雷となったところがあったほか、北陸地方では一部で大雨となった。また、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、中国地方では雨や雷となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。29 日は、高気圧に覆われて沖縄・奄美から東日本にかけておおむね晴れたが、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、九州北部地方や東日本から北日本にかけて雨や雷となったところがあった。30 日から 31 日は、引き続き高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、西日本や東日本で雨や雷となったところがあった。

8月

高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で沖縄地方では一部で大雨、その後台風第 8 号が宮崎県宮崎市付近に上陸した影響で、西日本で雨、九州や四国では一部で大雨、九州北部地方では一部で暴風(1 日～6 日)

1 日は、高気圧に覆われて沖縄・奄美から東北地方にかけて晴れたが、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、沖縄地方や関東地方で雨や雷となったところがあったほか、北海道では雨となったところがあった。2 日から 4 日は、引き続き高気圧に覆われて西日本から北日本にかけて晴れたが、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美では雨となり、雷となったところがあったほか、沖縄地方では一部で大雨となった。また、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、近畿地方や甲信地方で雨や雷となったところがあった。5 日は、日本海の高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、台風第 8 号が日本の南を西北西に進み九州に接近した影響で、沖縄・奄

美や西日本の太平洋側で雨となった。6日は、台風が5時頃宮崎県宮崎市付近に上陸し、九州を北西に進んだ。この影響で、西日本で雨となり、九州や四国では一部で大雨となり、九州北部地方では一部で暴風となった。

台風第9号が沖縄地方を通過した影響で、沖縄地方では一部で大雨や暴風、台風第8号から変わった低気圧の影響で、北日本では雨、北海道では一部で大雨、その後、前線や低気圧の影響で、北日本で雨、東北地方では一部で大雨(7日～13日)

7日は、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、九州や四国地方、近畿地方、甲信地方で雨や雷となったところがあった。また、台風第9号が沖縄の南を北西に進んだ影響で、沖縄・奄美で雨となったが、東日本から北日本ではおおむね晴れた。8日から9日は、台風第9号が沖縄地方を通過し、東シナ海を北西に進んだ影響で、沖縄地方では一部で大雨や暴風となったほか、九州北部地方では雷となったところがあった。また、台風第8号から変わった低気圧が北海道を通過した影響で、北日本では雨となり、北海道では一部で大雨や強風となったほか、関東甲信地方や東北地方では雨や雷となったところがあった。10日は、前線や低気圧の影響で、北日本で雨となり、雷となったところがあったほか、東北地方では一部で大雨となった。また、華南に進んだ台風第9号の影響で、沖縄・奄美で雨となった。11日から13日は、前線の影響で、北海道で雨となったほか、気圧の谷や日本の南を北西に進んだ台風第10号の影響で、沖縄・奄美や西日本から北日本にかけての太平洋側で雨となったところがあったが、西日本から東北地方の日本海側ではおおむね晴れた。

台風第10号が奄美地方の東海上を北上し、愛知県佐田岬半島を通過した後、広島県呉市付近に上陸した影響で、西日本から東日本にかけて雨、一部で大雨、九州南部や四国地方では一部で暴風、その後、台風が日本海を北東に進み温帯低気圧に変わった影響で、西日本から北日本にかけて雨、東海地方や甲信地方、北海道では一部で大雨(14日～18日)

14日は、台風第10号が奄美地方の東海上を北に進んだ影響で、奄美地方から東日本にかけて雨となり、九州南部や四国地方、近畿地方では一部で大雨となり、九州南部や四国地方では一部で暴風となった。また、関東地方では雷となったところがあった。15日は、台風が北上し、11時過ぎに愛媛県佐田岬半島付近を通過した後、15時頃に広島県呉市付近に上陸した。この影響で、西日本から東日本にかけて雨となり、一部で大雨となった。また、九州南部や四国地方では一部で暴風となったほか、中国地方や近畿地方、東海地方では一部で強風となった。16日は、台風が日本海を北東に進み、21時に北海道の西海上で温帯低気圧に変わった。この影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、東海地方や甲信地方、北海道では一部で大雨となった。17日は、台風から変わった低気圧と前線の影響で、北日本で雨となったが、西日本から東日本にかけておおむね晴れた。18日は、高気圧に覆われて、西日本から北日本にかけて晴れや曇りとなったが、低気圧の影響で沖縄・奄美では雨となり、沖縄地方では雷となったところがあったほか、湿った空気の影響で、東海地方や関東地方で雨となったところがあった。

九州から東日本にかけて停滞した前線や低気圧の影響で、西日本から東日本にかけて雨、北陸地方や関東甲信地方では一部で大雨、その後、低気圧や前線の影響で全国的に雨、九州北部地方や北海道では一部で大雨(19日～25日)

19日は、九州から東日本にかけて前線が停滞した影響で、西日本から東日本にかけて雨となり、関東甲信地方では一部で大雨となったほか、九州や近畿地方、関東地方では雷となったところがあった。また、南西諸島付近の熱帯低気圧の影響で、沖縄・奄美では雨となった。20日は、南西諸島付近の熱帯低気圧や西日本から東日本にかけて停滞した前線、日本海の低気圧の影響で、全国的に雨となり、雷となったところがあった。21日から22日は、前線が北上し日本海から東日本にかけて停滞した影響で、西日本の日本海側や東日本、北日本で雨となり、北陸地方では一部で大雨となったほか、中国地方や東海地方、関東地方では雷となったところがあった。23日は、前線が西日本や東日本に停滞し、前線上で発生した低気圧が北日本を通過した。この影響で、全国的に雨となり、九州北部地方や北海道では一部で大雨となったほか、近畿地方や東海地方では雷となったところがあった。24日から25日は、前線が東シナ海から九州を通過して日本の南にかけて停滞した影響で、西日本で雨となったほか、日本海の低気圧の影響で、東日本や北日本では雨となったところがあり、関東地方では雷となったところがあった。

前線が対馬海峡付近から東日本付近に停滞し、前線上の低気圧が日本海を進んだ影響で、西日本から東北地方にかけて雨、九州北部地方では一部で大雨、その後、低気圧が北日本を通過し、前線が西日本から東日

本にかけて停滞した影響で、ほぼ全国的に雨、九州北部地方など各地で大雨(26日～31日)

26日は、高気圧に覆われて中国地方から北日本にかけておおむね晴れたが、前線が華中から九州南部を通じて日本の南にかけて停滞した影響で、九州地方や四国地方では雨となった。また、湿った空気によって大気の状態が不安定となり、関東地方で雨や雷となったところがあったほか、北海道で雨となったところがあった。27日は、前線が北上し対馬海峡付近から東日本付近に停滞したほか、前線上に低気圧が発生して日本海を北東に進んだ。この影響で、西日本から東北地方にかけて雨となり、九州北部地方では一部で大雨となったほか、雷となったところがあった。28日は、前線上の低気圧が北日本を通過し、前線が西日本から東日本にかけて停滞した。この影響で、九州北部地方から北日本にかけて雨となり、九州北部地方など各地で大雨となったほか、九州北部地方では雷となったところがあった。29日から30日は、引き続き前線が西日本から東日本にかけて停滞した影響で、ほぼ全国的に雨となり、九州や近畿地方、東海地方では一部で大雨となったほか、西日本や東日本では雷となったところがあった。31日は、日本海の低気圧の影響により北日本で雨となり、北海道では一部で大雨となったほか、雷となったところがあった。また、前線が南下し九州南部から本州南岸にかけて停滞した影響で、西日本の太平洋側で雨となった。

9月

前線が停滞した影響で、西日本から東北地方にかけて雨、九州北部地方や東海地方では一部で大雨、その後、台風第13号が宮古島付近を通過し東シナ海を北上した影響で、沖縄・奄美や西日本の太平洋側で雨、沖縄・奄美や西日本では一部で大雨、沖縄・奄美では一部で暴風(1日～7日)

1日から2日は、前線が西日本から東日本に停滞した影響で、西日本や北陸地方、東北地方では雨となったところが多く、九州北部地方では一部で大雨や雷となった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨となったほか、気圧の谷の影響で北海道では雨となったところがあった。3日から4日は、前線が朝鮮半島付近から東日本にかけて停滞した影響で、西日本から東北地方にかけて雨となり、九州北部地方や東海地方では一部で大雨となったほか、西日本から東日本にかけて雷となったところがあった。また、沖縄の南の台風第13号の影響で、沖縄・奄美では雨となったが、高気圧に覆われて北海道では晴れた。5日は、宮古島付近を通過した台風や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本から東海地方にかけての太平洋側で雨となり、沖縄地方では一部で大雨、暴風となった。また、四国地方や東海地方では一部で大雨となったほか、九州北部地方や近畿地方、東海地方では雷となったところがあった。6日は、東シナ海を北上した台風や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本の太平洋側で雨となり、九州南部では一部で大雨、奄美地方では一部で暴風、沖縄地方では一部で強風となったほか、沖縄地方や九州、東海地方では雷となったところがあった。また、北日本に停滞した前線の影響で、北海道では雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。7日は、先島諸島付近で発生した熱帯低気圧や黄海を北上した台風、湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州や四国地方から東海地方にかけての太平洋側で雨となり、沖縄・奄美や四国地方では一部で大雨となった。また、前線の影響で北海道では雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

令和元年房総半島台風が伊豆諸島付近を北上し、千葉市付近に上陸した影響で東日本から東北地方にかけての太平洋側を中心に雨、東日本や東北地方では一部で大雨、東海地方や伊豆諸島、関東地方では一部で暴風、その後、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ(8日～12日)

8日から9日は、房総半島台風が伊豆諸島付近を北上し、9日3時前に三浦半島付近を通過した後、9日5時に千葉県千葉市付近に上陸した。この影響で、東日本から東北地方にかけての太平洋側を中心に雨となり、東日本や東北地方では一部で大雨、東海地方や伊豆諸島、関東地方では一部で暴風となった。また、東シナ海の熱帯低気圧や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本では雨となったところがあり、九州北部地方では雷となったところがあった。10日は、日本の南の高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、湿った空気の影響で、中国地方や関東地方、東北地方で雨となったところがあり、近畿地方や関東地方で雷となったところがあった。11日は、前線や東北地方を通過した低気圧の影響で、中国地方から北日本にかけて雨となり、雷となったところがあった。12日は、日本海の高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れとなったが、湿った空気の影響で西日本の太平洋側で雨となったところがあったほか、気圧の谷の影響で、北日本では雨となったところがあった。

高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れや曇りとなったが、気圧の影響や湿った空気の影響で西日本から東日本の太平洋側を中心に雨、近畿地方や東海地方では一部で大雨、その後、前線の影響で東日本から北日本にかけて雨、伊豆諸島や関東地方では一部で大雨(13日～18日)

13日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本の太平洋側を中心に雨となり、近畿地方や東海地方では一部で大雨となったが、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本では高気圧に覆われて晴れた。14日から15日は、高気圧に覆われて、西日本から東北地方にかけて晴れや曇りとなったが、湿った空気の影響で、西日本から東日本の太平洋側で雨となったところがあった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨となったほか、寒冷前線が通過した影響で、北海道で雨となった。16日は、前線上の低気圧が関東地方から東北地方にかけての太平洋沿岸を北東に進んだ影響で、東日本から北日本にかけて雨となり、関東地方では大雨となったところがあったが、高気圧に覆われて沖縄・奄美や西日本ではおおむね晴れた。17日は高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側では雨となったところがあった。18日は、日本の南から本州南岸にかけて前線が停滞した影響で、東日本の太平洋側を中心に雨となり、伊豆諸島では一部で大雨となったほか、沿海州の低気圧からのびる寒冷前線が通過した影響で、北日本で雨となり、北海道では雷となったところがあった。

台風第17号が、南西諸島に接近し、前線が九州南部から本州南岸に停滞した影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨、沖縄・奄美や九州南部では一部で大雨、沖縄・奄美では一部で暴風、その後、台風が対馬近海に進み、日本海で温帯低気圧変わった後、北日本を通過した影響で、ほぼ全国的に雨、西日本や東海地方、北海道では一部で大雨、西日本や北陸地方では一部で暴風(19日～23日)

19日は、上空に寒気を伴う低気圧の影響で、北陸地方から東北地方にかけての日本海側や北海道で雨となり、北海道では一部で強風となった。また、沖縄の南で発生した台風第17号の影響で、沖縄・奄美で雨となり、一部で強風となった。20日から21日は、台風が北西に進み南西諸島に接近したほか、日本の南に停滞していた前線が九州南部から本州南岸に北上した。この影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、沖縄・奄美や九州南部では一部で大雨、沖縄・奄美では一部で暴風となった。また、低気圧の影響で、北日本では雨となったところがあった。22日は、台風が東シナ海から対馬近海に進み、前線が西日本から東日本にかけて停滞した。この影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、九州や四国地方、東海地方では一部で大雨、九州北部地方や四国地方では一部で暴風、沖縄・奄美や九州南部では一部で強風となった。23日は、台風が日本海を北東に進み、9時に温帯低気圧に変わった後、北日本を通過した。この影響で、ほぼ全国的に雨となり、北海道では一部で大雨、中国地方や北陸地方では一部で暴風、九州では一部で強風となった。

高気圧に覆われて、全国的に晴れや曇りとなったが、日本の南の低気圧の影響で沖縄・奄美や西日本の太平洋側で雨、九州南部では一部で大雨、その後、台風第18号が先島諸島に接近した影響で、沖縄地方では一部で大雨、暴風(24日～30日)

24日は、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本から東北地方の日本海側を中心に雨となったところが多かった。また、日本の南から本州南岸にかけて前線が停滞した影響で、東日本で雨となったところがあったが、その他の地域では晴れや曇りとなった。25日から26日は、高気圧に覆われて、全国的に晴れや曇りとなったが、気圧の谷や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本の太平洋側では雨となったところがあった。27日は、引き続き高気圧に覆われて、東日本や北日本で晴れとなったが、東シナ海から西日本に停滞した前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や西日本で雨となったところがあったほか、九州では雷となったところがあった。28日は、湿った空気や日本の南の低気圧の影響で、沖縄・奄美や西日本の太平洋側で雨となり、九州南部では一部で大雨となったほか、沖縄地方では雷となったところがあった。また、九州北部地方から日本海を通過して東北地方に停滞した前線の影響で、西日本の日本海側や北陸地方、東北地方で雨となったところがあり、九州北部地方では雷となったところがあった。29日は、引き続き九州北部地方から東北地方にかけて停滞した前線や日本の南の低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雨となったところがあった。30日は、台風第18号が先島諸島に接近した影響で、沖縄地方では一部で大雨、暴風となり、雷となったところがあった。また、気圧の谷や湿った空気の影響で、西日本で雨となったところがあったほか、九州では雷となったところがあったが、東日本や北日本では晴れや曇りとなった。

10月

東シナ海から朝鮮半島に進んだ台風第18号や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨、四国地方では一部で大雨、沖縄地方では一部で暴風、その後、台風から変わった温帯低気圧が北日本を通過した影響で、西日本から北日本にかけて雨、四国地方や東北地方、北海道では一部で大雨、北陸地方では一部で暴風(1日～4日)

1日は、東シナ海を北に進んだ台風第18号や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨となっ

たところがあったほか、沖縄地方では一部で暴風となり、四国地方や近畿地方では雷となったところがあった。一方、東日本や北日本では日本海の高気圧に覆われて晴れた。2日は、東シナ海から朝鮮半島付近に進んだ台風や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から西日本にかけて雨となり、四国地方では一部で大雨となったほか、九州では雷となったところがあった。一方、東日本や北日本では高気圧に覆われて晴れた。3日は、台風が15時に日本海で温帯低気圧に変わった。この低気圧や前線の影響で、西日本や北日本で雨となり、四国地方では一部で大雨となったほか、四国地方や近畿地方、北陸地方では雷となったところがあった。4日は、低気圧が北日本を通過した影響で、中国地方から北日本にかけて雨となり、東北地方や北海道では一部で大雨、北陸地方では一部で暴風、東海地方では一部で強風となった。また、近畿地方や東海地方、関東地方では雷となったところがあった。一方、東シナ海の高気圧に覆われて、沖縄・奄美から四国地方にかけては晴れた。

低気圧の影響で、東日本から北日本にかけて雨、寒気や湿った空気の影響で、西日本の日本海側から北陸地方や東日本から北日本にかけて雨、沖縄・奄美や西日本ではおおむね晴れ、その後、前線を伴った低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雨、北海道では一部で暴風(5日～9日)

5日は、沖縄・奄美から東日本にかけておおむね晴れたが、前線の影響で、北日本で雨となったほか、日本海の低気圧の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となった。6日から7日は、低気圧の影響で東日本から北日本にかけて雨となり、寒気や湿った空気の影響で西日本の日本海側から北陸地方にかけて雨となった。一方、沖縄・奄美や西日本ではおおむね晴れた。8日は、日本海の前線を伴った低気圧が北日本を通過し、沿海州の前線を伴った低気圧が東へ進んだ。これらの影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、北海道では一部で強風となった。9日は、沖縄・奄美から東日本にかけて、高気圧に覆われておおむね晴れたが、上空に寒気を伴った低気圧の影響で、北陸地方や北日本で雨となり、北海道では一部で暴風、東北地方では一部で強風となった。

高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ、前線や日本の南の令和元年東日本台風の影響で東日本の太平洋側で雨、小笠原諸島では大雨や暴風、その後、台風が伊豆半島に上陸し、関東地方を北東に進んだ影響で、四国地方や中国地方から北日本にかけて雨、東日本や東北地方を中心に広い範囲で大雨や暴風(10日～13日)

10日は、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、前線や日本の南の東日本台風の影響で東日本の太平洋側で雨となったところがあったほか、小笠原諸島では大雨となった。11日は、台風が北上した影響で、近畿地方から東北地方にかけて雨となり、小笠原諸島で暴風となったほか、伊豆諸島では一部で強風となった。一方、沖縄・奄美や九州では晴れた。12日は、台風が19時前に伊豆半島に上陸し、関東地方を北東に進んだ。この影響で、四国地方から北日本にかけて雨となり、東日本や東北地方を中心に広い範囲で大雨や暴風となった。13日は、台風が東北地方から日本の東に進み、12時に温帯低気圧に変わった。この影響で、近畿地方や北陸地方の日本海側や北日本で雨となり、東北地方では一部で大雨、九州北部地方や北陸地方では一部で暴風、東北地方や北海道では一部で強風となった。一方、その他の地域ではおおむね晴れた。

前線や湿った空気の影響で、中国地方から北日本にかけて雨、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨、西日本では高気圧に覆われて晴れ、その後、南西諸島から日本の南にかけて停滞した前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨、沖縄地方では一部で大雨(14日～17日)

14日は、本州南岸の前線や湿った空気の影響で、中国地方から東北地方にかけて雨となったほか、低気圧が東へ進んだ影響で、北海道で雨となった。また、湿った空気の影響で沖縄・奄美で雨となったが、西日本では高気圧に覆われて晴れた。15日は、高気圧に覆われて西日本の太平洋側で晴れたが、寒気や湿った空気の影響で西日本から北日本にかけての日本海側で雨となったほか、湿った空気の影響で、関東地方で雨となった。16日は、高気圧に覆われて西日本から東北地方にかけておおむね晴れたが、前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美や東日本の太平洋側で雨となったところがあった。また、気圧の谷の影響で、北海道で雨となったところがあった。17日は、南西諸島から日本の南にかけて停滞した前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となったところがあり、沖縄地方では一部で大雨となった。また、気圧の谷の影響で、北日本で雨となったところがあった。

前線や低気圧の影響で、全国的に雨、西日本や東日本では一部で大雨、その後、台風第20号や前線、台風から変わった温帯低気圧の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨、近畿地方や東日本では一部で大雨、

関東地方では一部で暴風(18日～22日)

18日は、前線上の低気圧が西日本を東に進んだ影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となり、西日本や東日本では一部で大雨となったほか、九州北部地方では雷となったところがあった。19日は、前線や低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、関東地方や伊豆諸島では一部で大雨となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。また、沖縄の南を北上した台風第20号や前線の影響で、沖縄・奄美で雨となった。20日は、台風が沖縄の南を北東に進んだ影響で、沖縄・奄美で雨となったほか、低気圧や湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけて雨となったところがあった。21日は、四国沖に進んだ台風や前線の影響で、沖縄・奄美や西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に雨となり、近畿地方や東海地方、伊豆諸島では一部で大雨となったほか、東海地方では雷となったところがあった。一方、北日本は高気圧に覆われておおむね晴れた。22日は、前線や台風から変わった温帯低気圧が本州南岸を北東に進んだ影響で、近畿地方から東北地方にかけて雨となり、関東地方や伊豆諸島では一部で大雨、関東地方では一部で暴風、東海地方では一部で強風となったほか、東海地方では雷となったところがあった。一方、西日本は高気圧に覆われておおむね晴れた。

東日本から北日本にかけてはおおむね晴れたが、東シナ海の低気圧の影響で、奄美地方から九州北部地方にかけて雨、その後、低気圧が九州南部を通過し、西日本から東日本の太平洋沿岸に沿って進んだ影響で、西日本から北日本にかけて雨、四国地方や東日本では一部で大雨、台風第21号の影響で小笠原諸島では暴風(23日～26日)

23日は、東シナ海の低気圧の影響で、奄美地方から九州北部地方にかけて雨となったが、東日本や北日本では高気圧に覆われておおむね晴れた。24日は、九州南部を通過した低気圧や湿った空気の影響で、西日本から東日本にかけて雨となり、四国地方や東海地方では一部で大雨となったほか、九州北部地方では雷となったところがあった。また、台風第21号が通過した影響で、小笠原諸島では暴風となった。25日は、西日本から東日本の太平洋沿岸に沿って進んだ低気圧や台風第21号の影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、東日本や東北地方では一部で大雨となったほか、東海地方や関東地方では雷となったところがあった。26日は、三陸沖の低気圧や日本海の前線を伴った低気圧の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や北日本で雨となった。

西日本から北日本にかけて、高気圧に覆われて晴れたが、東シナ海から本州南岸にかけて停滞した前線の影響で、奄美地方や九州南部で雨、その後、低気圧や前線の影響で、全国的に雨(27日～31日)

27日は、沖縄・奄美や西日本では、高気圧に覆われておおむね晴れたが、気圧の谷や湿った空気の影響で、東日本から北日本にかけて雨となったところがあった。28日は、高気圧に覆われて、九州北部地方から北日本にかけて晴れたが、東シナ海から本州南岸にかけて停滞した前線の影響で、奄美地方や九州南部では雨となった。29日は、日本の南の低気圧や引き続き停滞した前線の影響で、沖縄・奄美から東北地方にかけて雨となったほか、沿海州の低気圧からのびる前線が北日本を通過した影響で、北日本で雨となり、北海道では雷となったところがあった。30日から31日は、沖縄・奄美から東日本にかけて高気圧に覆われて晴れたが、低気圧や前線の影響で北日本では雨となったところがあった。

11月

高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れ、低気圧や気圧の谷の影響で、北日本では雨、その後、冬側の気圧配置の影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海側では雨、その他の地域ではおおむね晴れ(1日～4日)

1日は、高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、オホーツク海の前線を伴った低気圧の影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海側を中心に雨となり、北海道では一部で強風となった。2日は、高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で、北海道では雨となったところがあった。3日は、前線の影響で、北陸地方から北日本にかけて雨となったところがあったほか、本州南岸に発生した低気圧の影響で、関東地方で雨となり、雷となったところがあった。また、気圧の谷の影響で、沖縄地方や西日本の日本海側で雨となった。4日は、冬型の気圧配置(以下:冬型)の影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海側では雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れ、前線を伴った低気圧の影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側や北日本では雨、台風第23号の影響で、小笠原諸島では大雨、その後、高気圧に

覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れ、気圧の谷や寒気の影響で西日本から東北地方にかけての日本海側で雨、北海道では雨や雪(5日～9日)

5日から6日は、高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、日本海で発生した前線を伴った低気圧が東に進んだ影響で、北陸地方から北日本にかけての日本海側を中心に雨となり、北海道では一部で強風となった。7日は、日本海で新たに発生した前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側や北日本では雨となり、北海道では雪となったところがあった。一方、その他の地域では、おおむね晴れや曇りとなった。また、台風第23号が南鳥島近海を北に進んだ影響で、小笠原諸島では大雨となった。8日から9日は、高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、気圧の谷の影響で西日本から東北地方にかけての日本海側で雨となったほか、寒気の影響で北海道では雨や雪となった。

高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れ、その後、前線を伴った低気圧が東北地方を通過した影響で、西日本から北日本にかけて雨(10日～12日)

10日は、高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れたが、気圧の谷の影響で、北陸地方では雨となったところがあった。11日は、前線を伴った低気圧が日本海を東に進み東北地方を通過した影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、北陸地方では一部で強風となったほか、近畿地方や東海地方、北陸地方では雷となったところがあった。一方、沖縄・奄美は高気圧に覆われて晴れた。12日は、寒気の影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側や北日本では雨となったが、沖縄・奄美から東日本にかけては高気圧に覆われて晴れた。

前線が通過した影響で、西日本から北日本にかけて雨、その後、北日本中心の冬型の気圧配置の影響で、北陸地方から北日本にかけて雨、北海道では雨や雪、沖縄・奄美から東日本にかけては高気圧に覆われて晴れ(13日～17日)

13日は、沿海州付近の前線を伴った低気圧が東へ進んだ影響で、西日本で雨となり、東日本や北日本では雨となったところがあった。14日は、サハリン付近の発達した低気圧からのびる前線が通過した影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、北海道では雪となったところがあったほか、九州南部や北日本では一部で強風となった。15日は、日本海の前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で、北陸地方や北日本では雨となり、北海道では雨や雪となったほか、一部で強風となった。一方、高気圧に覆われて沖縄・奄美から東日本にかけては晴れた。16日から17日は、北日本中心の冬型の影響で、北陸地方から北日本にかけて雨となり、北海道では雨や雪となった。また、北日本では一部で強風となったほか、北陸地方では雷となったところがあった。西日本の日本海側では気圧の谷の影響で雨となったところがあったが、沖縄・奄美から東日本にかけては高気圧に覆われて晴れた。

日本海の低気圧からのびる前線や南西諸島の停滞前線の影響で、全国的に雨、奄美地方では一部で大雨、その後、冬型の気圧配置やサハリン付近の発達した低気圧の影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側で雨、北日本で雨や雪、北海道では一部で暴風(18日～20日)

18日は、日本海を北東に進んだ低気圧からのびる前線が通過した影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、北海道では雨や雪となったほか、一部で強風となった。また、南西諸島の停滞前線の影響で、沖縄・奄美で雨となり、奄美地方では一部で大雨となった。19日は、前線の影響で、沖縄・奄美や、近畿地方から東日本にかけての太平洋側で雨となったほか、九州南部では一部で強風となった。また、冬型となった影響で、北陸地方から北日本にかけて雨となり、北海道では雨や雪となったほか、一部で強風となった。20日は、サハリン付近の発達した低気圧や冬型が続いた影響で、中国地方から北陸地方にかけての日本海側で雨となり、北日本では雨や雪となったほか、北海道では一部で暴風、東北地方では一部で強風となった。また、沖縄地方では湿った空気の影響で雨となったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

沖縄の南を北上した台風第27号や前線、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側で雨、沖縄・奄美や伊豆諸島の一部で大雨、その後、本州南岸に発生した低気圧の影響で、東海地方から東北地方にかけて雨、関東地方では一部で大雨、前線を伴った低気圧が九州南岸を東に進んだ影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨、九州南部では一部で大雨(21日～24日)

21日は、高気圧に覆われて西日本から東日本にかけて晴れたが、冬型が続いた影響で、北日本の日本海側は雨や雪となった。また、台風第27号が沖縄の南を北上した影響で、沖縄・奄美では雨となった。22日は、台風が沖縄の南を北上し21時に熱帯低気圧に変わった。この台風や前線、気圧の谷の影響で、沖縄・奄美から東

日本にかけての太平洋側で雨となり、沖縄・奄美や伊豆諸島の一部では大雨となった。一方、北日本では高気圧に覆われて晴れた。23日は、本州南岸に発生した低気圧と湿った空気の影響で、東海地方から東北地方にかけての太平洋側で雨となり、関東地方では一部で大雨となった。また、南西諸島付近の熱帯低気圧の影響で、沖縄・奄美で雨となったが、西日本や北日本ではおおむね晴れた。24日は、前線を伴った低気圧が九州南岸を東に進んだ影響で、沖縄・奄美から四国地方にかけて雨となり、九州南部では一部で大雨となったほか、九州では雷となったところがあった。また、日本の東の低気圧と湿った空気の影響で、関東甲信地方や東北地方で雨となった。

前線が通過した影響で、西日本から北日本の日本海側で雨、北海道では雪、その後、本州南岸の低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美や西日本、東日本の太平洋側で雨、北日本の冬型の気圧配置の影響で、北陸地方から北日本にかけて雨や雪、北海道では雪(25日～30日)

25日は、千島近海の低気圧からのびる前線が通過した影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雨となり、北海道では雪となったところがあった。また、本州南岸の低気圧や前線の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側で雨となったところがあった。26日は、気圧の谷や湿った空気の影響で近畿地方から関東甲信地方の太平洋側で雨となったが、西日本や北日本では晴れたところがあった。27日は、サハリン付近の低気圧からのびる前線が北日本を通過した影響で、北日本の日本海側では雨となり、北海道では雨や雪となった。また、気圧の谷の影響で、西日本から東日本にかけて雨となった。28日は、本州南岸の低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美や西日本、東日本の太平洋側で雨となった。また、冬型となった影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雨や雪となり、北海道では雪となった。29日から30日は、冬型が続いた影響で、西日本から北日本にかけての日本海側で雨や雪となり、太平洋側ではおおむね晴れた。

12月

低気圧や前線の影響で全国的に雨や雪、九州北部地方では一部で大雨、その後、オホーツク海の低気圧が発達し、冬型の気圧配置となった影響で西日本から東日本にかけての日本海側で雨、北日本で雪、北海道では一部で暴風、湿った空気の影響で、沖縄・奄美で雨、沖縄地方では一部で暴風(1日～6日)

1日は、東シナ海の前線を伴った低気圧の影響で、九州南部から中国地方にかけて雨となり、九州北部地方では一部で大雨となったほか、九州では雷となったところがあった。また、日本海の低気圧からのびる前線が北日本を通過した影響で、北日本の日本海側で雨となり、北海道では雪となったところがあった。2日は、前線を伴った低気圧が西日本を通過した。また、日本海の低気圧からのびる前線が西日本から北日本を通過した。これらの影響で、全国的に雨となり、北海道では雪となったところがあったほか、沖縄・奄美や北海道では一部で強風となった。3日から4日は、オホーツク海の低気圧が発達し、冬型の気圧配置(以下:冬型)となった。この影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北日本では雪となったほか、北海道では一部で暴風となり、北陸地方では雷となったところがあった。一方、西日本から東日本にかけての太平洋側ではおおむね晴れた。5日から6日は、冬型が続いた影響で、西日本の日本海側で雨となり、北陸地方から北日本にかけて雪となったほか、湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨となり、沖縄地方では一部で暴風となった。

前線を伴った低気圧の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨、北日本で雨や雪、湿った空気の影響で沖縄・奄美や九州南部で雨、その後、高気圧に覆われて沖縄・奄美から東日本にかけて晴れ、寒気や低気圧の影響で、北日本で雨や雪(7日～10日)

7日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過した影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北日本では雨や雪となったほか、北海道では一部で強風となった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美や九州南部で雨となり、沖縄・奄美では一部で強風となったほか、日本の東の低気圧の影響で、東日本の太平洋側で雨となったところがあった。8日は、高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側を中心に晴れた。一方、寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北日本では雪となったほか、北海道では一部で強風となった。9日は、高気圧に覆われて、ほぼ全国的に晴れたが、湿った空気の影響で、東日本の太平洋側で雨となったところがあったほか、日本海の低気圧の影響で、北海道では雪となったところがあった。10日は、気圧の谷の影響で、北日本の日本海側で雨や雪となったほか、湿った空気の影響で、沖縄地方や東日本の太平洋側で雨となったところがあったが、その他の地域ではおおむね晴れた。

サハリン付近の発達した低気圧からのびる前線が通過し冬型となった影響で、西日本から東日本にかけての

日本海側で雨となり、北日本で雨や雪、北海道では一部で暴風、その後、冬型の気圧配置となった影響で西日本から東日本にかけての日本海側で雨、北日本で雨や雪、関東地方では一部で暴風(11日～15日)

11日は、日本海の前線を伴った低気圧の影響で、北日本の日本海側で雨や雪となった。また、湿った空気の影響で、沖縄・奄美では雨となったほか、日本の東の低気圧の影響で、東日本の太平洋側では雨となったところがあり、関東地方では雷となったところがあった。12日は、サハリン付近の発達した低気圧からのびる前線が通過し冬型となった影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北日本で雨や雪となったほか、北海道では一部で暴風、東北地方では一部で強風となり、北陸地方や北海道では雷となったところがあった。一方、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側では晴れた。13日は、高気圧に覆われて、西日本を中心に晴れたが、寒気の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となったところがあり、北日本では雪となったところがあった。14日は、前線を伴った低気圧が北日本を通過して冬型となった影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北日本で雨や雪となったほか、関東地方では一部で暴風となった。一方、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側では晴れた。15日は、高気圧に覆われて、沖縄・奄美から東日本にかけて晴れたが、寒気の影響で、北陸地方や北日本で雨や雪となったところがあった。

高気圧に覆われて、近畿地方から東北地方にかけて晴れ、気圧の谷や湿った空気の影響で、奄美地方から中国地方にかけて雨、九州南部では一部で大雨、その後、前線が通過し冬型の気圧配置となった影響で、西日本から北日本にかけて雨、北海道では雪(16日～18日)

16日は、引き続き高気圧に覆われて、近畿地方から東北地方にかけて晴れたが、気圧の谷や湿った空気の影響で、奄美地方から中国地方にかけて雨となり、九州南部では一部で大雨となった。また、気圧の谷の影響で、北日本では雪となったところがあった。17日は、沿海州付近の低気圧からのびる前線や日本の南の低気圧の影響で、西日本から北日本にかけて雨となり、北海道では雪となったところがあった。18日は、オホーツク海の低気圧からのびる前線が西日本から北日本にかけて通過し、冬型となった影響で、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雨となり、北海道では雪となった。また、気圧の谷の影響で沖縄・奄美で雨となった。

低気圧や気圧の谷の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や東日本の太平洋側で雨、北海道では雪、前線の影響で沖縄・奄美で雨、その後、冬型の気圧配置となった影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨、北日本で雪、西日本から東日本にかけての太平洋側で晴れ(19日～21日)

19日は、日本海の低気圧や気圧の谷の影響で、西日本から東日本にかけての日本海側や東日本の太平洋側で雨となったところがあり、北日本では雪となったところがあった。また、前線の影響で沖縄・奄美で雨となった。20日は、低気圧が北日本を通過し冬型となった影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北日本で雪となったが、西日本から東日本にかけての太平洋側は晴れた。また、前線の影響で沖縄・奄美で雨となった。21日は、前線や湿った空気の影響で、沖縄・奄美から九州にかけて雨となったほか、日本海と日本の東の低気圧の影響で、北陸地方から北日本にかけて雨や雪となった。

南西諸島付近で発生した低気圧が日本の南を東に進んだ影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨、九州南部では一部で大雨、暴風、その後、冬型の気圧配置となった影響で、西日本から北日本にかけて雨や雪、東シナ海の低気圧の影響で、沖縄・奄美から中国地方にかけて雨(22日～25日)

22日は、東シナ海で前線上に低気圧が発生し、日本の南を東に進んだ。この影響で、沖縄・奄美から東日本にかけて雨となり、九州南部では一部で大雨、暴風となった。また、寒気の影響で、北海道では雪となった。23日は、日本の東海上の低気圧や日本海の低気圧の影響で、中国地方から東日本にかけて雨となり、関東甲信地方で雪となった所があったほか、北日本では雪となった。また、北陸地方では雷となったところがあった。24日は、冬型となった影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北日本で雪となった。一方、沖縄・奄美から北日本にかけての太平洋側ではおおむね晴れた。25日は、東シナ海の低気圧の影響で、沖縄・奄美から中国地方にかけて雨となったほか、日本海の低気圧が通過した影響で、北日本で雨や雪となった。その他の地域では、高気圧に覆われて晴れた。

低気圧が本州南岸を東に進み、別の低気圧が日本海を東に進んだ後、冬型の気圧配置となった影響で、ほぼ全国的に雨、東日本から北日本にかけて雪、九州南部では一部で暴風、その後、低気圧や前線の影響で、全国的に雨、北日本では雪、北陸地方では一部で暴風(26日～31日)

26日から27日は、前線を伴った低気圧が本州南岸を東に進み、別の低気圧が日本海を東に進んだ後、冬型となった。この影響で、ほぼ全国的に雨となり、東日本から北日本にかけては雪となった。また、九州南部では

一部で暴風となり、西日本から北日本にかけて一部で強風となった。28日は、冬型が続いた影響で、西日本の日本海側で雨となり、北陸地方から北日本にかけて雪となったが、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側はおおむね晴れた。29日は、高気圧に覆われて東日本から東北地方にかけて晴れたが、冬型の影響で北海道では雪となったほか、湿った空気や東シナ海の前線を伴った低気圧の影響で、四国地方や中国地方では雨となった。30日は、西日本の前線を伴った低気圧や日本海の前線を伴った低気圧の影響で、全国的に雨となり、北日本では雨や雪となった。31日は、オホーツク海の低気圧からのびる前線が通過した影響で、西日本から東日本にかけての日本海側で雨となり、北陸地方から北日本にかけて雨や雪となったほか、北陸地方では一部で暴風、北海道では一部で強風となった。また、南西諸島から日本の南にのびる前線の影響で、沖縄・奄美から東日本にかけての太平洋側で雨となったところがあり、沖縄・奄美や九州南部、関東地方では一部で強風となった。